

# 家庭と地域の教育力に関する市民意識調査

～最近の子どもたちをどう思いますか？～

## 結果報告書

平成 23 年 3 月

新潟市教育委員会 生涯学習課

## はじめに

新潟市教育委員会では、本市の教育の方向と在り方を指し示した「新潟市教育ビジョン」に沿った取組を着実に進めるために「後期実施計画（平成 22～26 年度）」を策定し、「生涯を通じて学び育つ活動を支援し、家庭・地域の教育力を高める」ことを重点的な取組のうちの 1 つとしています。

家庭教育はすべての教育の原点であり、親やその保護者が子どもに対して基本的な生活習慣を身につけさせ、自立心・自主性を育成し、他人に対する思いやりの心や命を大切にする気持ち、倫理感などを育み、健康な体力をつけるなど、心身の調和のとれた発達を図るうえで、きわめて重要な役割を果たします。しかし、近年、少子高齢化や核家族化による家族形態の変化や、価値観の多様化により子どもや家庭を取り巻く環境は厳しく、家庭の教育力の低下や子育ての状況の困難さなどが社会問題化しています。

家庭教育支援のための地域社会全体での取組が必要となっておりますが、人間関係の希薄化、地域の連帯感が失われる中で、改めて地域の教育力再生の取組が必要であると考えます。

本報告書は、新潟市における子どもたちの育ちについて、また、それらを育む地域の状況はどのようなものであるか、大人はどのような意識を持ち、子どもたちとどのように接しているか、市民の皆様の意識について調査をおこない結果をまとめたものです。

実施にあたっては、第 29 期新潟市社会教育委員会会議において、調査項目の検討をおこない、各章ごとに委員からの解説を加えていただきました。同会議では、平成 22 年 5 月から「家庭と地域における教育力の向上について」協議を進めていただいております。今後は、新潟市内において企業や地域団体、NPO、大学など社会全般が地域の教育力に果たしている実態と意向の把握につとめ、平成 23 年度中に建議としてまとめていただきたいと思います。

最後になりましたが、調査にご協力をいただいた数多くの市民の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

新潟市教育委員会 生涯学習課

---

## 目次

I. 調査概要.....	1
II. 調査結果.....	9
1. 家庭における教育力について.....	11
(1) 子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なこと.....	11
(2) 自身の子ども時代と比べての、今の家庭の教育力.....	12
(3) 低下したと思う理由.....	13
(4) 自身の子ども時代と比べての、今の子育ての状況.....	14
(5) 困難になっていると思う理由.....	15
(6) 家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について.....	16
「1. 家庭における教育力について」の総括.....	17
2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて.....	19
(1) 地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なこと.....	19
(2) 自身の子ども時代に比べての、地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみ.....	20
(3) 低下したと思う理由.....	21
(4) 普段交流する人.....	23
(5) 住民どうしのつながりが深まるために必要なこと.....	26
(6) 地域の子どもたちの様子.....	27
(7) 子どもたちの、おもな遊び場.....	28
(8) 地域の子どもたちとの、普段の接し方.....	29
① 悪いことをしたとき、しかったり注意したりする.....	29
② 良いことをしたとき、ほめる.....	30
③ 危険な行動をみたとき、注意する.....	31
④ 道であったとき、あいさつする.....	32
⑤ 様子が気になったとき、声をかける.....	33
⑥ 困っているとき、相談にのる.....	34
「2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて」の総括.....	35
3. 地域の子どもたちとかかわる活動について.....	37
(1) 最近一年間に参加したことがある活動.....	37
(2) 活動に参加したきっかけ.....	39
(3) 今後の活動参加意向.....	41
(4) 活動に参加したいと思う理由.....	42
(5) 活動に参加したいと思わない理由.....	43
(6) 活動に参加していない理由.....	44
(7) 今後、参加してみたい活動.....	45
(8) 地域全体での子育てのために、力を入れたらよいと思うこと.....	46
「3. 地域の子どもたちとかかわる活動について」の総括.....	47
4. 自由記述(概略).....	49
III. 自由記述.....	51
IV. 全体結果数表.....	61
V. 調査票.....	75

---

# I . 調查概要

---

## 1 調査目的

本市の各家庭においておこなわれている子どもへの教育や、地域全体で子どもたちを育てていくことについての意識や要望を把握し、今後の施策を検討するための基礎資料として活用するため本調査を実施する。

## 2 調査項目

- (1) 家庭における教育力について
- (2) 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようにすについて
- (3) 地域の子どもたちとかかわる活動について

## 3 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市全域
- (2) 調査対象 平成22年8月末日現在の住民基本台帳に登載されている20歳以上の市民
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 区の人口によって層化し、住民基本台帳から等間隔抽出
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 平成22年10月25日～11月8日

## 4 集計結果の数字の見方

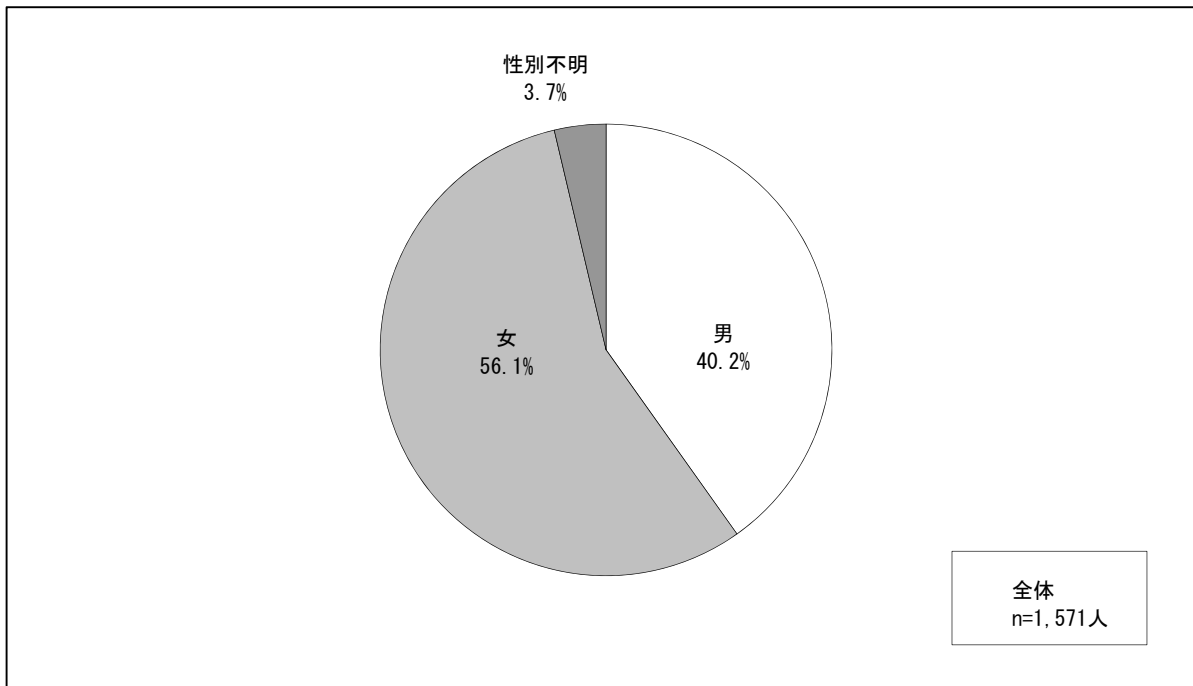
- (1) 結果は百分率（％）で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。  
また、複数回答（2つ以上の回答）では、合計が100%を超える場合がある。
  - (2) 図表中の「n」は、質問に対する回答者の総数を示し、回答者の比率（％）を算出するための基数である。
-

## 5 回収結果

		母集団数	構成比 (%) (母集団)	標本数	有効 回答数	回収率 (%)
市全体		657,407	100	3,000	1,571	52.4
性別	1 男性	312,633	47.6	1,416	631	44.6
	2 女性	344,774	52.4	1,584	882	55.7
	3 性別無回答				58	
年代	1 20~29歳	86,934	13.2	433	134	30.9
	2 30~39歳	113,795	17.3	541	265	49.0
	3 40~49歳	102,087	15.5	411	224	54.5
	4 50~59歳	109,416	16.6	499	284	56.9
	5 60~69歳	111,888	17.0	488	316	64.8
	6 70歳以上	133,287	20.3	628	284	45.2
	7 年代無回答				64	
地区	1 北区	62,765	9.5	290	139	47.9
	2 東区	113,062	17.2	518	244	47.1
	3 中央区	143,578	21.8	646	330	51.1
	4 江南区	56,357	8.6	259	135	52.1
	5 秋葉区	64,326	9.8	294	133	45.2
	6 南区	38,564	5.9	177	93	52.5
	7 西区	127,837	19.4	584	310	53.1
	8 西蒲区	50,918	7.7	232	130	56.0
居住地区無回答					57	

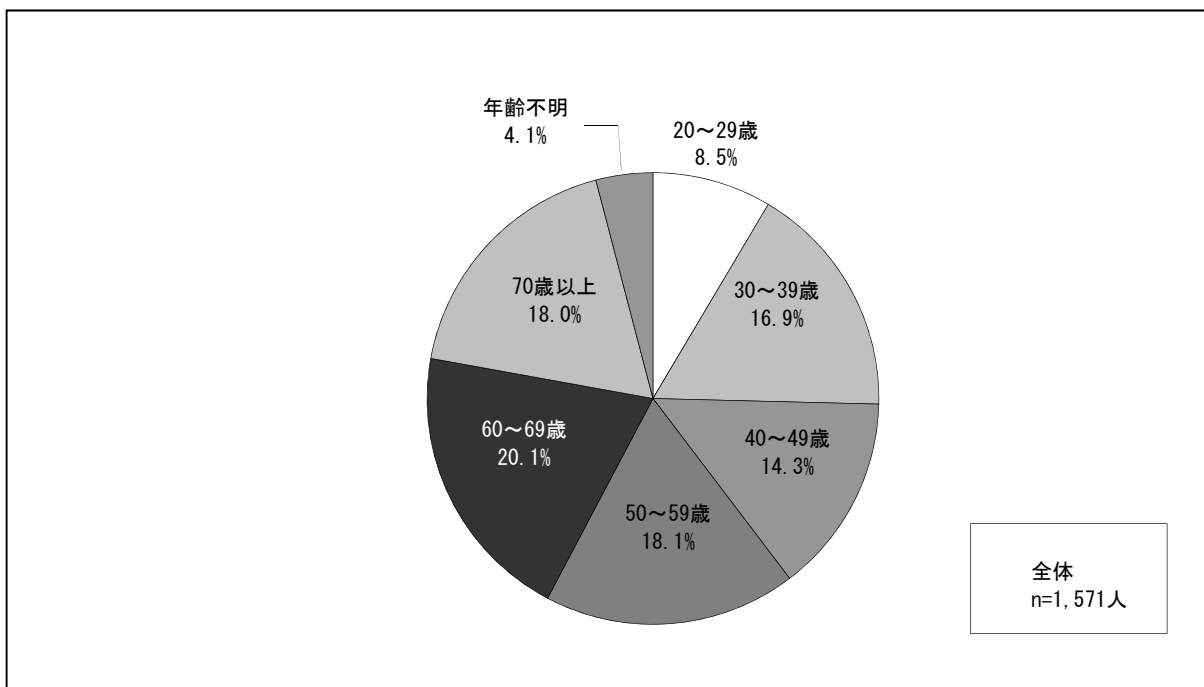
## 6 回答者の構成

### (1) 性別



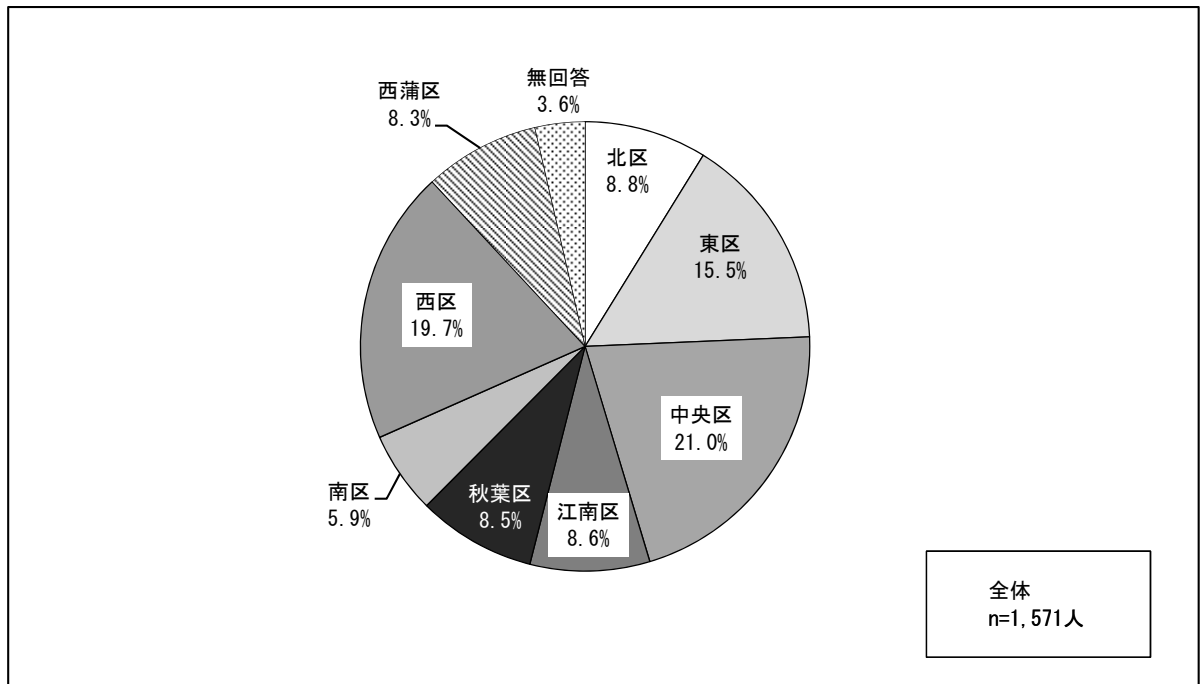
男性が40.2%に対し女性は56.1%と女性が多い。

### (2) 年齢別



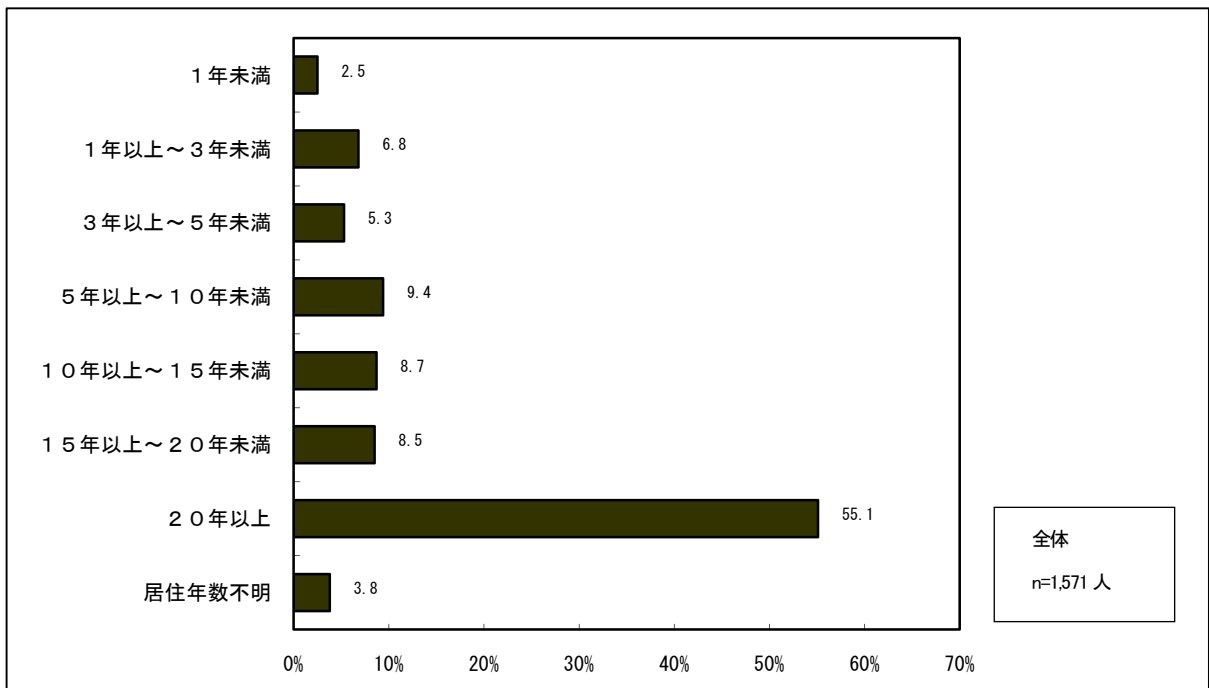
最も多いのは60~69歳 (20.1%)。最も少ないのは20~29歳 (8.5%)。

### (3) 居住地区別



どの地区も母集団数に対する構成比とほぼ同じ割合であった。

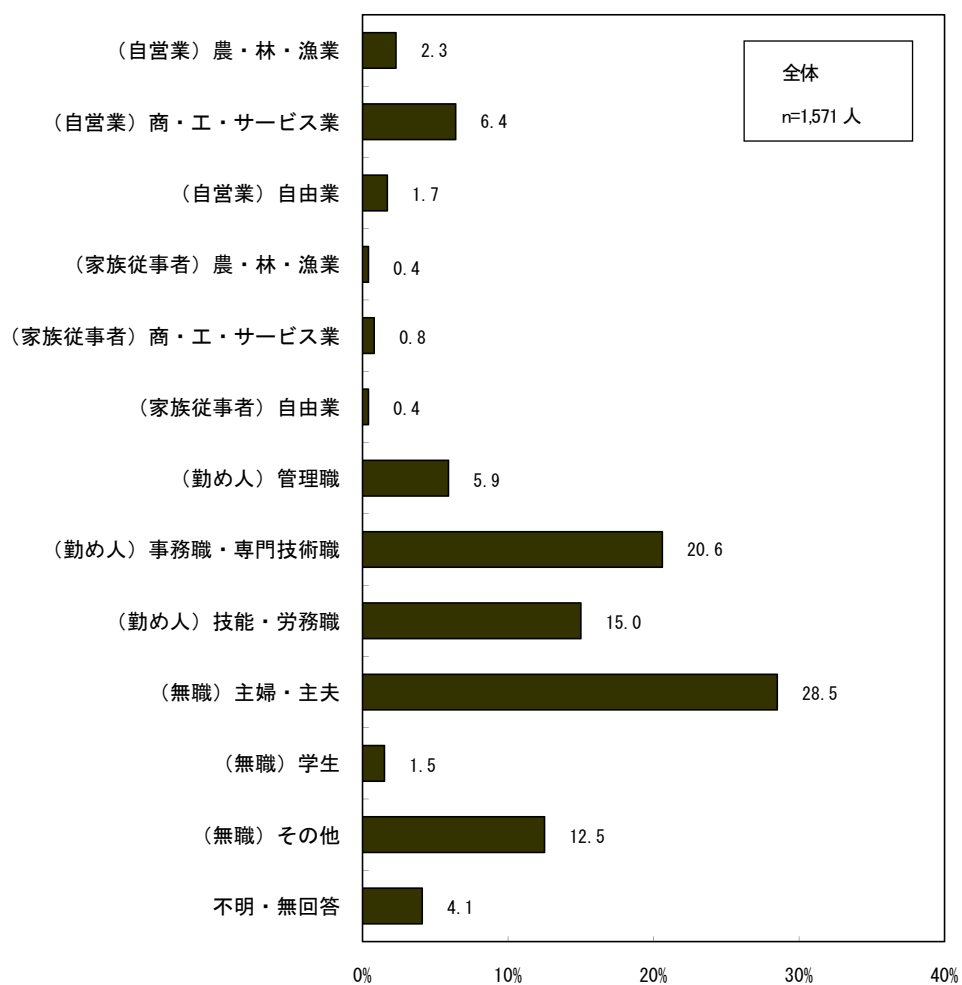
### (4) 居住年数別



最も多いのは20年以上居住している人で半数以上を占める。

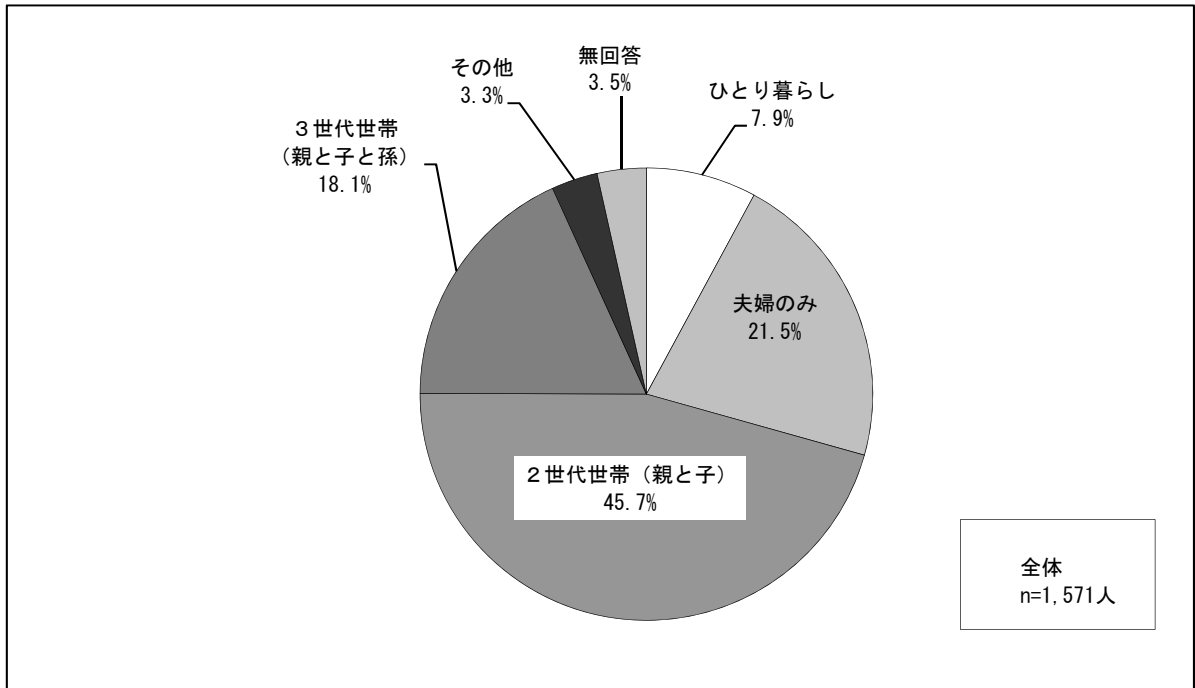


## (5) 職業別



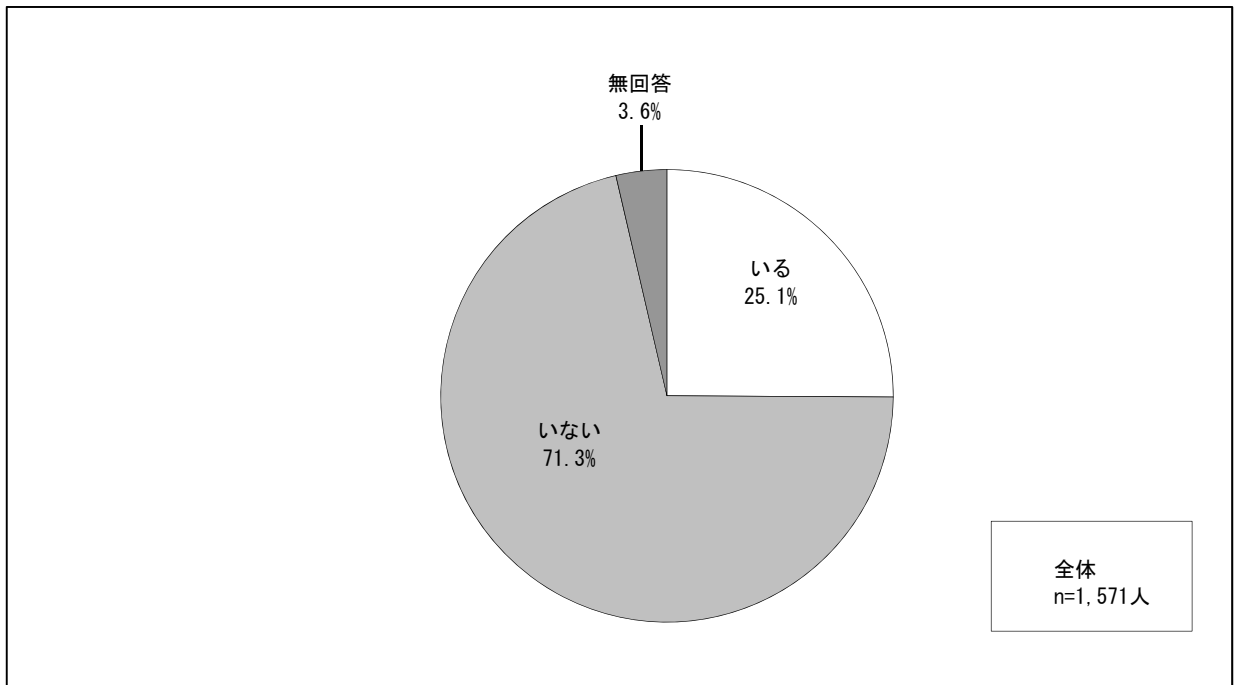
最も多いのは「主婦・主夫」で3割近くを占める。次に多いのは「事務職・専門技術職」で約2割を占める。

(6) 家族構成別



最も多いのは親と子の2世代世帯で半数近くを占める。

(7) 子ども (0歳~中学生) の有無別



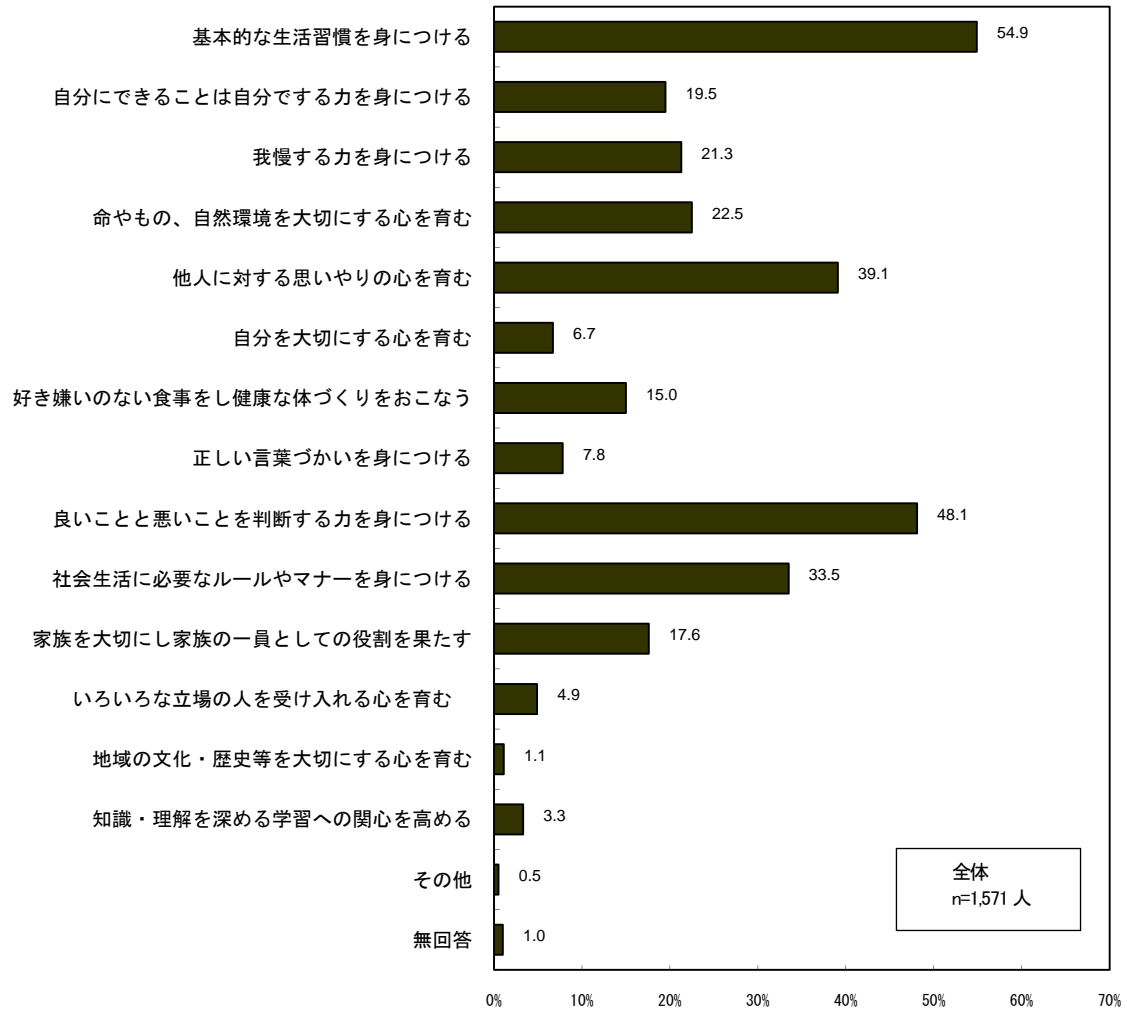
中学生以下の子どもがいる人は、全体の約1/4。

## II. 調查結果

# 1. 家庭における教育力について

## (1) 子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なこと

問1. あなたは、子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



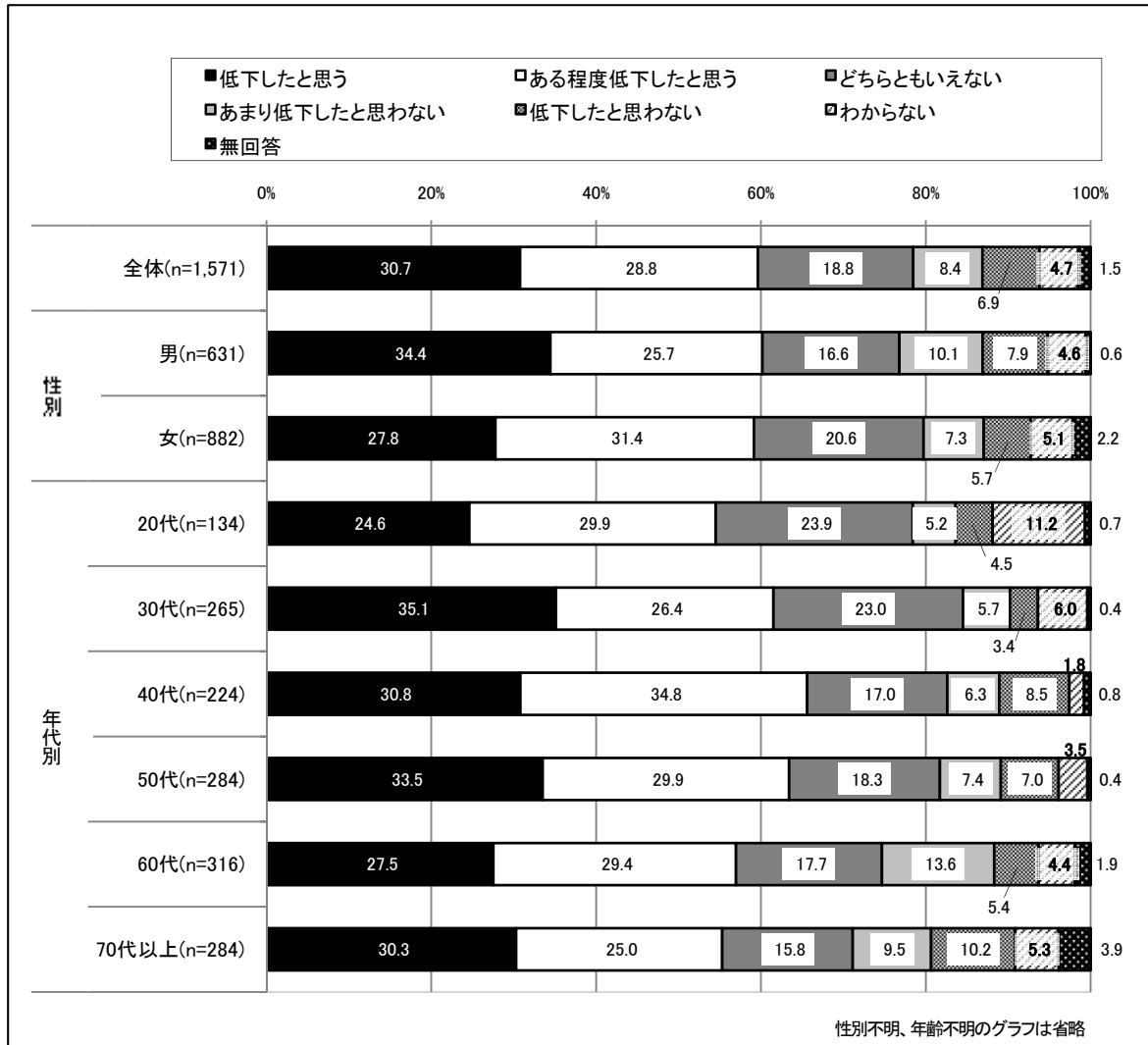
「基本的な生活習慣を身につける」ことが特に大切だと思っている人が半数以上

最も多いのは「基本的な生活習慣を身につける」で5割以上(54.9%)を占めている。次に「良いことと悪いことを判断する力を身につける」(48.1%)、「他人に対する思いやりの心を育む」(39.1%)、「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」(33.5%)の順に続く。

「地域の文化・歴史等を大切にすることを育む」「知識・理解を深める学習への関心を高める」「いろいろな立場の人を受け入れる心を育む」といった回答は5%に満たない。

## (2) 自身の子ども時代と比べての、今の家庭の教育力

問2. 今の家庭の教育力は、ご自身の子ども時代と比べてどのようなだと思いますか。  
あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



### 約6割の人が家庭の教育力が低下したと感じている

「低下したと思う」と回答した人(30.7%)が最も多かった。「ある程度低下したと思う」は28.8%。合わせると約6割の人が低下したと感じている。

「あまり低下したと思わない」(8.4%)、「低下したと思わない」(6.9%)は、合わせて2割に満たない。

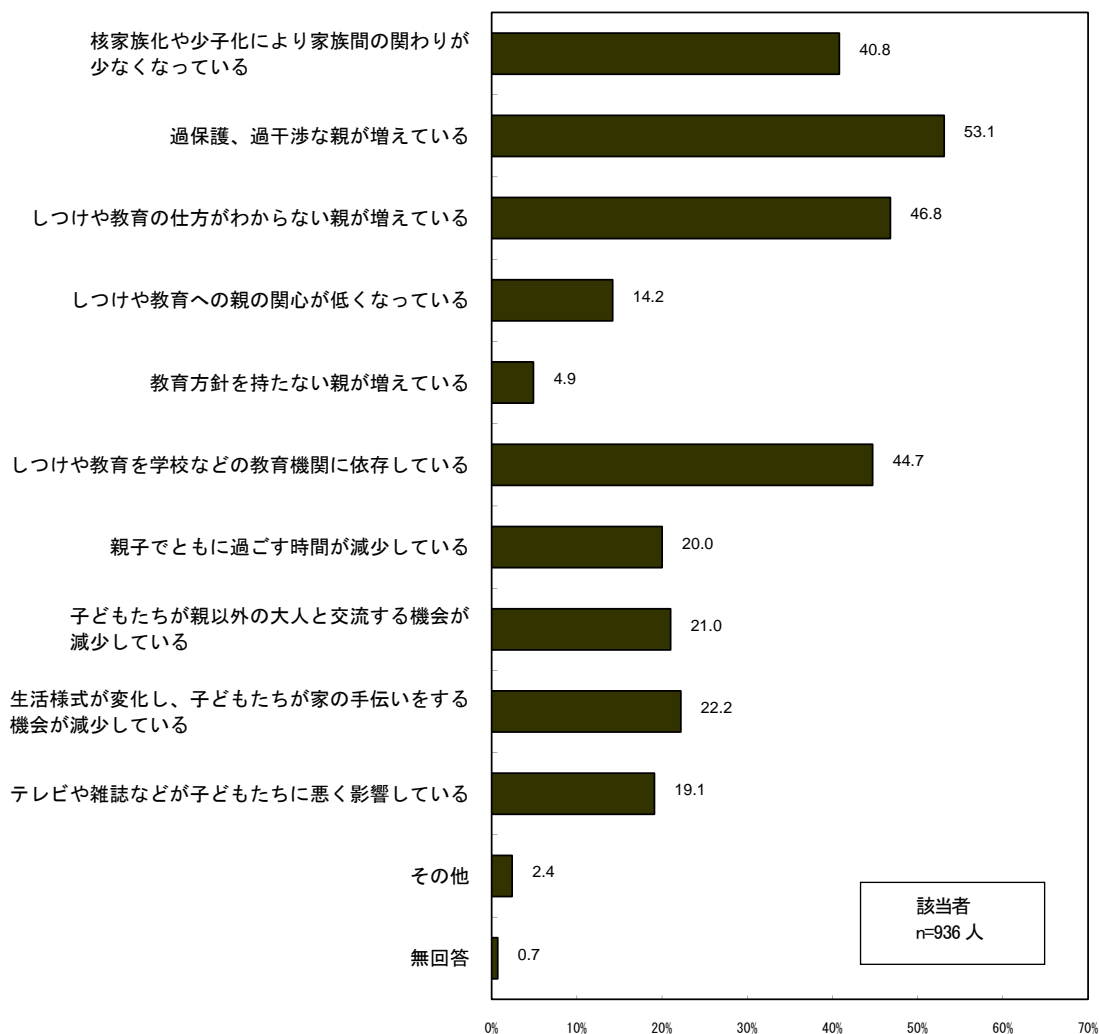
男女別で見ると、「低下したと思う」は、男性34.4%、女性27.8%、「ある程度低下したと思う」は男性25.7%、女性31.4%であり、「低下したと思う」と「ある程度低下したと思う」を合わせた割合に男女による差は大きくない。

年代別で見ると、「低下したと思う」と「ある程度低下したと思う」を合わせた割合が最も高いのは40代(65.6%)。次いで50代(63.4%)、30代(61.5%)の順で続く。

### (3) 低下したと思う理由

問3. 問2で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にかがいます。

「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。(SA)



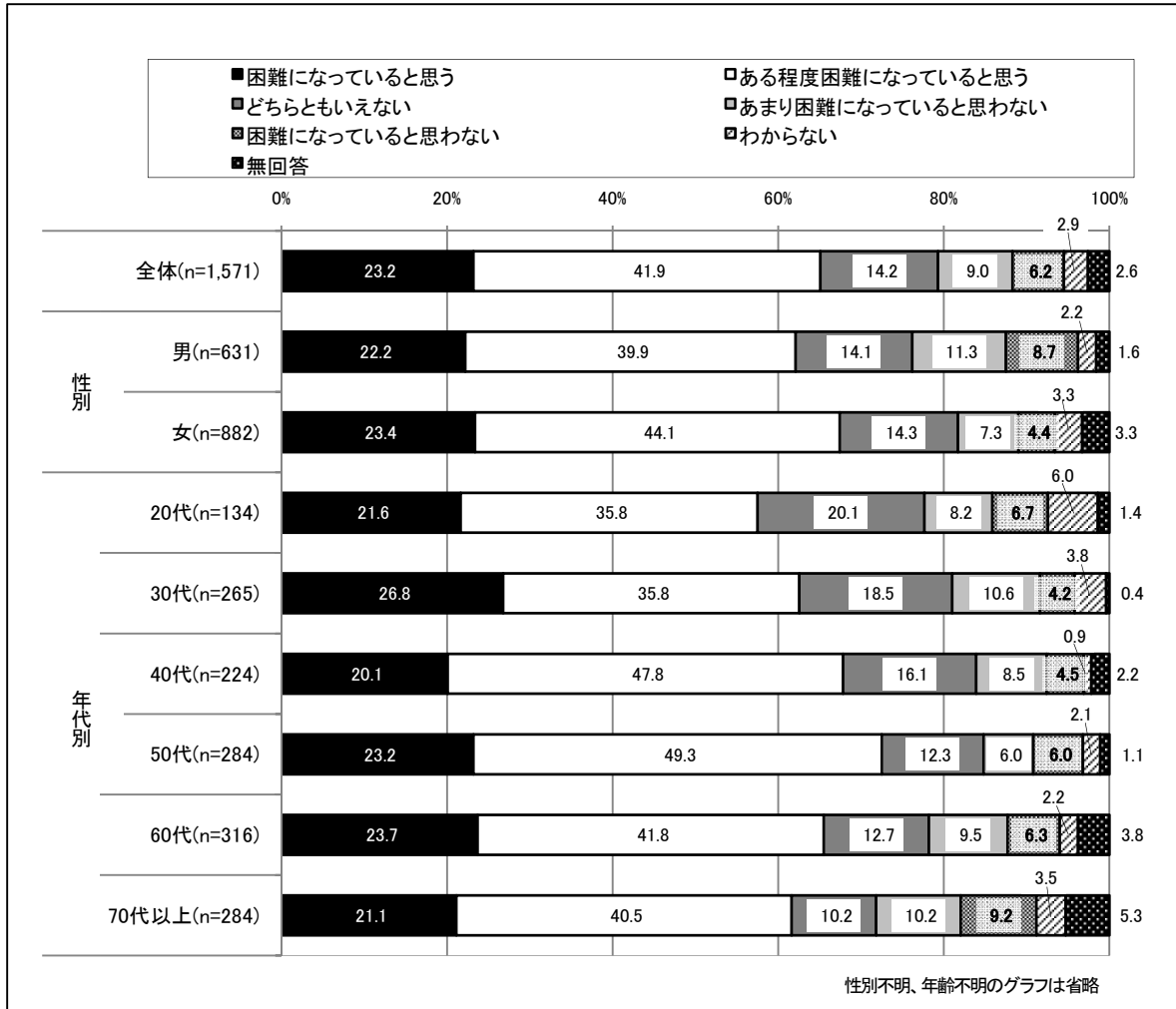
#### 「過保護、過干渉」「しつけや教育の仕方がわからない」「学校などの教育機関に依存」の親が増えている

「過保護、過干渉な親が増えている」(53.1%)と回答した人が最も多く半数を超す。次に「しつけや教育の仕方がわからない親が増えている」(46.8%)、「しつけや教育を学校などの教育機関に依存している」(44.7%)と、しつけに関する回答が続き、その次に「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」(40.8%)が多い。

#### (4) 自身の子ども時代と比べての、今の子育ての状況

問4. ご自身の子ども時代と比べて、今の子育ての状況はどのようだと思いますか。

あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



#### 約6割の人が子育てが困難になっていると感じている

「ある程度困難になっていると思う」と回答した人(41.9%)が最も多かった。「困難になっていると思う」は23.2%。合わせて65.1%と約2/3の人が困難になっていると感じている。

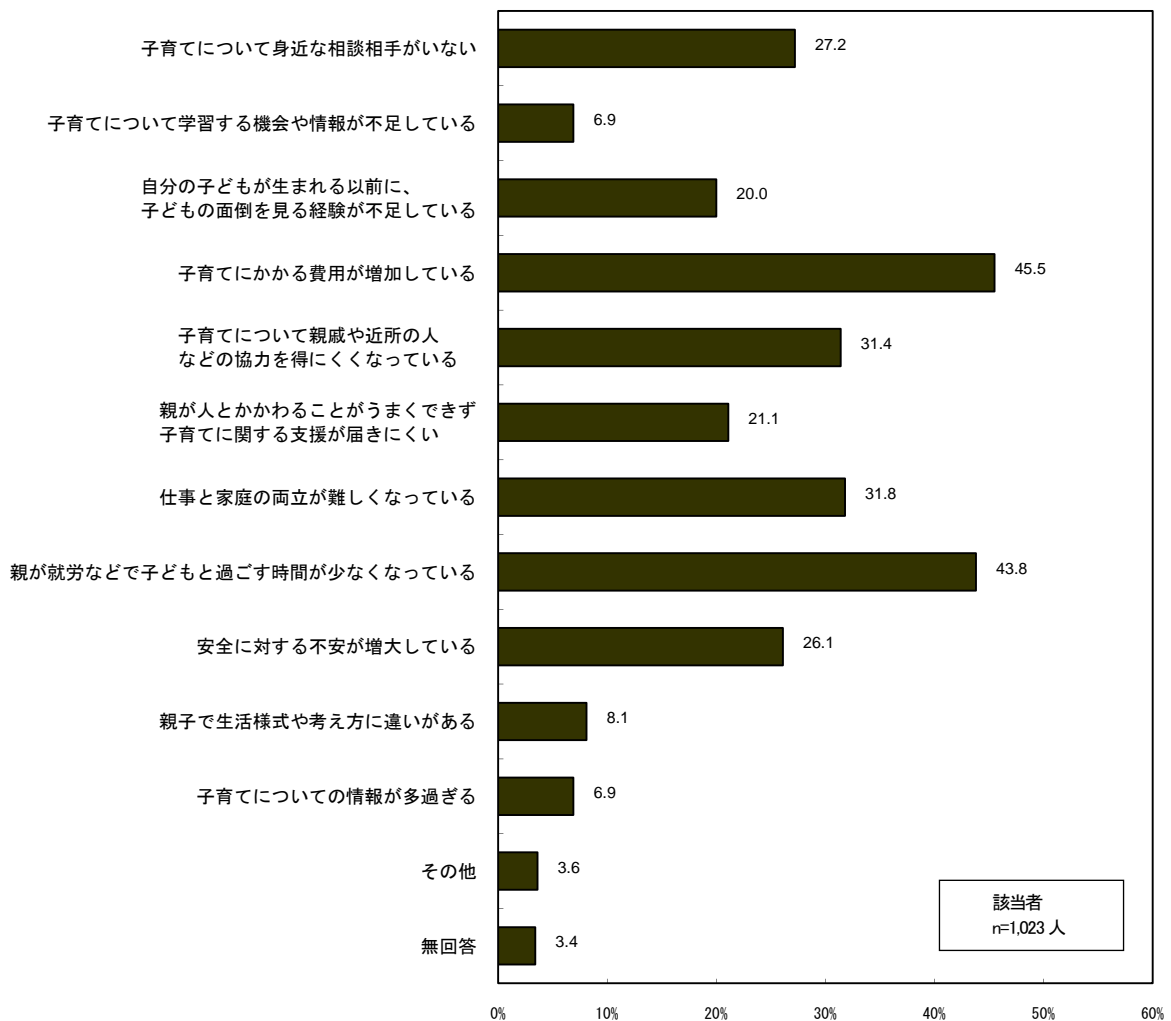
「あまり困難になっていないと思う」(9.0%)、「困難になっていないと思う」(6.2%)は、合わせて2割に満たない。

男女別で見ると、「困難になっていると思う」は、男性22.2%、女性23.4%、「ある程度困難になっていると思う」は男性39.9%、女性44.1%であり、女性の方が困難になっていると感じている割合は高い。

年代別で見ると、「困難になっていると思う」と「ある程度困難になっていると思う」を合わせた割合が最も高いのは50代(72.5%)で7割を超えている。

## (5) 困難になっていると思う理由

問5.問4で、「1 困難になっていると思う」「2 ある程度困難になっていると思う」とお答えの方にかがいます。  
「困難になっていると思う」「ある程度困難になっていると思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



「子育てにかかる費用が増加している」  
「親が子どもと過ごす時間が少なくなっている」と感じている人が4割以上

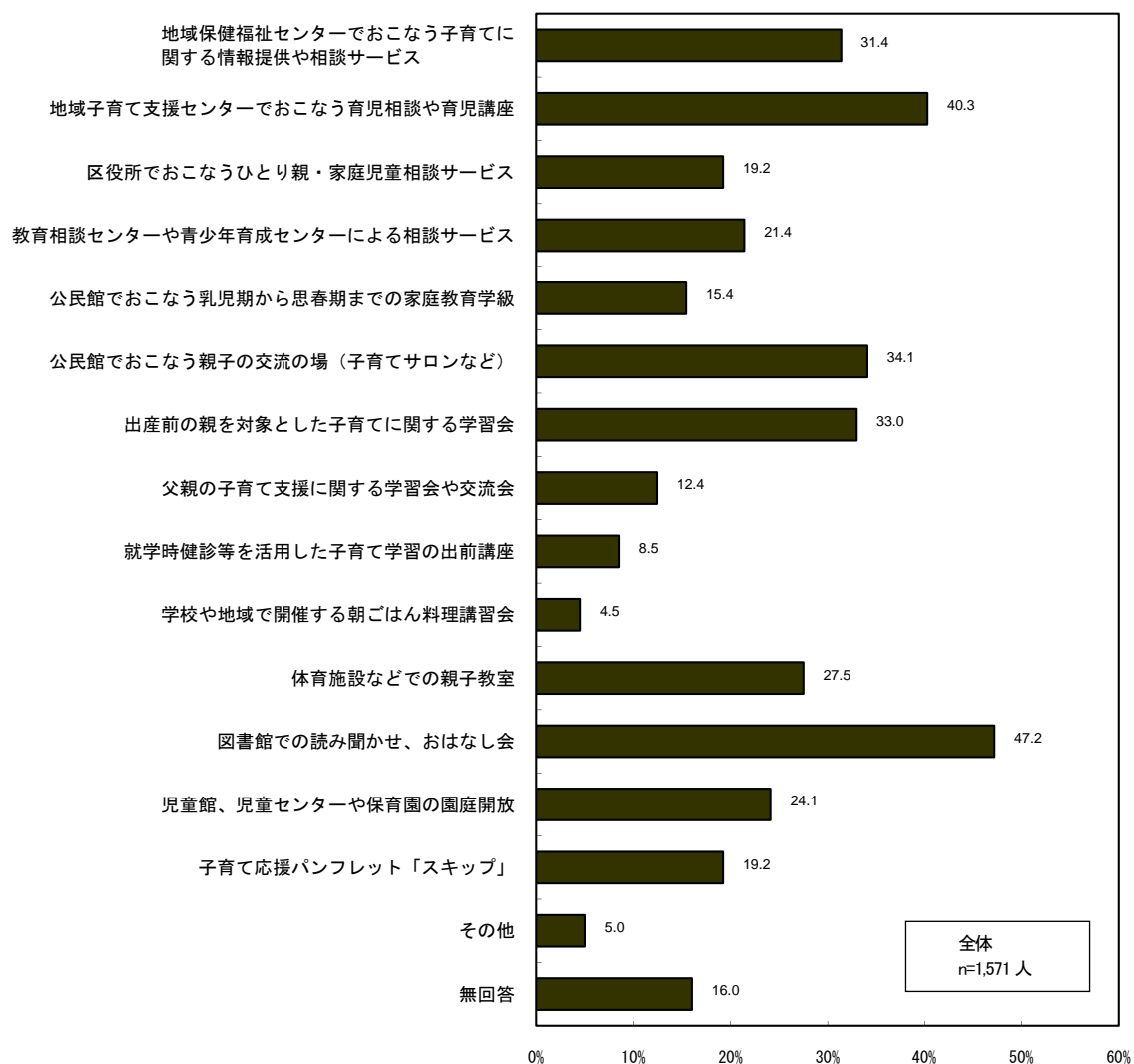
「子育てにかかる費用が増加している」と答えた人(45.5%)が最も多く半数近くを占める。次に「親が就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている」(43.8%)、「仕事と家庭の両立が難しくなっている」(31.8%)、「子育てについて親戚や近所の人などの協力を得にくくなっている」(31.4%)の順に続く。

「子育てについての情報が多過ぎる」(6.9%)、「子育てについて学習する機会や情報が不足している」(6.9%)「親子で生活様式や考え方に違いがある」(8.1%)と答えた人は1割に満たない。



## (6) 家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について

問6. あなたは、家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について、どのようなものをご存知ですか。知っているものの番号に、いくつでも○をつけてください。(MA)



最もよく知られている「図書館での読み聞かせ、おはなし会」でも半数以下

「図書館での読み聞かせ、おはなし会」と答えた人（47.2%）が最も多く半数近くを占める。次に「地域子育て支援センターでおこなう育児相談や育児講座」（40.3%）、「公民館でおこなう親子の交流の場（子育てサロンなど）」（34.1%）、「出産前の親を対象とした子育てに関する学習会」（33.0%）、「地域保健福祉センターでおこなう子育てに関する情報提供や相談サービス」（31.4%）の順に続く。

「学校や地域で開催する朝ごはん料理講習会」（4.5%）、「就学時健診等を活用した子育て学習の出前講座」（8.5%）は1割に満たない。

---

## 「1. 家庭における教育力について」の総括

家庭において身につける力として特に大切なことは、「基本的な生活習慣」、「良いことと悪いことを判断する力」、「他人に対する思いやりの心」が上位の三つを占めている。そのほか、「社会生活に必要なルールやマナー」も高い数値を示している。この結果は、平成19年度に国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（以下、「国社研」という。）が実施した『家庭教育支援に係る地域の教育力の活性化に関する調査研究報告書』による調査結果と同様の傾向を示している。教育基本法第10条では、家庭の役割として「生活のために必要な習慣を身につけさせる」、「自立心を育成する」、「心身の調和のとれた発達を図る」が規定されている。調査の結果から「生活のために必要な習慣」は家庭において身につける力として特に大切であると思っている人（54.9%）が5割以上で多いが、「自立心を育成する」や「心身の調和のとれた発達を図る」に関する項目は2割以下であり、特に大切であると思っている人の割合は少なかった。

家庭の教育力については、「低下したと思う」、「ある程度低下したと思う」を合わせて約6割（59.5%）という結果であった。この結果は、国社研の調査結果（83.0%）に比べて2割以上も少ない。また、「低下したと思わない」、「あまり低下したと思わない」を合わせた人が国社研調査では1.9%だったのに対して、新潟市では15.3%と高くなっていて、これらのことから、新潟市は全国に比べて、家庭の教育力が低下したとと思っている人が少なく、低下したと思わない人が多いと言える。年代別では、30歳～50歳代が低下していると感じている人が多く、いずれも6割を超えている。地域別では、中央区や西区が低下したと感じている人が多く、秋葉区、西蒲区がやや少ない。家庭の教育力と地域の教育力との関連では、「家庭の教育力が低下した」と思っている人は、「自身の子ども時代と比べて地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみが低下した」と思っているという傾向が見られた。（22ページ グラフ参照）

家庭の教育力が低下したと思う理由では、国社研調査と同様に、「過保護、過干渉な親が増えている」、「しつけや教育の仕方がわからない親が増えている」、「しつけや教育を学校などの教育機関に依存している」が上位三つを占めている。そのほか、「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」が4割を超えて高い数値を示している。年代別では、20歳代、30歳代が「過保護、過干渉な親が増えている」を理由に挙げている人が6割を超えて多く、若い世代が「過保護、過干渉な親が増えている」を家庭の教育力が低下した理由として考えていることがうかがえる。また、50歳代、60歳代は、「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」が5割近くあり、他の年代に比べて高くなっている。団塊の世代（61歳～63歳）では、「核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている」が5割を超えて高くなっている。これらのことから、50歳代以上の人たちは「家族間の関わりが少なくなってきた」を家庭の教育力が低下した理由として考えていることがうかがえる。

子育ての状況では、「困難になっていると思う」、「ある程度困難になっていると思う」を合わせて65.1%で、約3分の2の人が自分の子ども時代に比べて子育てが困難になっていると感じている。性別では、女性が男性に比べて困難に感じている人が多く、5ポイント高くなっている。年代別では、50歳代が困難に感じている人が7割を超えて多く、続いて40歳代（67.9%）、60歳代（65.5%）の順になっている。最も低いのは20歳代の57.4%であった。地域別では、南区（71.0%）と東区（70.1%）が困難になっていると感じている人が多く、どちらも7割を超えていた。それに対して、秋葉区は58.6%で最も少なかった。

---

---

子育ての状況が困難になっている理由では、「子育てにかかる費用が増加している」、「親の就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている」、「仕事と家庭の両立が難しくなっている」、「子育てについて親戚や近所の人などの協力を得にくくなっている」を挙げている人が多かった。性別では、女性は「子育てにかかる費用が増加している」(47.9%)を理由に挙げている人が最も多かったのに対して、男性は「親の就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている」(45.9%)が最も多かった。また、「安全に対する不安が増大している」に関しては、女性(31.1%)が男性(19.1%)に比べて12ポイントも高くなっている。年代別では、40歳代が「子育てにかかる費用が増加している」を理由に挙げている人が5割を超えて最も多く、30歳代がそれに続いている。また、「親戚や近所の人などの協力が得にくくなっている」は、20歳代が45.5%で最も多い。地域別では、「子育てにかかる費用が増加している」については、南区(54.5%)、西蒲区(53.7%)、東区(50.3%)が5割を超えているのに対して、中央区は36.8%で約15ポイントも少なかった。「子育てについて身近な相談相手がない」については、中央区(31.1%)、西区(30.2%)が3割を超えているのに対して、西蒲区(17.1%)、南区(18.2%)は約12ポイント少なくなっている。さらに、「親戚や近所の人などの協力が得にくくなっている」は、西区(36.6%)、東区(35.7%)に比べて南区(24.2%)、西蒲区(24.4%)が11ポイント少なく、「安全に対する不安が増大している」では、東区(29.2%)に比べて江南区(18.0%)が11ポイント少なくなっている。このように、子育ての状況が困難になっている理由の項目で、区ごとに数値の違いが多く見られた。団塊の世代(61歳~63歳)では、「親の就労で子どもと過ごす時間が少ない」を理由に挙げている人が5割を超えて多かった。

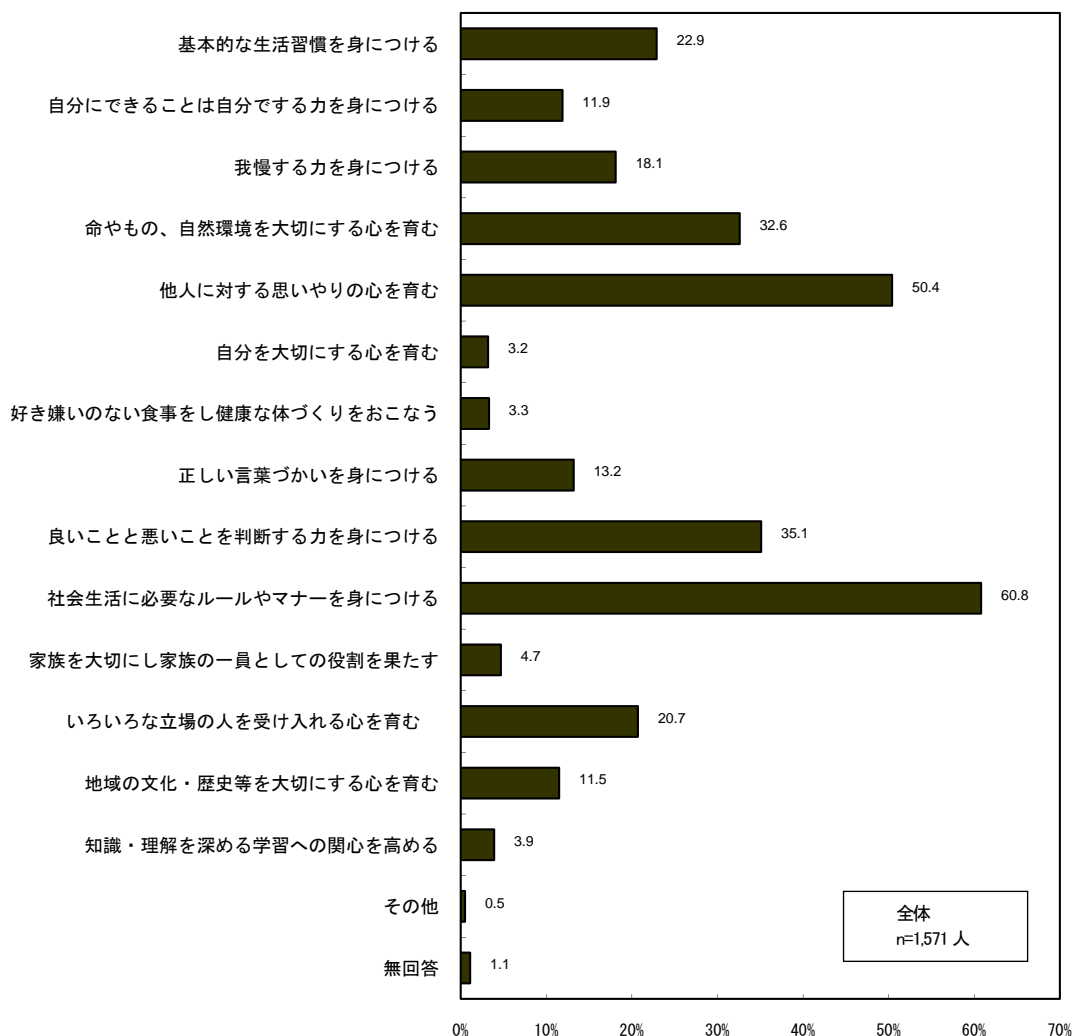
新潟市がおこなっている施策の周知については、「図書館での読み聞かせ、おはなし会」が47.2%で最も多かったが、どの施策も半数以下の結果であり、施策が十分に周知されていない実態が浮き彫りになった。性別では、女性がすべての施策で男性に比べて高い数値を示している。年代別では、30歳代で「図書館での読み聞かせ、おはなし会」(59.6%)、「地域子育て支援センターでおこなう育児相談や育児講座」(54.0%)、40歳代で「図書館での読み聞かせ、おはなし会」(57.1%)がそれぞれ5割を超えているのを始め、30歳代と40歳代は、全体的に他の年代に比べて周知が図られている。地域別では、施設の立地場所にも関係するが、区によって周知に多少ばらつきが見られた。

---

## 2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて

### (1) 地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なこと

問 7. あなたは、普段、生活をしている地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



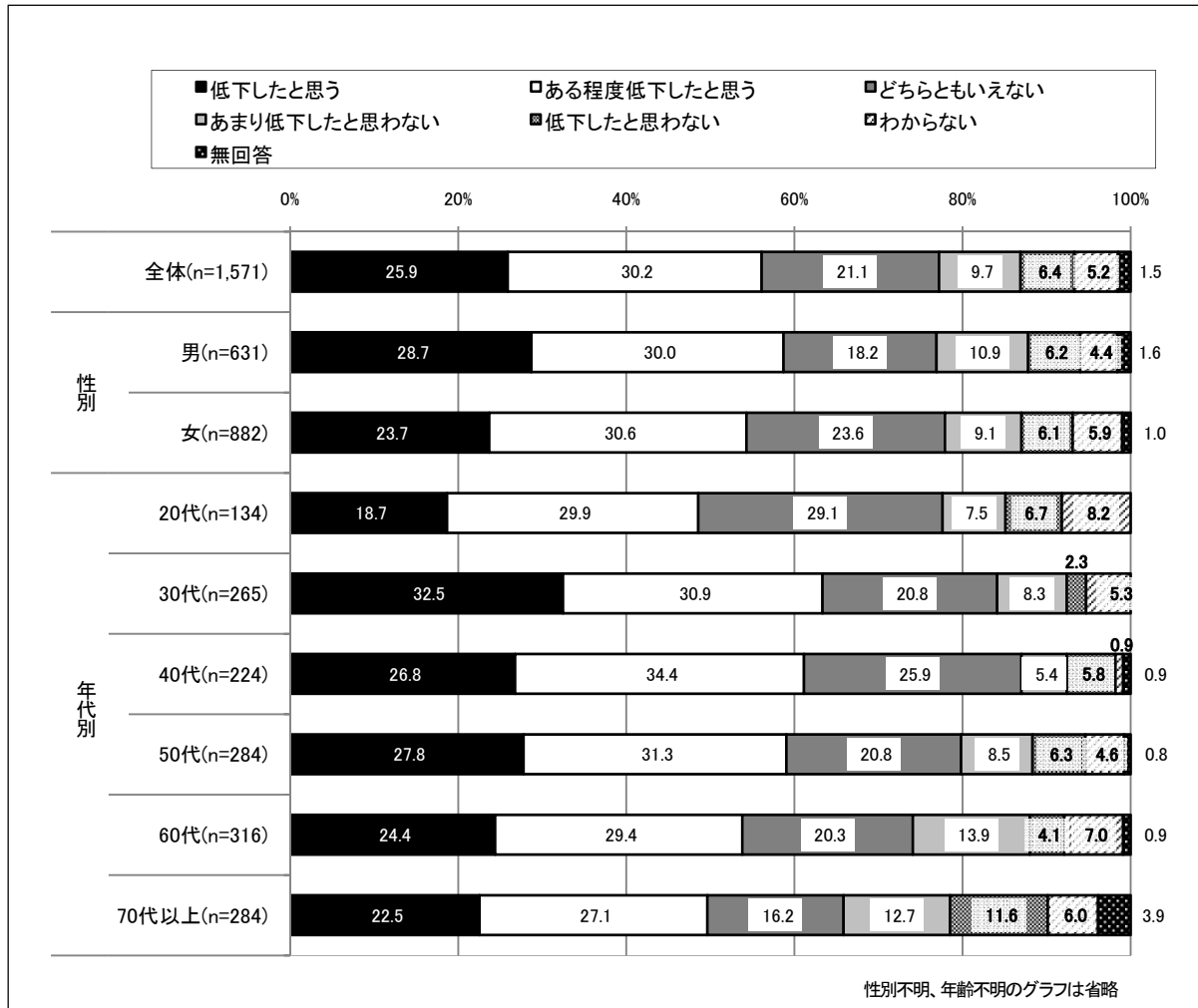
「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」ことが  
特に大切だと思っている人が6割以上

「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」と答えた人 (60.8%) が最も多く6割を超す。次に「他人に対する思いやりの心を育む」(50.4%) が多く半数を超し、「良いことと悪いことを判断する力を身につける」(35.1%) 「命やもの、自然環境を大切にすることを育む」(32.6%) の順に多い。

「自分を大切にすることを育む」(3.2%)、「好き嫌いのない食事をし健康な体づくりをおこなう」(3.3%)、「知識・理解を深める学習への関心を高める」(3.9%)、「家族を大切に家族の一員としての役割を果たす」(4.7%) は5%に満たない。

## (2) 自身の子ども時代と比べての、地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみ

問8. 地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみは、現在ご自身の子ども時代と比べてどのようだと思いますか。  
あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



### 6割近くの人が地域全体で子どもを育て守る雰囲気やしくみに低下を感じている

「ある程度低下したと思う」と回答した人(30.2%)が最も多かった。「低下したと思う」は25.9%。6割近くの人が低下していると感じている。

「あまり低下したと思わない」(9.7%)、「低下したと思わない」(6.4%)は、合わせても2割に満たない。

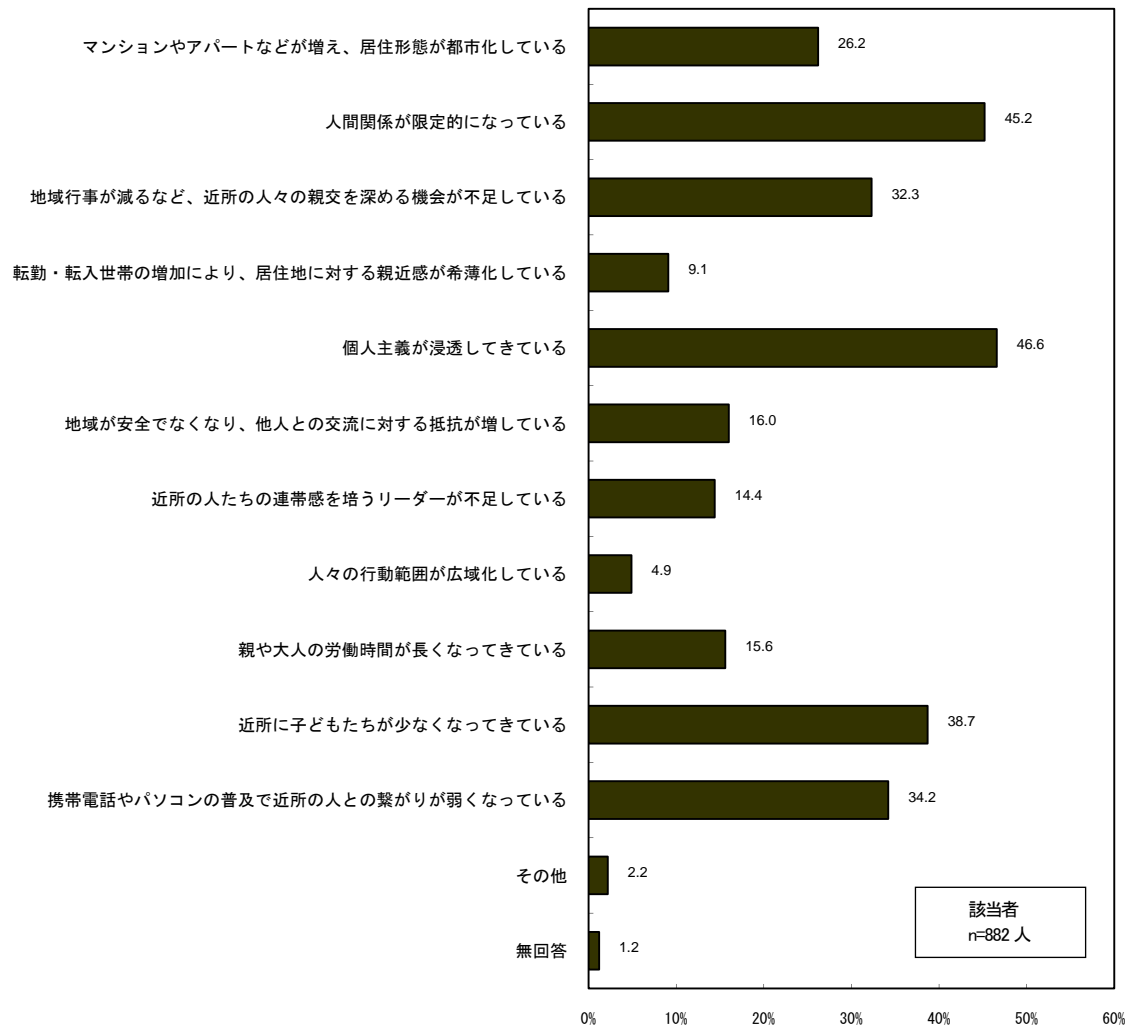
男女別で見ると、「低下したと思う」で男性28.7%、女性23.7%と男性の方が高く、「どちらともいえない」では男性18.2%、女性23.6%で女性の方が高い。「ある程度低下した」「あまり低下したと思わない」「低下したと思わない」では男女に差はほとんどない。

年代別で見ると、「ある程度低下したと思う」について、40代(34.4%)と70代以上(27.1%)との間で差があった。30代では、「低下したと思う」(32.5%)が「ある程度低下したと思う」(30.9%)より多かった。

### (3) 低下したと思う理由

問9.問8で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にかがいます。

「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



#### 「個人主義が浸透」や「限定的な人間関係」が理由だと思っている人が4割以上

「個人主義が浸透してきている」が最も多く 46.6%。次に「人間関係が限定的になっている」が 45.2%と続く。次いで「近所に子どもたちが少なくなっている」(38.7%)、「携帯電話やパソコンの普及で近所の人との繋がりが弱まっている」(34.2%)、「地域行事が減るなど、近所の人々の親交を深める機会が不足している」(32.3%)の順に続く。

「人々の行動範囲が広域化している」(4.9%)、「転勤・転入世帯の増加により、居住地に対する親近感が希薄化している」(9.1%)は1割に満たない。

「個人主義が浸透してきている」では、20代が30.8%と最も低く、50代(53.6%)、40代(48.9%)は高い。

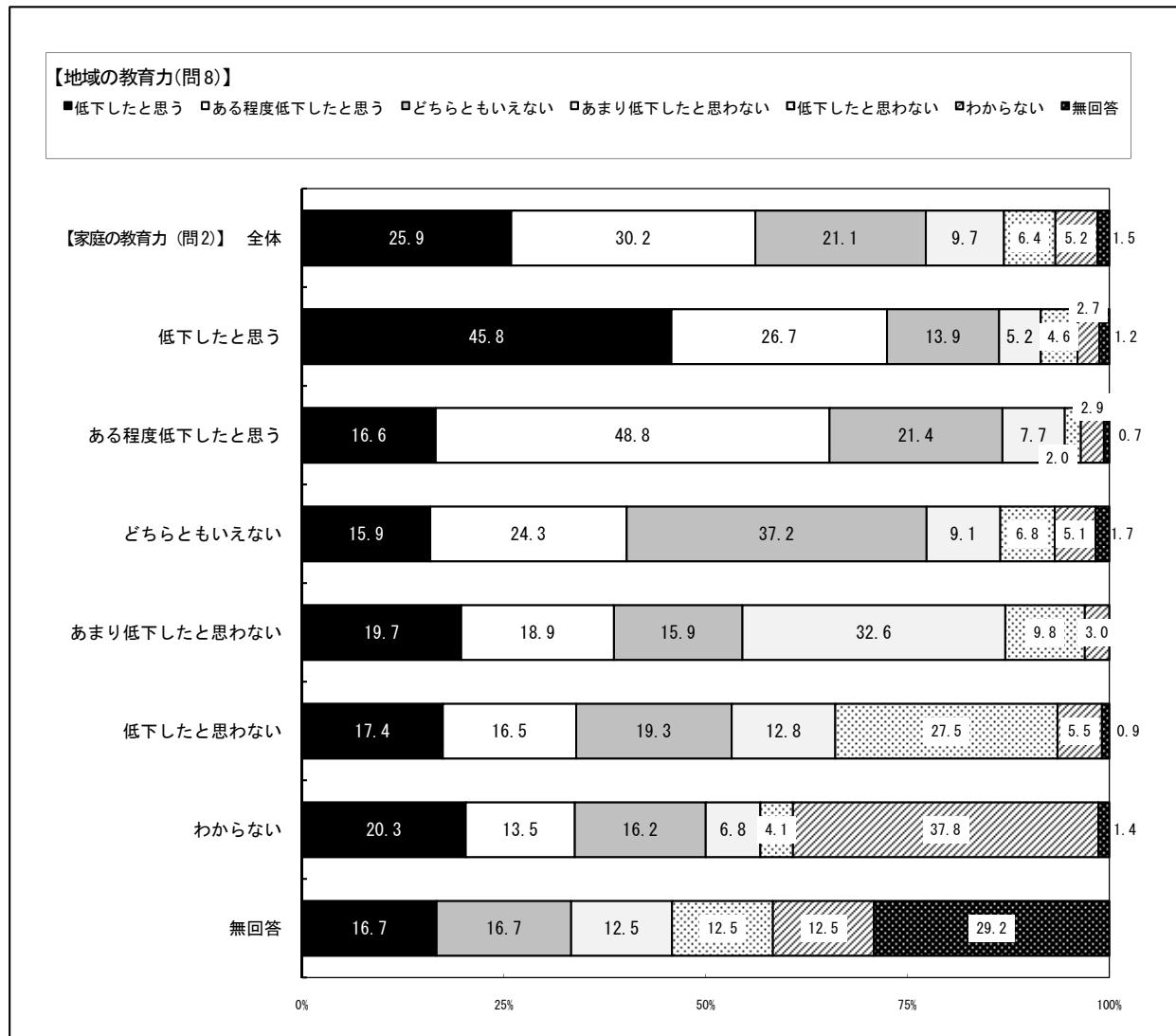
## 地域の教育力に対する意識と家庭の教育力に対する意識の関連

「家庭の教育力が低下した」と「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみが低下した」と両方とも「低下した」と回答している人が 45.8%で、「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみがある程度低下した」の 26.7%を合わせると 72.5%である。

「家庭の教育力がある程度低下した」と回答し、「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみ」が「低下した」「ある程度低下した」の両者を合わせると 65.4%である。

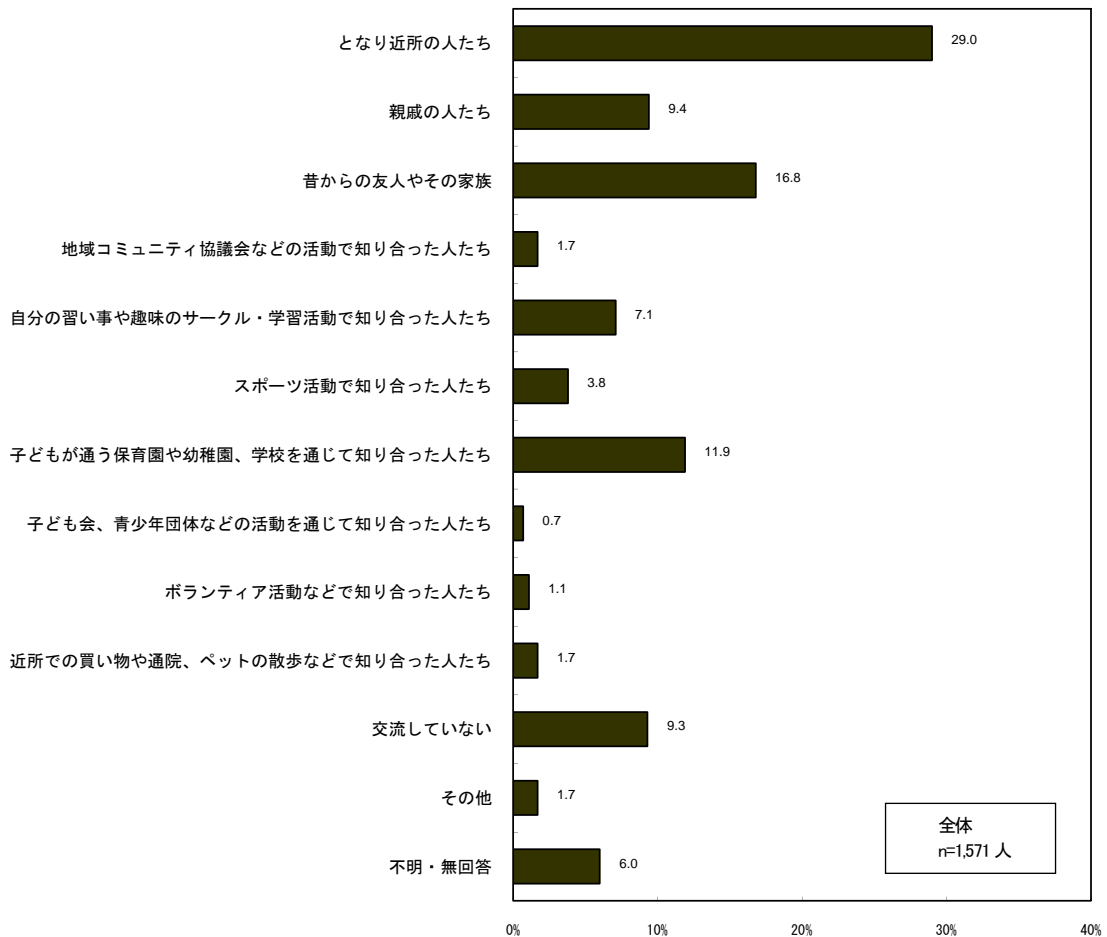
問8. 地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみは、現在、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

問2. 今の家庭の教育力は、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。



#### (4) 普段交流する人

問10. あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。  
もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



#### 住んでいる地域の人と普段「交流していない」人は1割弱

最も多いのは「となり近所の人たち」と答えた人だが、29.0%に留まっている。次に「昔からの友人やその家族」(16.8%)、「子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち」(11.9%)の順に続く。

「交流していない」と答えた人は9.3%と1割に満たない。

「となり近所の人たち」と答えた人を年代別で見ると、20代(19.4%)と30代(16.2%)が低く、40代(20.5%)、50代(34.2%)、60代(34.2%)、70代以上(41.5%)と年代が増すごとに高くなる。



## 普段交流する人と家庭の教育力に対する意識との関連

「家庭の教育力」について「あまり低下したと思わない」と答えた人で、普段交流することが多いのは「となり近所の人たち」と答えた人は 36.4%であった。「低下したと思う」と答えた人で「となり近所の人」と答えた人は 28.4%であった。

問 10. あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

問 2. 今の家庭の教育力は、ご自身の子ども時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	全体 (%)	低下したと思う	ある程度低下したと思う	どちらともいえない	あまり低下したと思わない	低下したと思わない	わからない
となり近所の人たち	29.0	28.4	25.8	32.1	36.4	30.3	25.7
親戚の人たち	9.4	8.5	11.7	7.4	9.1	7.3	14.9
昔からの友人やその家族	16.8	17.8	16.3	17.2	9.8	19.3	21.6
地域コミュニティ協議会などの活動で知り合った人たち	1.7	2.3	1.3	1.4	2.3	-	1.4
自分の習い事や趣味のサークル・学習活動で知り合った人たち	7.1	7.5	7.7	5.7	7.6	7.3	4.1
スポーツ活動で知り合った人たち	3.8	3.5	4.6	2.7	4.5	3.7	2.7
子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち	11.9	9.3	15	14.2	9.8	12.8	5.4
子ども会、青少年団体などの活動を通じて知り合った人たち	0.7	0.4	0.9	0.7	1.5	0.9	-
ボランティア活動などで知り合った人たち	1.1	0.6	2	0.7	0.8	0.9	2.7
近所での買い物や通院、ペットの散歩などで知り合った人たち	1.7	2.1	1.1	1.4	3	0.9	2.7
交流していない	9.3	10.4	8.6	8.4	7.6	10.1	12.2
その他	1.7	2.3	1.3	1	1.5	1.8	2.7

「無回答」は省略

## 普段交流する人と地域の教育力に対する意識との関連

「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしきみ」が「あまり低下したと思わない」人で、普段交流することが多いのは「となり近所の人たち」と答えた人は、40.1%、「低下したと思わない」で「となり近所の人たち」と答えた人は41.0%であった。「地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしきみ」が「低下したと思う」人で、普段交流することが多いのは「となり近所の人たち」と答えた人は、25.1%であった。

問10. あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

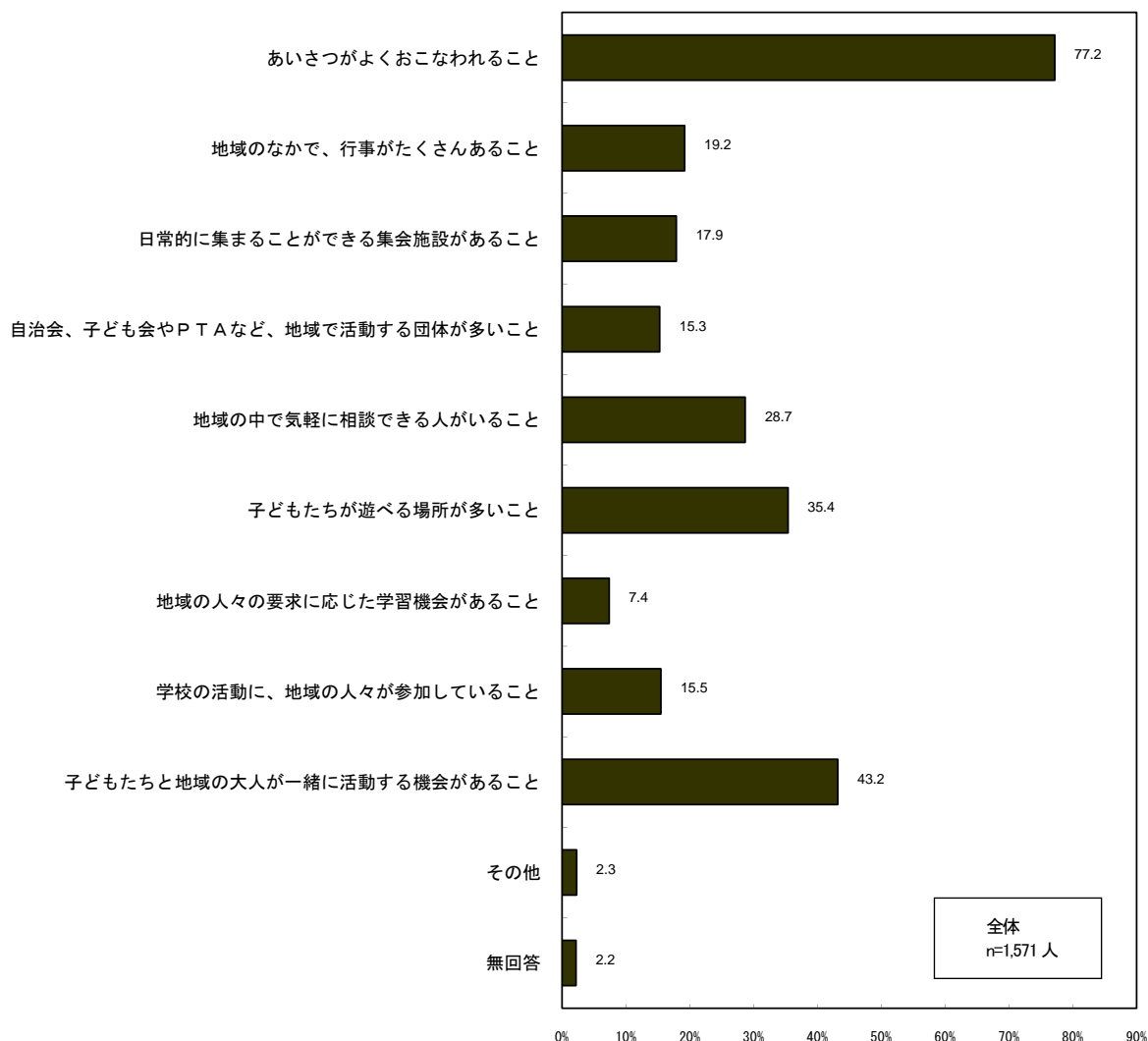
問8. 地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしきみは、現在、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	全体	低下したと思う	ある程度低下したと思う	どちらともいえない	あまり低下したと思わない	低下したと思わない	わからない
(%)							
となり近所の人たち	29.0	25.1	25.7	30.7	40.1	41.0	28
親戚の人たち	9.4	11.8	11.2	7.2	7.9	4.0	7.3
昔からの友人やその家族	16.8	17.7	17.7	17.8	13.2	11.0	19.5
地域コミュニティ協議会などの活動で知り合った人たち	1.7	1.7	1.7	0.6	1.3	4.0	2.4
自分の習い事や趣味のサークル・学習活動で知り合った人たち	7.1	7.6	7.2	7.2	8.6	3.0	6.1
スポーツ活動で知り合った人たち	3.8	4.7	3.6	3.9	3.9	3.0	1.2
子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち	11.9	11.1	13.7	13.9	11.2	9.0	4.9
子ども会、青少年団体などの活動を通じて知り合った人たち	0.7	0.5	0.8	0.9	-	2.0	-
ボランティア活動などで知り合った人たち	1.1	1	1.7	0.9	1.3	-	1.2
近所での買い物や通院、ペットの散歩などで知り合った人たち	1.7	2.9	1.3	0.9	2	1.0	1.2
交流していない	9.3	9.1	9.3	8.7	5.9	10.0	18.3
その他	1.7	1.7	1.9	0.6	0.7	5.0	2.4

「無回答」は省略

## (5) 住民どうしのつながりが深まるために必要なこと

問11. あなたは、あなたが住んでいる地域で、住民どうしのつながりが深まるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



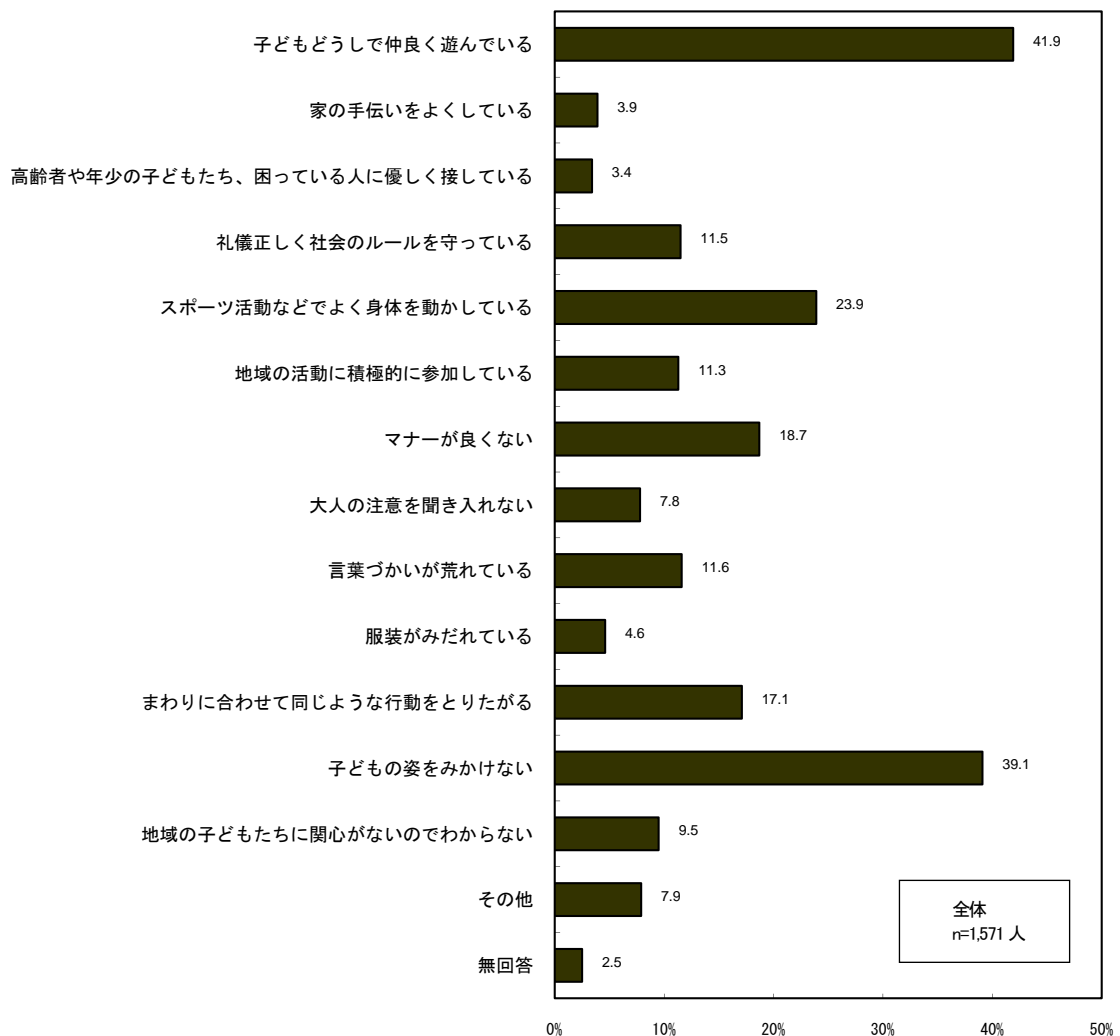
「あいさつがよくおこなわれること」が必要だと思っている人が8割近く

「あいさつがよくおこなわれること」と答えた人(77.2%)が突出して多く8割近くを占める。次に、「子どもたちと地域の大人と一緒に活動する機会があること」(43.2%)、「子どもたちが遊べる場所が多いこと」(35.4%)、「地域の中で気軽に相談できる人がいること」(28.7%)と続く。

「あいさつがよくおこなわれること」と答えた人を年代で見ると、20代(85.8%)、60代以上(84.5%)で高く、最も低いのは40代で69.2%であった。

## (6) 地域の子どもの様子

問12. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもの様子について、どのようなと感じていますか。  
あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



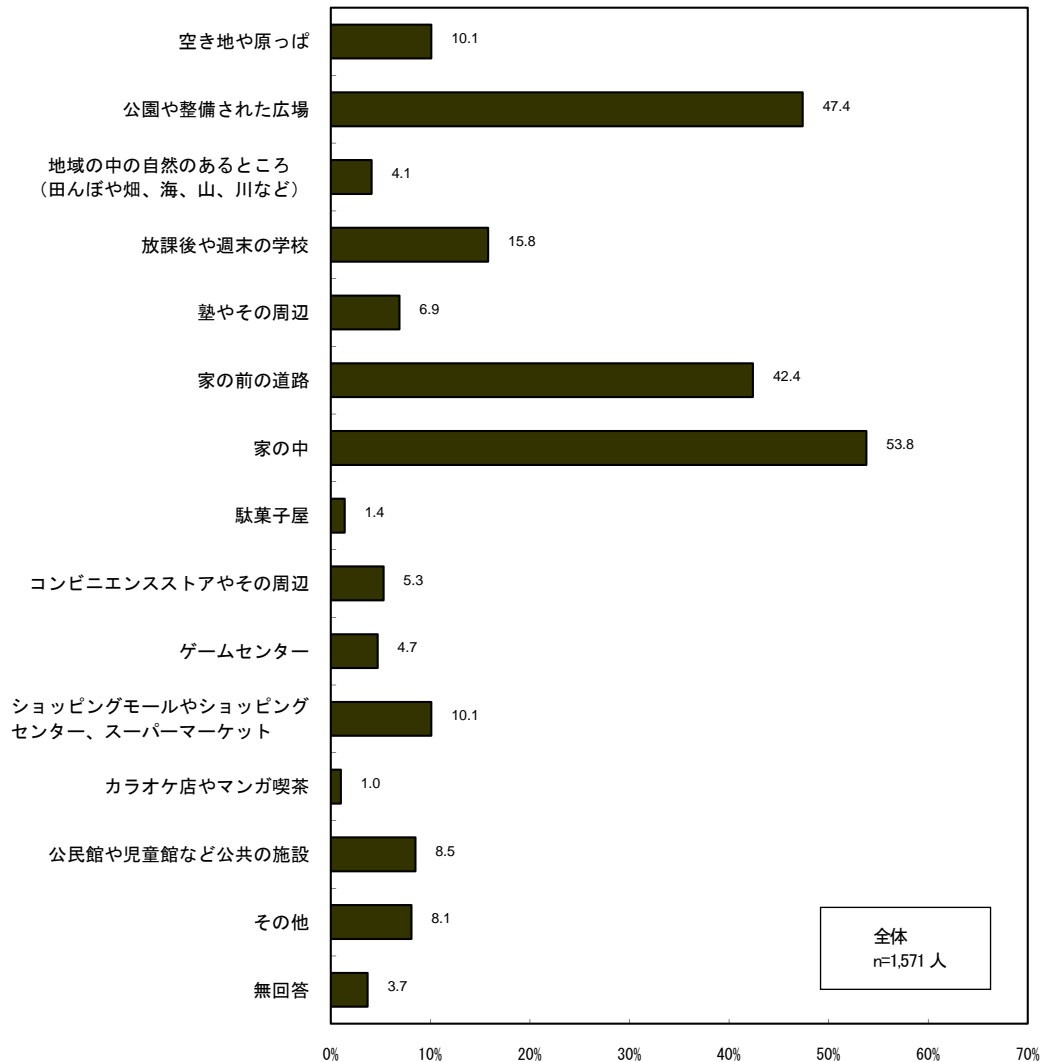
「子どもどうして仲良く遊んでいる」と「子どもの姿をみかけない」が  
ともに約4割

「子どもどうして仲良く遊んでいる」と答えた人が41.9%と最も多かったが、次に「子どもの姿をみかけない」と答えた人が39.1%と差が無く続く。その次に「スポーツ活動などでよく身体を動かしている」(23.9%)、「マナーが良くない」(18.7%)と続く。

年代別には「子どもどうして仲良く遊んでいる」について、30代が48.3%と最も高く、50代が33.1%と最も低い。「スポーツ活動などでよく身体を動かしている」については、40代が29.9%と最も高く、20代が11.9%と最も低い。「マナーが良くない」については20代が29.1%で最も高く、60代が14.9%と最も低い。

## (7) 子どもたちの、おもな遊び場

問13. あなたが住んでいる地域で、子どもたちはおもにどこで遊んでいますか。  
あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



### 子どもたちの遊び場は 「家中」「公園や整備された広場」「家の前の道路」

「家中」と答えた人 (53.8%) が半数を超す。次に「公園や整備された広場」(47.4%)、「家の前の道路」(42.4%) の順に続く。その次に多いのが、「放課後や週末の学校」だが15.8%と前述の3つの場所とは大きく差がある。他の場所はさらに少ない。

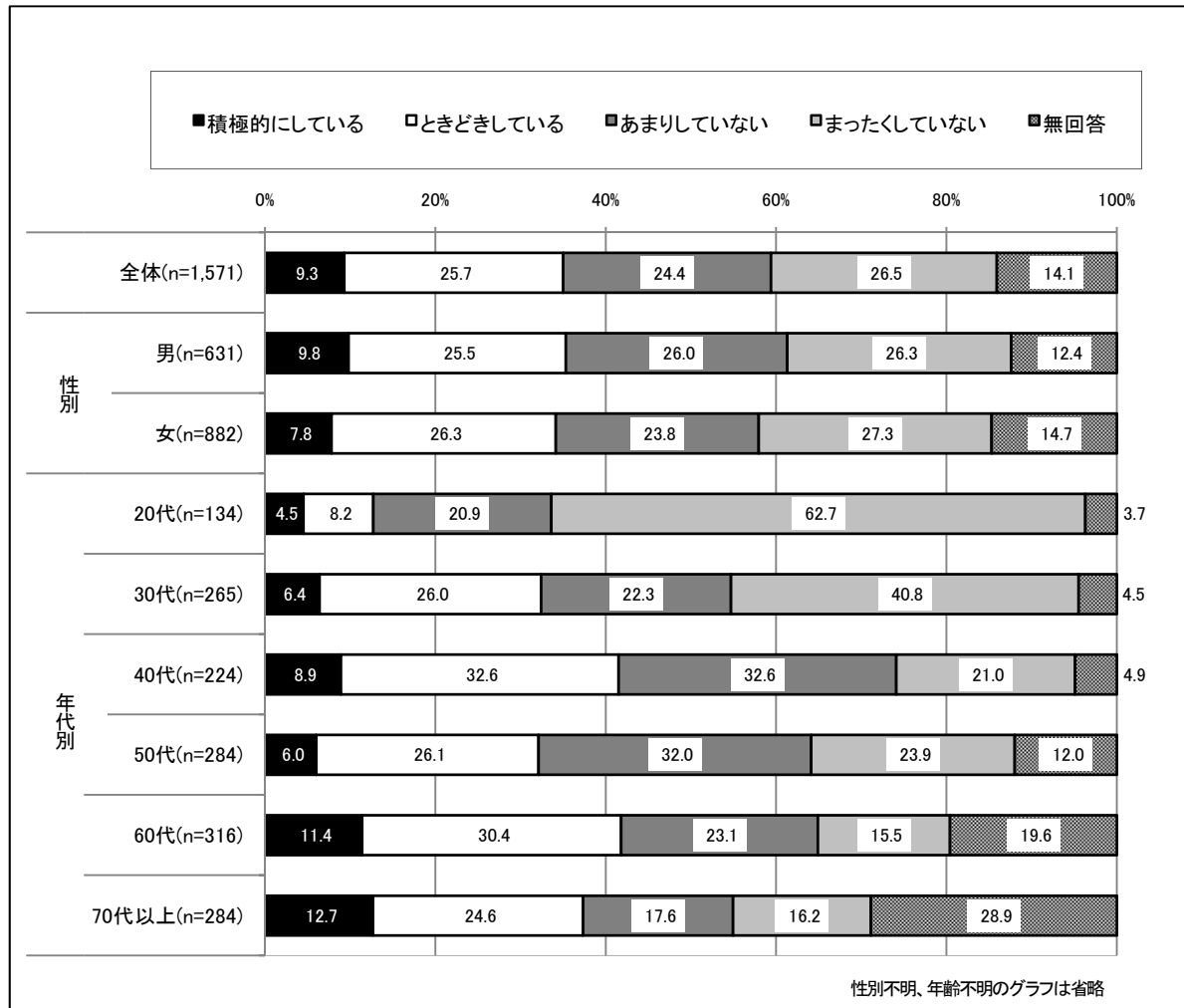
「家中」と答えた年代を見ると、40代が70.1%と最も多く、20代(44.8%)、60代(47.8%)と少なかった。

## (8) 地域の子どもたちとの、普段の接し方

### ① 悪いことをしたとき、しつこく注意したりする

問 14-1. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

① 悪いことをしたとき、しつこく注意したりする (SA)



### 約5割の人がしつこく注意したり「していない」

「まったくしていない」と回答した人(26.5%)が最も多かった。「あまりしていない」は24.4%。約半数の人が「していない」と答えている。

「積極的にしている」と答えた人は9.3%と1割にも満たない。「ときどきしている」(25.7%)と合わせても35.0%と、地域の子どもたちが悪いことをしているのを見かけたとき、しつこく注意している人は約3人に1人に留まっている。

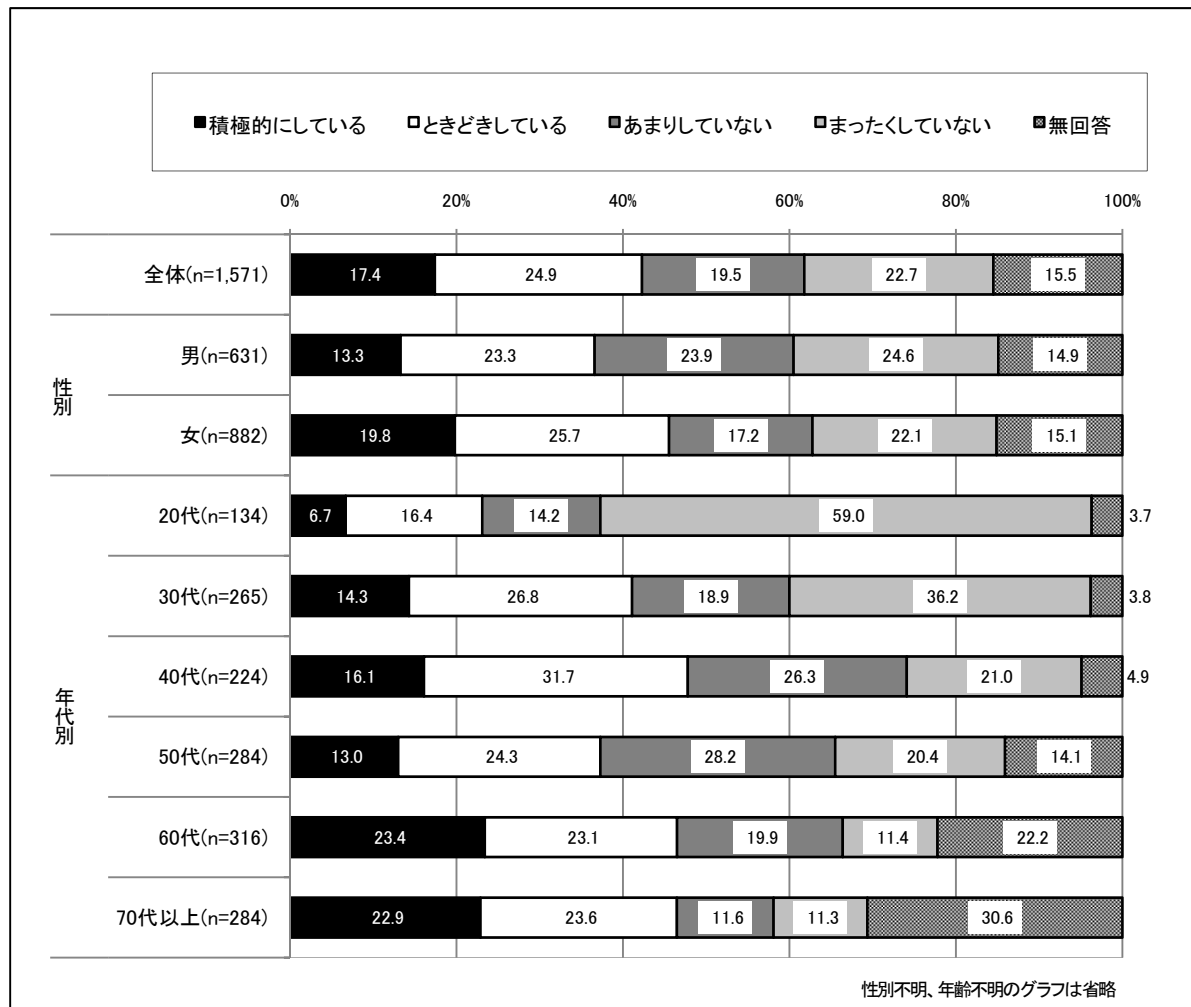
男女別では、どの選択肢でも大きな差はなかった。

年代別では、「まったくしていない」について、20代(62.7%)、30代(40.8%)が多く、60代(15.5%)、70代以上(16.2%)は少ない。

## ② 良いことをしたとき、ほめる

問 14-1. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

② 良いことをしたとき、ほめる (SA)



### ほめることが「ある」人と「ない」人が、ほぼ同じ割合

「ときどきしている」と回答した人 (24.9%) が最も多かった。「積極的に行っている」と答えた人は17.4%で、合わせると42.3%の人が、ほめることが「ある」と回答した。

「まったくしていない」と回答した人は22.7%。「あまりしていない」は19.5%。合わせると42.2%と、ほめることが「ある」と答えた人とほぼ同じ割合となった。

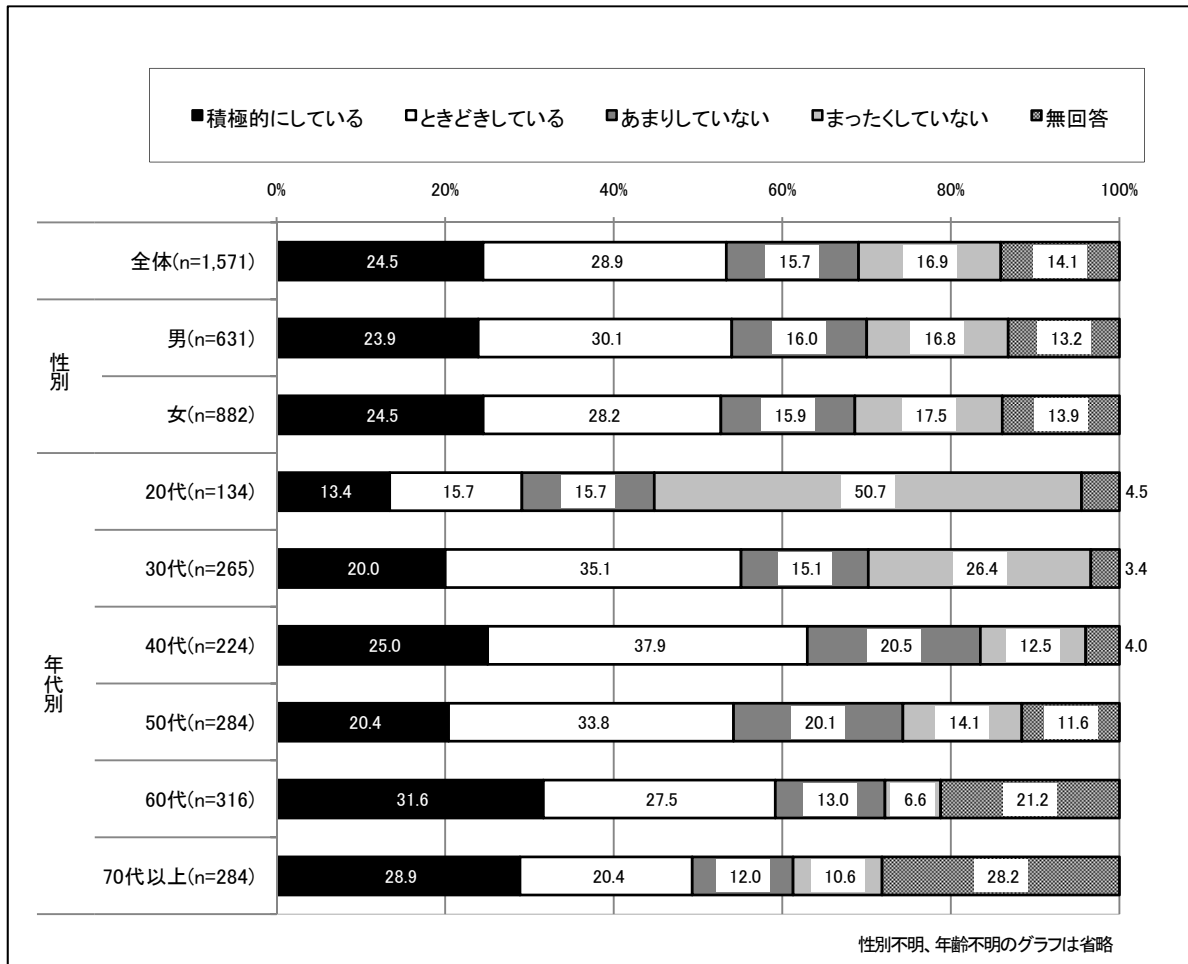
男女別に見ると、ほめることが「ある」と回答した人は女性の方が多く、「あまりしていない」「まったくしていない」は男性の方が多い。

年代別に見ると、ほめることが「ある」と回答した人は、40代 (47.8%)、60代 (46.5%)、70代以上 (46.5%) が多い。「まったくしていない」と回答した人は、20代が59.0%と多く、60代 (11.4%)、70代以上 (11.3%) との差が大きい。

### ③ 危険な行動をみたとき、注意する

問 14-3. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

③ 危険な行動をみたとき、注意する (SA)



#### 5割以上が「危険な行動をみたとき、注意する」ことがある

「ときどきしている」と回答した人 (28.9%) が最も多かった。「積極的にしている」と答えた人は24.5%で、合わせると53.4%の人が、危険な行動をみたとき、注意することが「ある」と回答した。

「まったくしていない」と回答した人は16.9%。「あまりしていない」は15.7%。合わせると32.6%となった。

男女別では、どの選択肢でも大きな差はなかった。

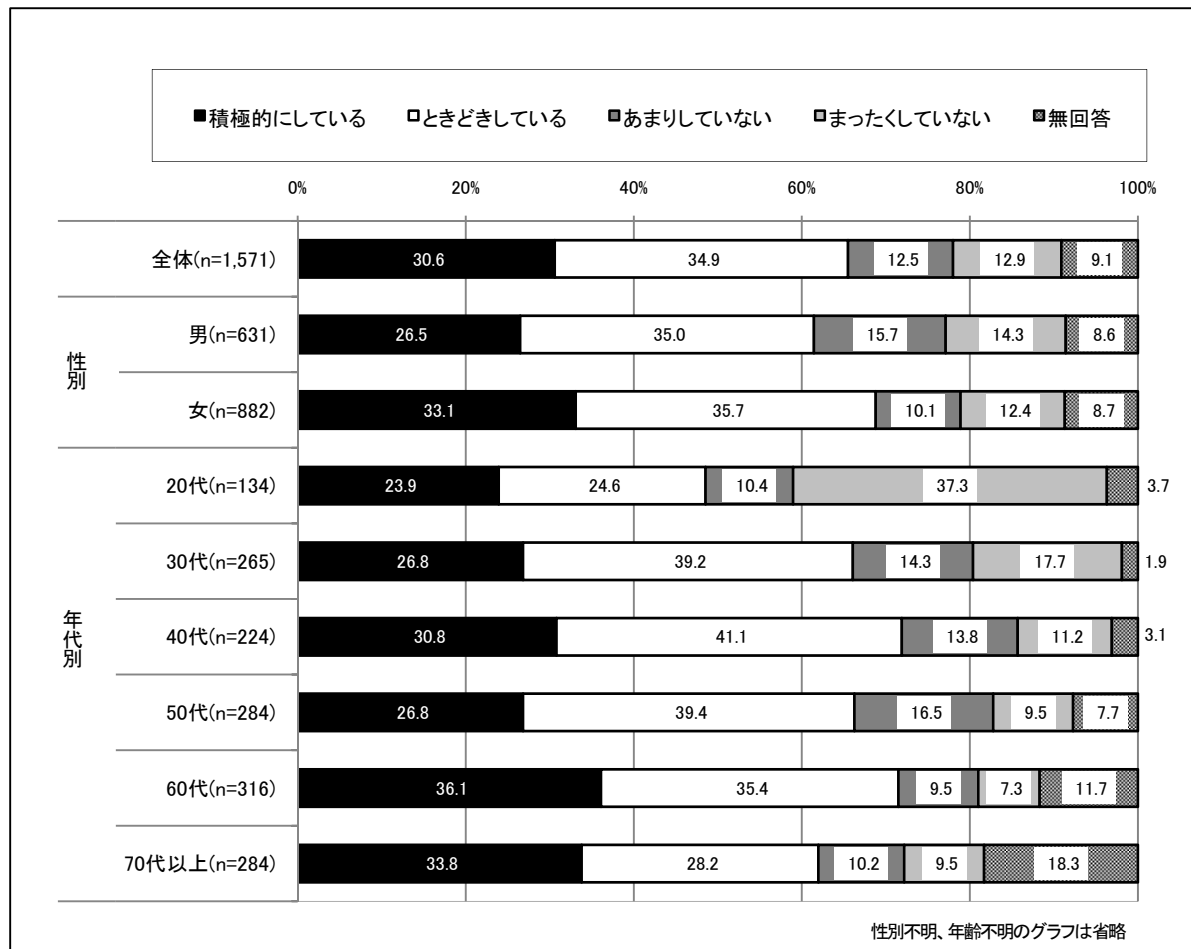
年代別に見ると、「ときどきしている」と「積極的にしている」を合わせると、40代 (62.9%)、60代 (59.1%) が多く、20代は29.1%と少ない。「まったくしていない」と回答した人は、20代が50.7%と多く、60代 (6.6%) との差が大きい。



#### ④ 道であったとき、あいさつする

問 14-4. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

④ 道であったとき、あいさつする (SA)



#### 「あいさつをする」人が約3人に2人

「とくどきしている」と回答した人 (34.9%) が最も多かった。「積極的にしている」と答えた人は30.6%で、合わせると65.5%の人が、「あいさつをする」ことがある。

「まったくしていない」と回答した人は12.9%。「あまりしていない」は12.5%。合わせると25.4%となった。

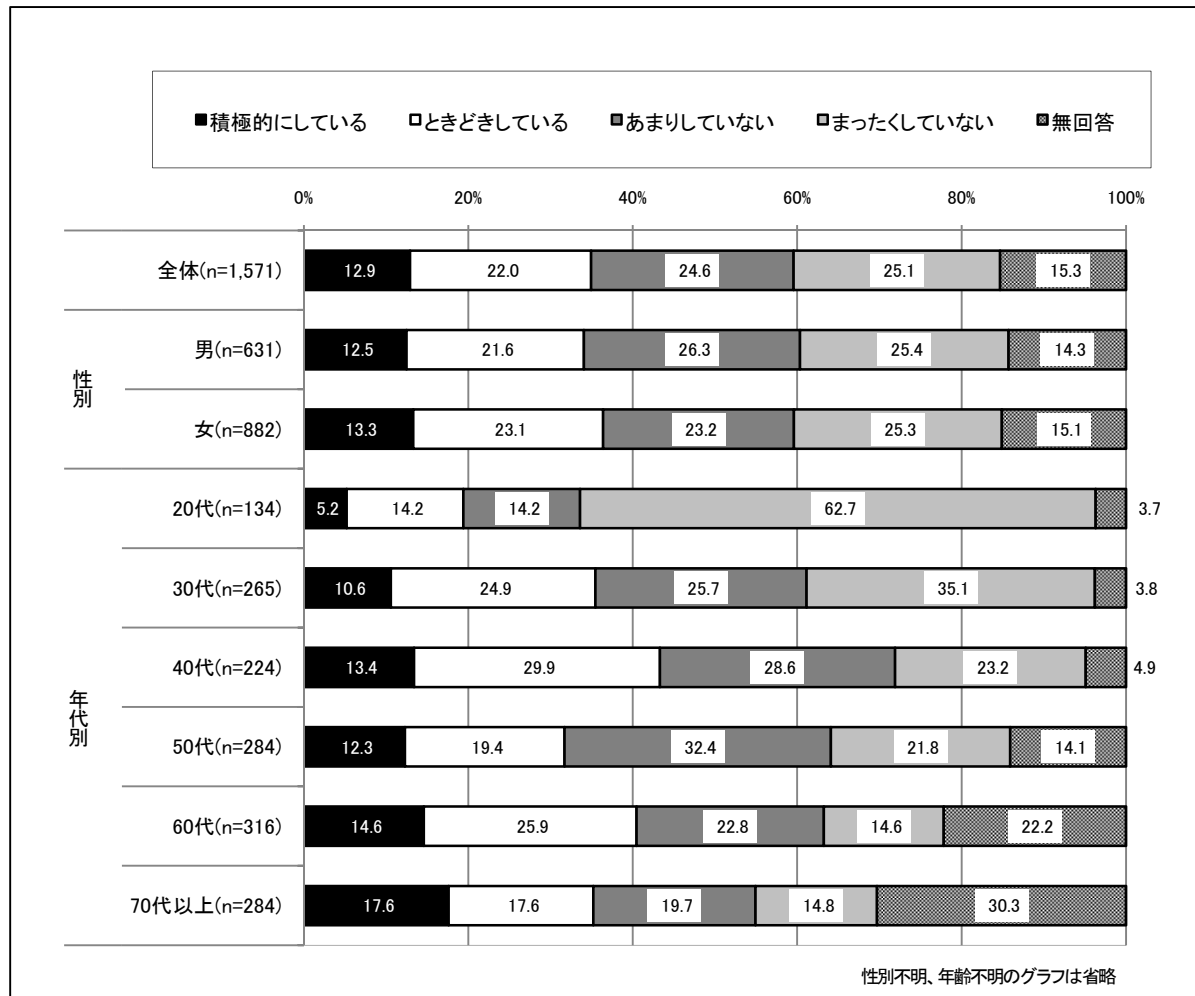
男女別で見ると、「とくどきしている」と回答した人で差はないが、「積極的にしている」と答えた男性26.5%に対して、女性33.1%と女性の方があいさつをよくしている。

年代別で見ると、60代、70代以上では「積極的にしている」人が多く、「とくどきしている」人が多いのは40代 (41.1%)、50代 (39.4%)、30代 (39.2%) であった。

## ⑤ 様子が気になったとき、声をかける

問 14-5. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

⑤ 様子が気になったとき、声をかける (SA)



### 約半数の人は「様子が気になったとき、声をかける」ことはない

「まったくしていない」と回答した人 (25.1%) が最も多かった。「あまりしていない」と答えた人は24.6%で、合わせると49.7%の人が、様子が気になったとき、声をかけることは「ない」と答えている。

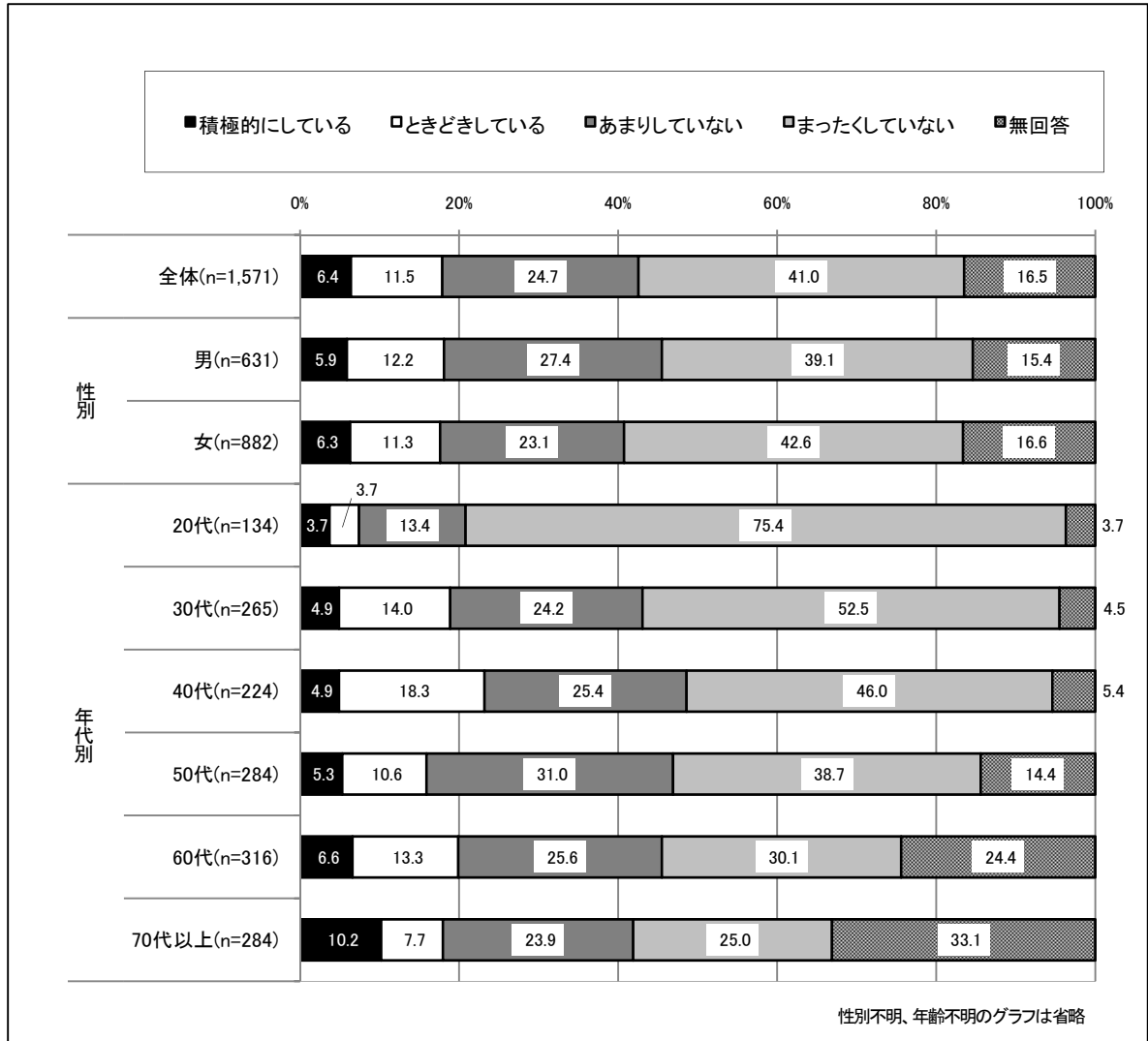
「積極的にしている」と回答した人は12.9%。「ときどきしている」は22.0%。合わせると34.9%となった。

年代別に見ると、「まったくしていない」と回答した人は20代で62.7%と最も多く、60代(14.6%)、70代以上(14.8%)が少ない。「積極的にしている」と回答した人は、20代(5.2%)が最も少ないのに対して、最も多いのは70代以上(17.6%)であった。

## ⑥ 困っているとき、相談にのる

問 14-6. あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

⑥ 困っているとき、相談にのる (SA)



### 約3人に2人は困っているとき、相談にのることは「ない」

「まったくしていない」と回答した人(41.0%)が最も多かった。「あまりしていない」と答えた人は24.7%で、合わせると65.7%の人が、困っているとき、相談にのることは「ない」と答えている。

「積極的にしている」と回答した人は6.4%。「ときどきしている」は11.5%。合わせても17.9%に留まっている。

年代別に見ると、「ときどきしている」と「積極的にしている」を合わせると、40代(23.2%)、60代(19.9%)が多く、20代は7.4%と少ない。「まったくしていない」と回答した人は、20代が75.4%と多く、70代以上(25.0%)との差が大きい。

## 「2. 地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて」の総括

地域社会において子どもたちが身につける力の大切さについて高い数値となったのは、「社会生活に必要なルールやマナー」(60.8%)及び「他人に対する思いやりの心」(50.4%)「基本的な生活習慣」(22.9%)など社会秩序を習得させることに重点を置く項目が多くみられる。それに対して、「自分を大切にすることを育む」は3.2%、「知識・理解を深める学習への関心を高める」は3.9%、「地域の文化・歴史等を大切にすることを育む」は11.5%で、自己実現やそのための学習に対する項目が低い。

「社会生活に必要なルールやマナーを身につける」と答えた人の年代を見ると、20代(66.4%)、30代(68.3%)、40代(72.3%)、50代(66.5%)が高く、60代(56.6%)、70代以上(43.3%)は低かった。また、「他人に対する思いやりの心を育む」は、20代(57.5%)、30代(55.5%)、40代(58.9%)と高く、50代は49.6%と平均的であるのに対して、60代(43.7%)、70代以上(46.1%)は低かった。

「自分を大切にすることを育む」については、40代が0.9%と低い数値であるのに対して、70代以上では6.0%と高かった。

(%)	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
基本的な生活習慣を身につける	22.9	16.4	12.8	14.7	23.9	30.4	32.0
自分でできることは自分でする力を身につける	11.9	8.2	8.7	6.3	14.8	11.4	18.7
我慢する力を身につける	18.1	9.7	14.7	10.7	16.2	22.8	25.4
命やもの、自然環境を大切にすることを育む	32.6	29.1	33.6	28.1	35.2	39.6	27.5
他人に対する思いやりの心を育む	50.4	57.5	55.5	58.9	49.6	43.7	46.1
自分を大切にすることを育む	3.2	3	4.2	0.9	2.1	2.5	6.0
好き嫌いのない食事をし健康な体づくりをおこなう	3.3	1.5	2.6	0.9	1.1	3.5	8.5
正しい言葉づかいを身につける	13.2	16.4	16.2	15.2	9.2	12.7	12.0
良いことと悪いことを判断する力を身につける	35.1	31.3	33.2	33	32.7	36.4	41.9
社会生活に必要なルールやマナーを身につける	60.8	66.4	68.3	72.3	66.5	56.6	43.3
家族を大切にし家族の一員としての役割を果たす	4.7	4.5	3.8	1.8	5.3	5.4	7.0
いろいろな立場の人を受け入れる心を育む	20.7	31.3	25.7	29.9	23.2	13	11.3
地域の文化・歴史等を大切にすることを育む	11.5	11.2	10.9	13.8	13.7	10.8	9.2
知識・理解を深める学習への関心を高める	3.9	4.5	5.3	4.9	2.8	2.8	4.2
その他	0.5	0.7	0.8	0.9	0.4	0.3	-

「無回答」は省略

---

地域の教育力が「低下した」あるいは「ある程度低下した」とみる回答が、56.1%であり、地域の教育力を地域社会の秩序形成力にみていく傾向が読み取れる。

低下した理由として、「個人主義が浸透してきている」(46.6%)、「人間関係が限定的になっている」(45.2%)、と高く、自立とか自由など個人に価値をおく見方を地域教育の衰退と重ねている考え方がありと見える。

市民同士の交流に目を向けると、近所とのつきあいが上手くいっている人ほど、地域の教育力の衰退を感じない。近所の人とつきあいがある人は、家庭の教育力と地域の教育力を低下していないとみている。

年代層的に地域社会の教育力をみていくと、30代から40代が全体的に低下していると考えており、60代、70代以上は比較的低下していないとみている割合が高い。

子どもとの直接的な関わりからみると、「悪いことをしたとき、しかったり注意したりする」では、40代と60代、70代以上が高い。しかし、「良いことをしたとき、ほめる」で「積極的にしている」では、40代は16.1%に対して、60代23.4%、70代以上22.9%となる。40代は子どもをマイナスに評価し、そこから成長させていこうとする傾向があるが、60代、70代以上は「ほめていく」ことで子どもの成長を促そうとしている。

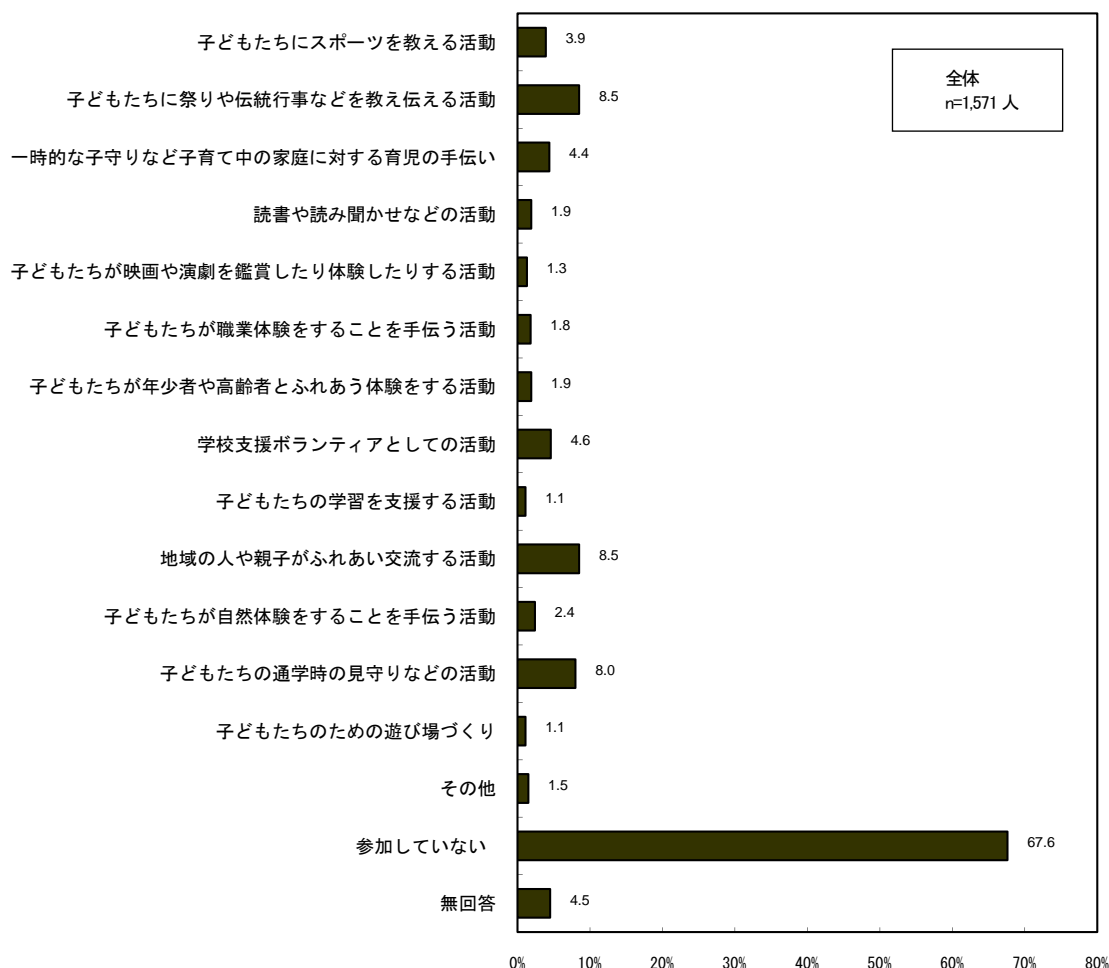
「地域全体で子どもたちを育てること、地域のようすについて」をとおして地域の教育力のあり方を概観すると、子育て世代(30代、40代)は、子どもに社会規範を教えていく方向で接していくのに対して、60代、70代以上は、子どもの自己実現を重要視して地域の教育力を見いだそうとしている。また、地域の教育力を学習や行政情報と連携して創り出そうという視点が弱く、地域社会の人間関係で補っていこうという傾向が強い。学習活動を通して社会認識を高めていくことを基本とした社会教育活動を組織していく側には、今後の課題となろう。

---

### 3. 地域の子どもたちとかかわる活動について

#### (1) 最近一年間に参加したことがある活動

問 15. あなたは、次のような地域の子どもたちとかかわる活動に参加したことがありますか。  
最近一年間に参加したことがある活動がありましたら、あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。  
(MA)



「参加していない」と答えた人 (67.6%) が3人に2人以上

「参加していない」と答えた人 (67.6%) が最も多く3人に2人以上を占める。

参加した活動の中では、「子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動」と「地域の人や親子がふれあい交流する活動」が共に 8.5%で最も多く、次に「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」(8.0%)、「学校支援ボランティアとしての活動」(4.6%)、「一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い」(4.4%) の順に続く。

どんな人が参加しているのかを考える手がかりとして、「子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動」を代表としてとりあげると、地域性の観点からは、北区(11.5%)、江南区(10.4%)、秋葉区(13.5%)、南区(14.0%)、西蒲区(12.3%)と市の周辺部に住む人が高い一方、東区(7.8%)、中央区(6.1%)、西区(4.2%)と、市の中心部で低い。

---

男性(9.4%)、女性(7.7%)ではあまり大きな差がなく、年代で見ると20代(3.0%)が低く、30代(10.2%)、40代(14.3%)が高く、50代(6.7%)、60代(8.2%)、70代以上(7.4%)は平均程度である。

居住期間は、1年未満(2.5%)から徐々に高まる。1年以上3年未満(6.5%)、3年以上5年未満(8.3%)、5年以上10年未満(11.6%)で最も高く、以降、10年以上15年未満(9.6%)、15年以上20年未満(6.0%)、20年以上(8.8%)となる。子どものいる人は15.7%であり、子どものいない人は6.0%である。

家族構成においては、ひとり暮らし(5.6%)、夫婦のみ(5.0%)は低く、2世代世帯(親と子)(8.5%)よりも3世代世帯(親と子と孫)(13.3%)の方が高い。

つまり、市周辺部で(祭りや伝統行事が保たれていて)、3世代世帯で10年程度居住する、小学生から中学生くらいの子を持つ人がもっとも参加する、という平均像となる。

他方、「参加していない」と答えた人の属性は、この逆になる部分もあれば、それほど明確な傾向の出ない部分もある。地域性の観点からは、最も低い南区(62.4%)から最も高い西区(71.9%)の間の差に収まるため、地域的な傾向はない(無回答(56.1%)が最も低いのはあるが)。男性(67.2%)、女性(68.7%)でも大きな差がない。

年代で見ると20代(79.1%)が高く、30代(65.3%)、40代(58.5%)と下がっていき、50代(77.1%)で急上昇し、60代(67.4%)、70代以上(64.4%)となる。

居住期間は、1年未満(82.5%)からどんどん下がっていく。1年以上3年未満(74.8%)、3年以上5年未満(67.9%)、5年以上10年未満(61.9%)、10年以上15年未満(58.1%)となりその後上昇、15年以上20年未満(66.9%)、20年以上(69.4%)となる。子どものいる人は47.7%であり、参加していない人が半数である(無回答3.0%を考えると、参加している人は49.3%)のに対し、子どものいない人は74.6%と、4人のうち3人が参加していない(無回答4.3%を考えると、参加している人は21.1%)。

家族構成においては、ひとり暮らし(73.4%)、夫婦のみ(72.7%)は参加しておらず、2世代世帯(親と子)(66.9%)、3世代世帯(親と子と孫)(60.0%)で参加しない人が減る。

つまり、参加していない人は、参加している人の像の裏返しにはなるが、居住地域についてはとくに偏りがなく、という平均像となる。

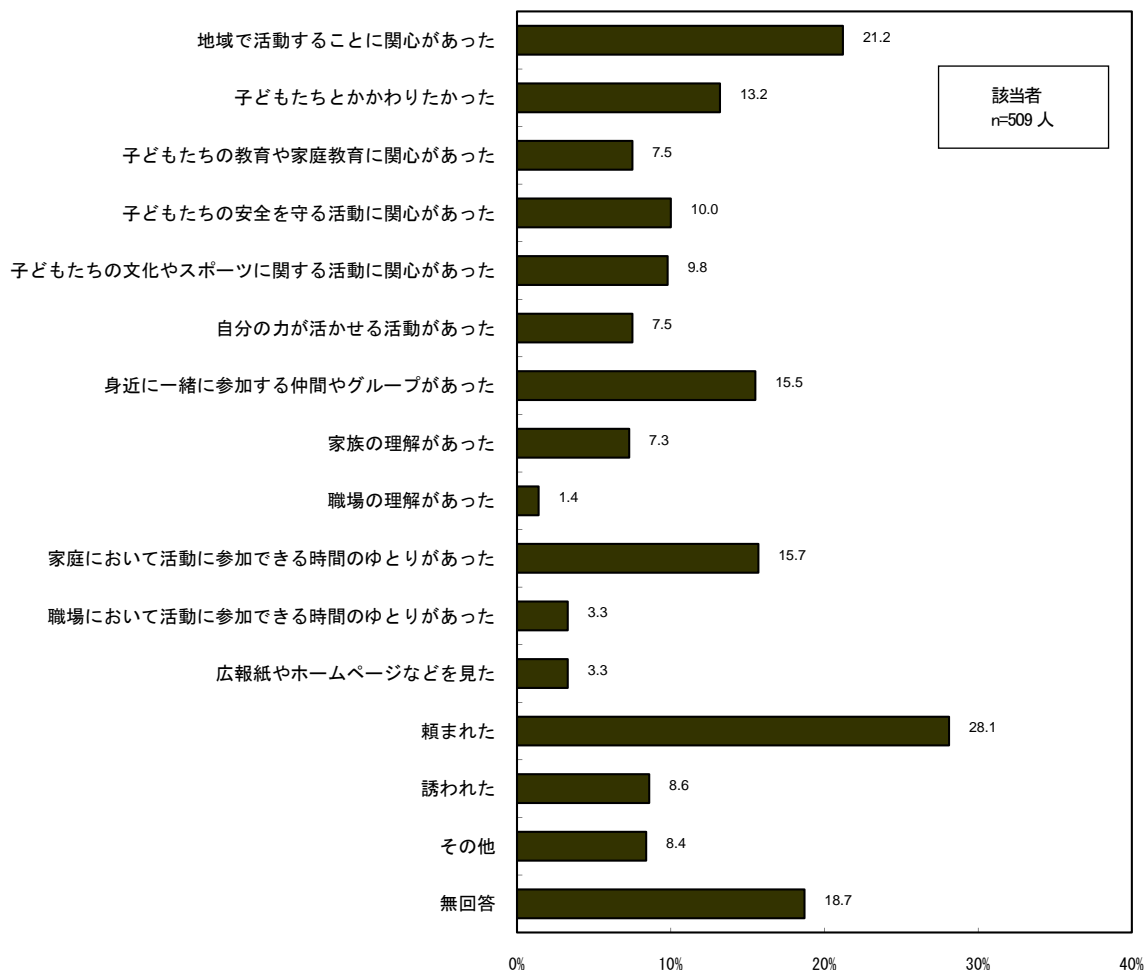
---

## (2) 活動に参加したきっかけ

問16-1. 問15で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方にうかがいます。

(1) 「最近一年間に参加したことがある」活動に参加したきっかけは何ですか。

あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



### 「頼まれた」からと答えた人が3割近く

「頼まれた」と答えた人 (28.1%) が最も多くほぼ3割を占めた。次に「地域で活動することに関心があった」(21.2%)、「家庭において活動に参加できる時間のゆとりがあった」(15.7%)、「身近に一緒に参加する仲間やグループがあった」(15.5%)、「子どもたちとかかわりたかった」(13.2%)の順に続く。

「職場の理解があった」(1.4%)、「職場において活動に参加できる時間のゆとりがあった」(3.3%)と、職場に関係した理由を答えた人は、とても少なかった。

「頼まれた」人は、男性(30.4%)、女性(27.5%)で大きな差がない。年代で見ると20代(32.1%)、30代(32.6%)、50代(36.9%)、60代(32.0%)が高く、40代(26.9%)70代以上(17.8%)が低い。



居住区では、江南区（44.2%）が最も高く、少し下がって南区（34.3%）、北区（30.4%）、秋葉区・西蒲区（27.1%）と市の周辺部が占め、市の中心部の西区（26.4%）、東区（26.3%）、中央区（25.8%）、と低くなっている。

その他の居住期間の観点などからは、明確な傾向はなかった。逆に言えば、問15で違いの多く見られた「子どもの有無」で大きな違いがないということである。むしろ、子どもがいない人の方が選択率が高い項目もあり、同程度のものが多い。

各選択肢について見ていくと下表のとおりである。

(%)	全体	(子どもが いる	(子どもが いない
地域で活動することに関心があった	21.2	19.9	22.5
子どもたちとかわりたかった	13.2	16.0	12.0
子どもたちの教育や家庭教育に関心があった	7.5	9.7	6.0
子どもたちの安全を守る活動に関心があった	10.0	10.2	9.9
子どもたちの文化やスポーツに関する活動に関心があった	9.8	11.2	7.7
自分の力が活かせる活動があった	7.5	5.3	9.5
身近に一緒に参加する仲間やグループがあった	15.5	13.6	16.9
家族の理解があった	7.3	7.8	6.7
職場の理解があった	1.4	1.0	1.8
家庭において活動に参加できる時間のゆとりがあった	15.7	17.5	15.5
職場において活動に参加できる時間のゆとりがあった	3.3	4.9	2.5
広報紙やホームページなどを見た	3.3	6.8	1.1
頼まれた	28.1	28.6	28.2
誘われた	8.6	8.3	9.5
その他	8.4	12.1	6.3

「無回答」は省略

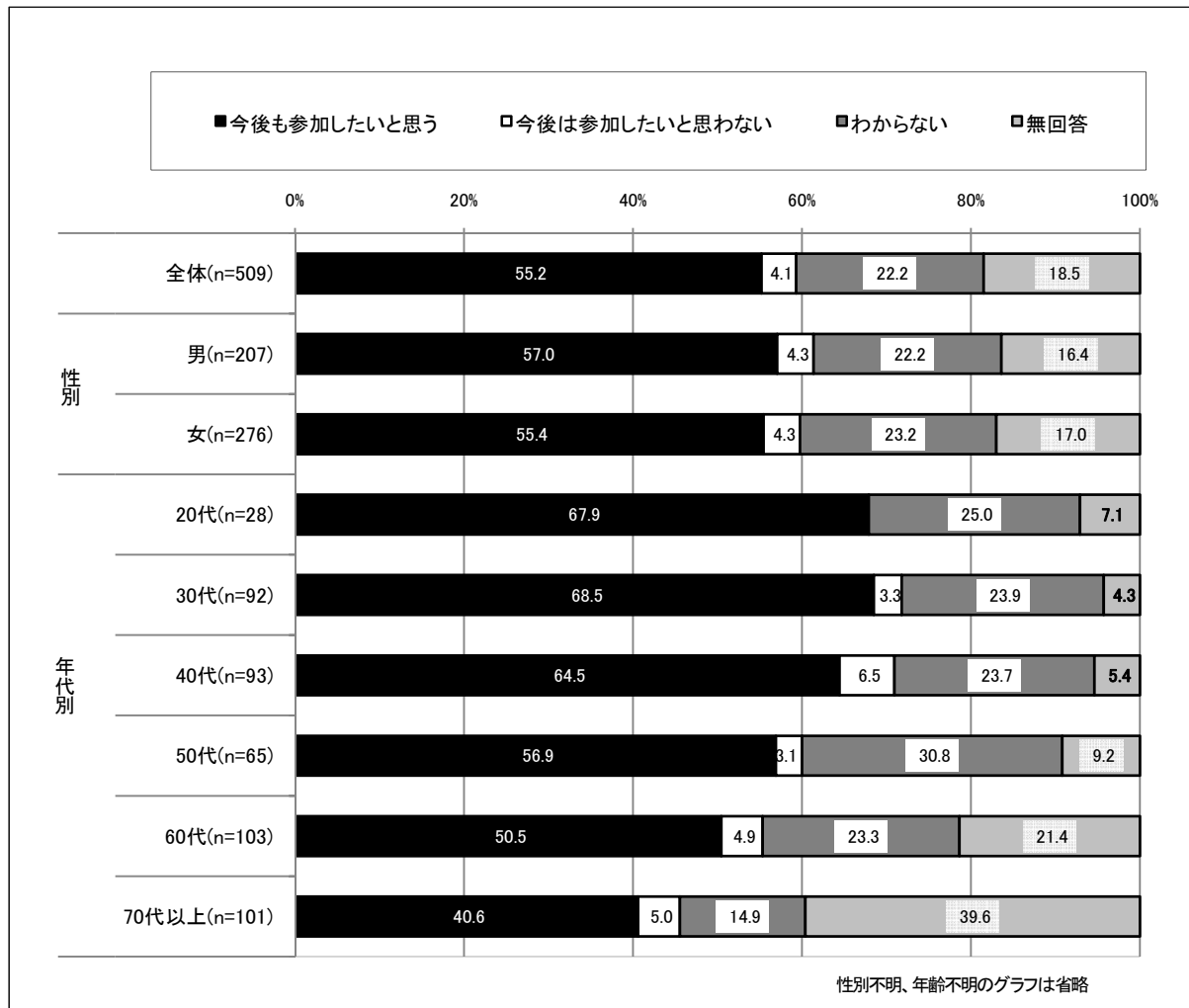
なお、回答者509名のうち無回答95名を除く414名がつけた○の数の合計は819個であるので、この414名は1人平均1.98個の○をつけていることになる。参加したきっかけとして多くの人は2つ程度を当てはまることと考えているようである。

### (3) 今後の活動参加意向

問16-2. 問15で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方にうかがいます。

(2) 今後も地域の子どもたちとかかわる活動に参加したいと思いますか。

あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



#### 「今後も参加したいと思う」と答えた人が半数以上

「今後も参加したいと思う」と回答した人(55.2%)が最も多く半数以上を占める。「わからない」と答えた人が22.2%で、「今後は参加したいと思わない」と答えた人は4.1%に留まっている。

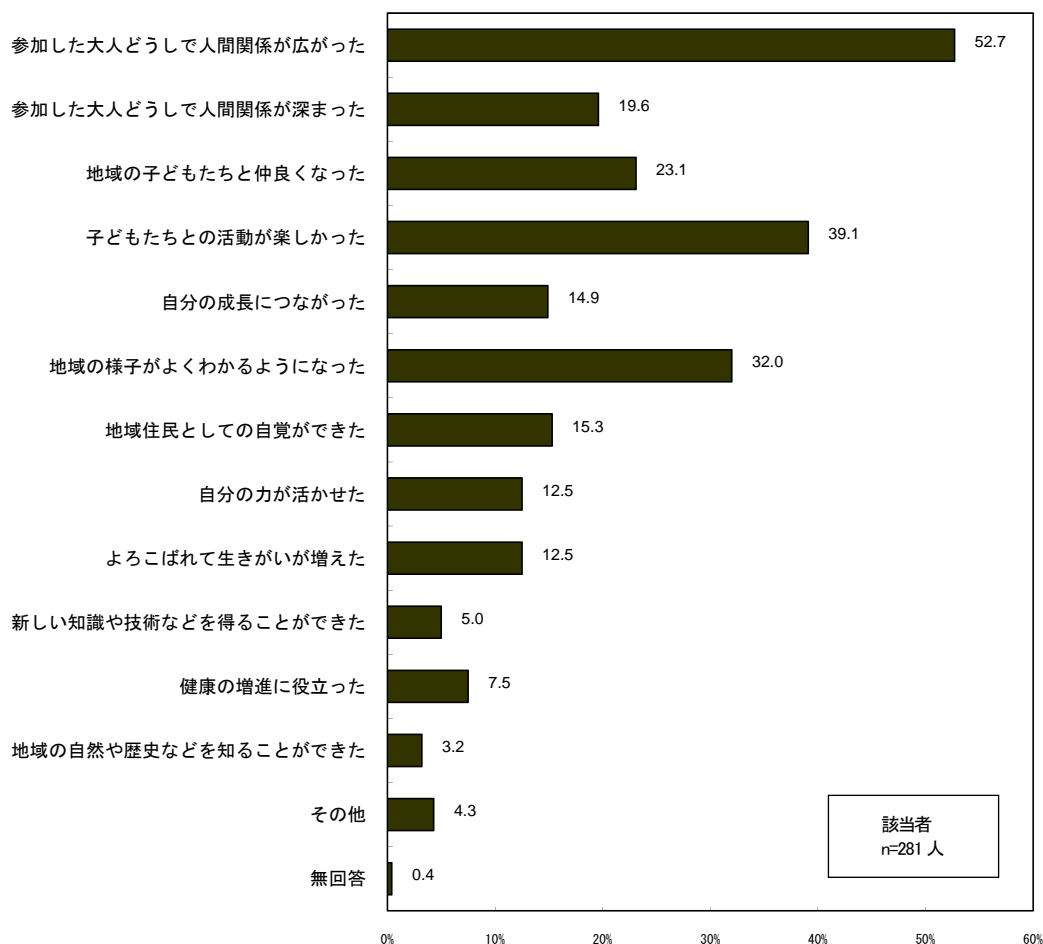
「今後も参加したいと思う」人は、秋葉区(68.8%)と中央区(46.4%)の差が大きく、北区(56.5%)、東区(56.3%)、江南区(58.1%)、南区(57.1%)、西区(58.6%)、西蒲区(58.3%)は平均的である。

年代で見ると20代(67.9%)、30代(68.5%)、40代(64.5%)が高く、50代(56.9%)、60代(50.5%)、70代以上(40.6%)であり、居住期間で見ると、1年未満(71.4%)、1年以上3年未満(66.7%)、3年以上5年未満(85.2%)、5年以上10年未満(53.6%)、10年以上15年未満(50.9%)、15年以上20年未満(56.8%)、20年以上(54.0%)となり、総じて、若い人、居住期間の短い人の方が今後も参加しようと思っている。

#### (4) 活動に参加したいと思う理由

問17. 問16(2)で、「1 今後も参加したいと思う」と答えた方にかかっています。

「今後も参加したい」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



#### 「参加した大人どうして人間関係が広がった」が半数以上

「参加した大人どうして人間関係が広がった」と答えた人 (52.7%) が最も多く半数を超す。次に「子どもたちとの活動が楽しかった」(39.1%)、「地域の様子がよくわかるようになった」(32.0%)、「地域の子どもたちと仲良くなった」(23.1%) の順に続き、自分の居場所が広がることや活動の楽しさを理由として答えた人が多かった。

一方、「地域の自然や歴史などを知ることができた」(3.2%)、「新しい知識や技術などを得ることができた」(5.0%)、「健康の増進に役立った」(7.5%) といった個人的なメリットを理由として答えた人は少なかった。

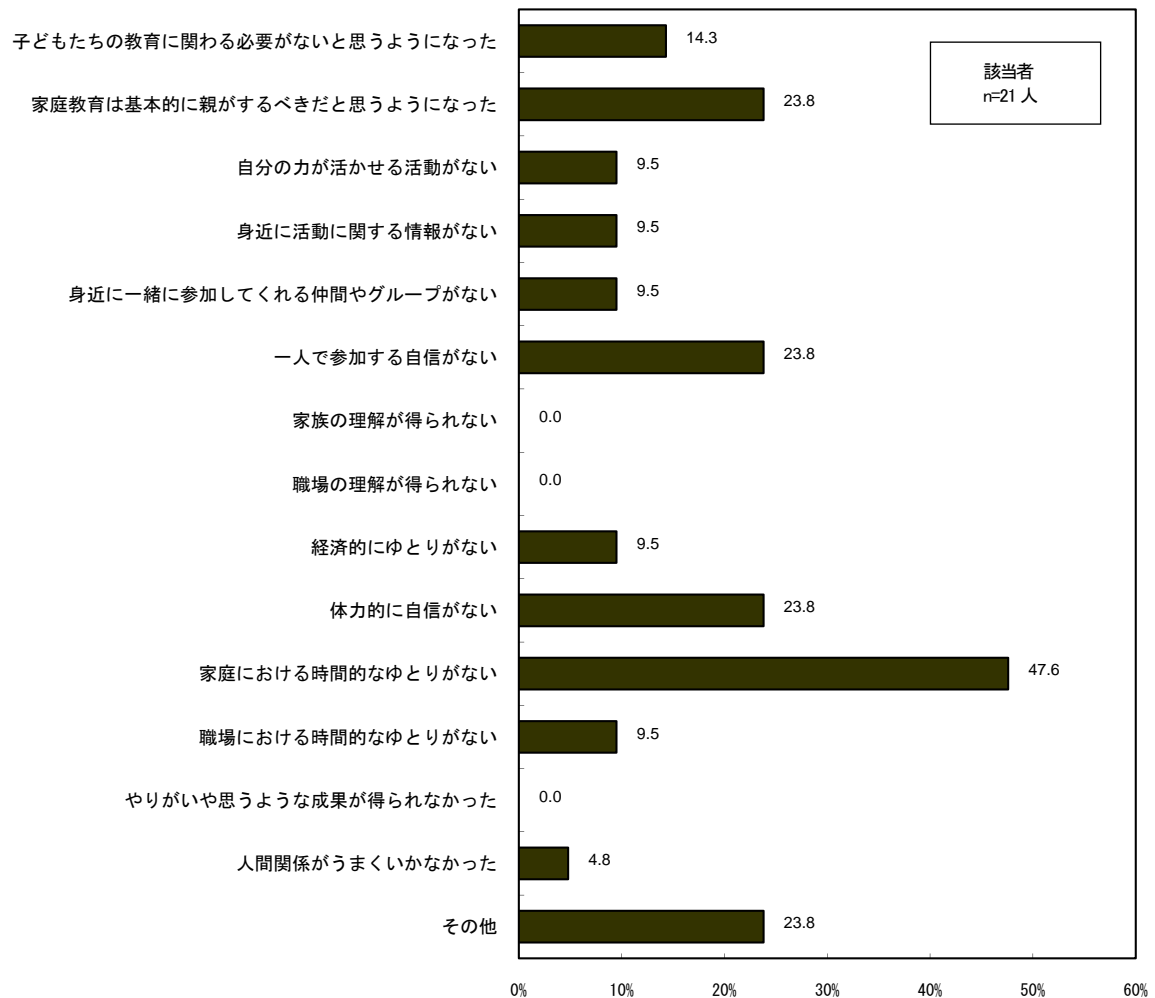
全回答者から無回答1人を除いた280人で、○の数合計679(無回答の○を除く)を割ると、1人2.43個となる。2つないし3つという複数の参加理由を持っていることが分かる。

## (5) 活動に参加したいと思わない理由

問 18. 問 16 (2) で、「2 今後は参加したいと思わない」と答えた方にうかがいます。

「今後は参加したいと思わない」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

(3A)



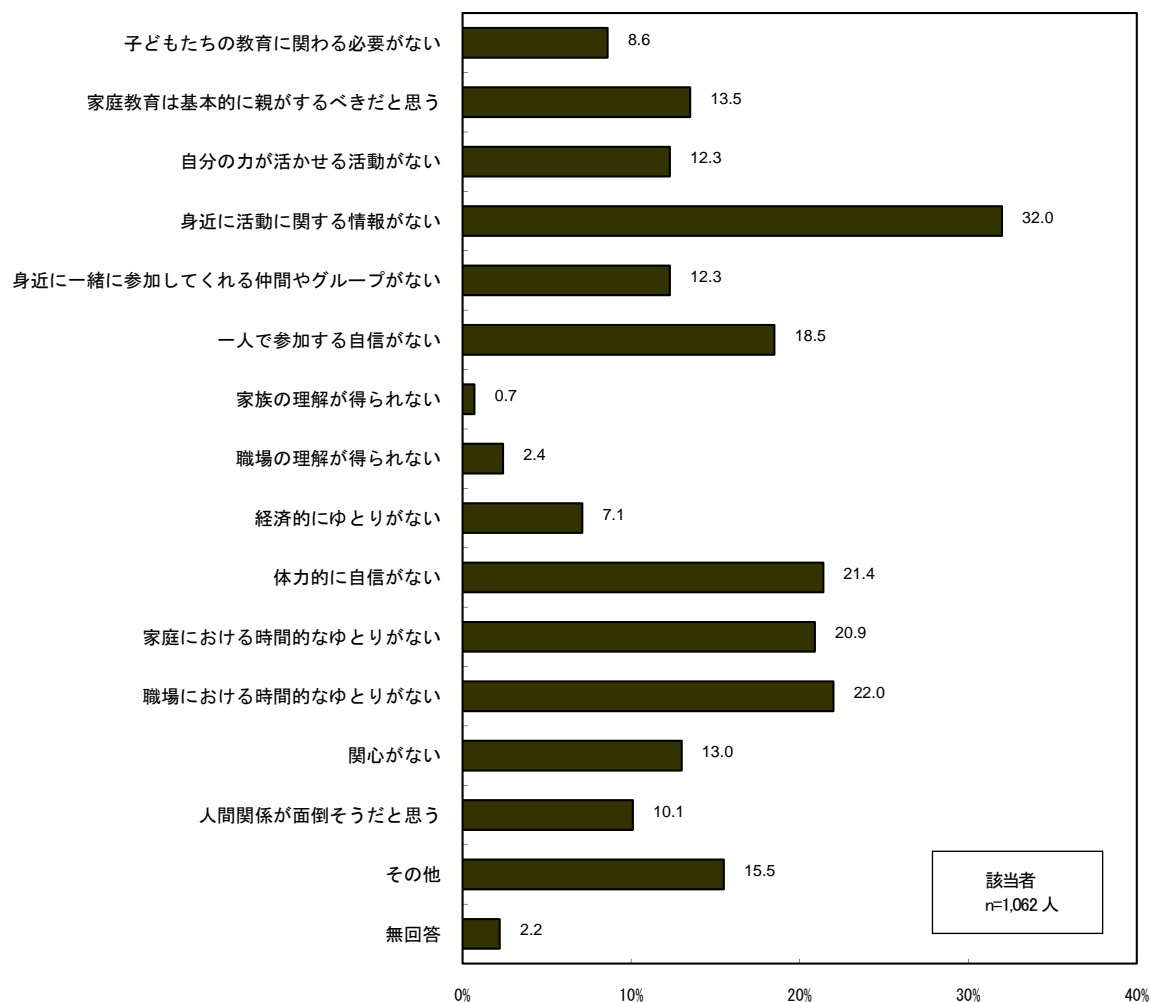
### 「家庭における時間的なゆとりがない」が半数近く

今後は参加したいと思わない人は21名と少ない。その理由としては、「家庭における時間的なゆとりがない」と答えた人(47.6%)が最も多く半数近くを占めた。次に「家庭教育は基本的に親がすべきだと思うようになった」、「一人で参加する自信がない」、「体力的に自信がない」と答えた人が共に23.8%、「子どもたちの教育に関わる必要がないと思うようになった」(14.3%)の順に続く。

○の合計数44個を21人で割ると、1人平均2.10個となる。1つか2つの、明確に参加したいと思わない理由があることが推測される。

## (6) 活動に参加していない理由

問19. 問15で、子どもたちとかかわる活動に最近一年間「15 参加していない」と答えた方にうかがいます。  
「参加していない」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



### 「身近に活動に関する情報がない」が3割以上

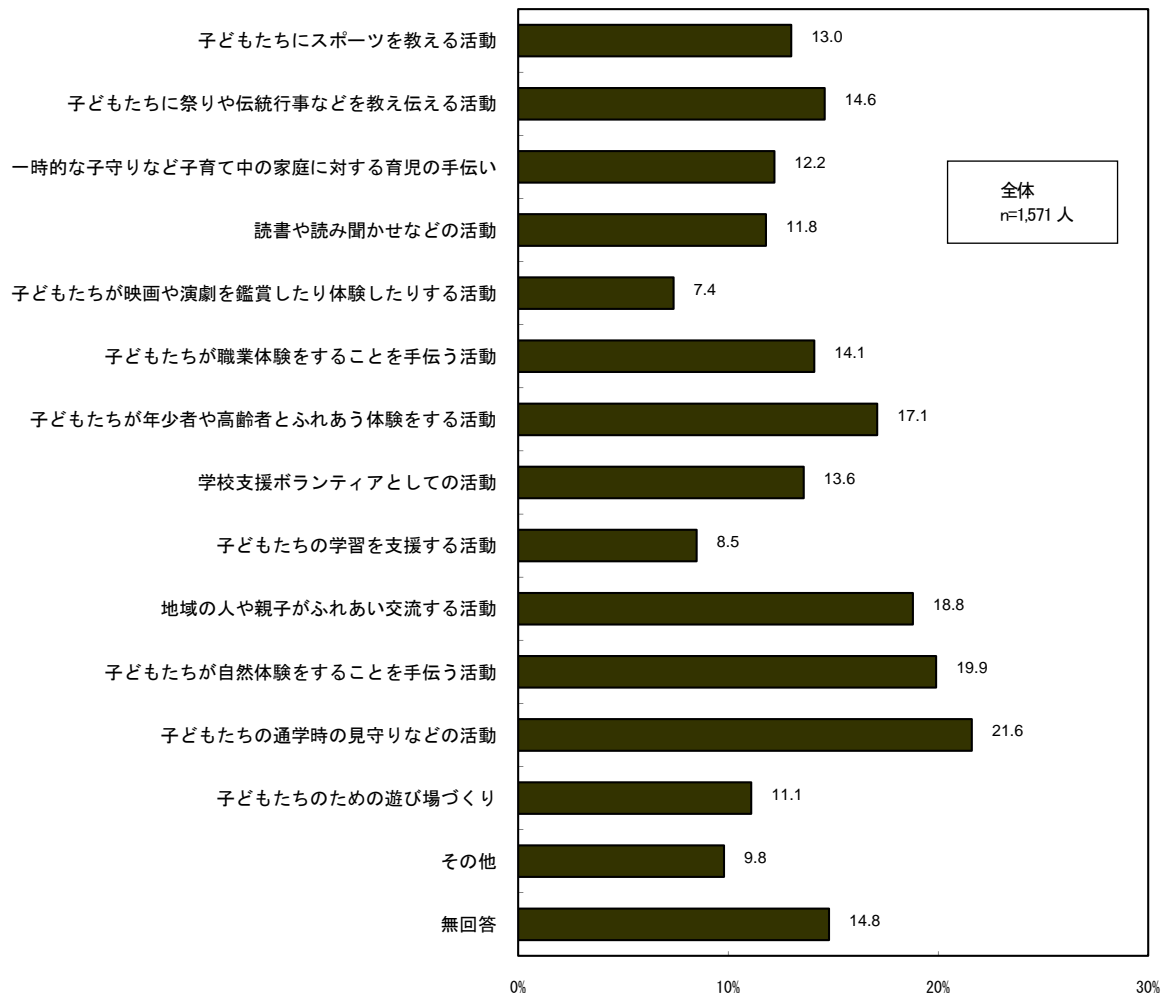
「身近に活動に関する情報がない」と答えた人 (32.0%) が最も多く3割以上を占めた。次に「職場における時間的なゆとりがない」(22.0%)、「体力的に自信がない」(21.4%)、「家庭における時間的なゆとりがない」(20.9%)の順に続く。

その他の記述では、「子どもがいないから」、「高齢だから」といった意見も多かった。

回答者から無回答24人を引いた1,038人で○の数合計2,234個(無回答の○は除く)を割ると、1人2.15個となる。3つまで○をつけてよい設問であるが、活動に参加していない理由は2つもあれば十分なようである。

## (7) 今後、参加してみたい活動

問20. あなたが今後、参加してみたい地域の子もたちとかかわる活動はありますか。  
あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。(MA)



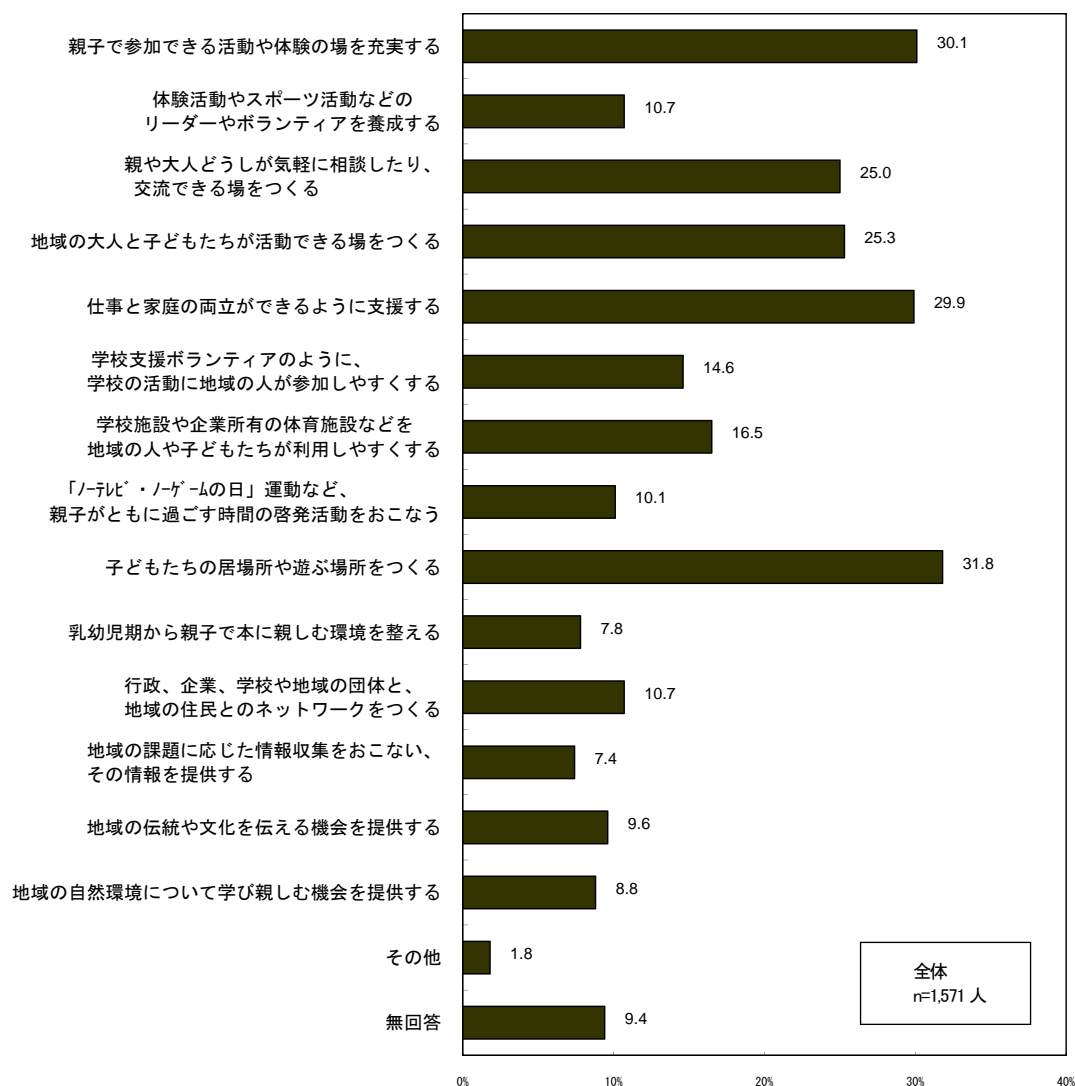
### 参加してみたい活動は、様々 最も多い「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」でも2割強

今後参加してみたい活動は様々である。最も多い「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」でも21.6%と2割強に留まっている。次に「子どもたちが自然体験をすることを手伝う活動」(19.9%)、「地域の人や親子がふれあい交流する活動」(18.8%)、「子どもたちが年少者や高齢者とふれあう体験をする活動」(17.1%)と続くが、最も少ない「子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動」でも7.4%の人が選んでいる。

全回答者1,571人から無回答者232人を除いた1,339人がつけた○の数は3,038個であり、1人平均2.27個となる。皆が2個以上を、比較的多様に選んだということであろう。

## (8) 地域全体での子育てのために、力を入れたらよいと思うこと

問 21. 地域全体で子どもたちを育てていくためには、行政や企業、学校、地域の団体（地域コミュニティ協議会、子ども会、PTAや青少年団体、子どもにかかわる活動をおこなうNPOなど）はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。（3A）



「子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」「仕事と家庭の両立ができるように支援する」ことを求めている人が多い

「子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」と答えた人（31.8%）が最も多い。次に「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」（30.1%）、「仕事と家庭の両立ができるように支援する」（29.9%）、「地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる」（25.3%）、「親や大人どうしが気軽に相談したり、交流できる場をつくる」（25.0%）の順に続く。

全回答者 1,571 人から無回答者 147 人を除いた 1,424 人がつけた○の数は 3,773 個であり、1 人平均 2.65 個となる。半数以上の人々が 3 個をあげており、いろいろと取り組んでほしいと思っていることがうかがえる。

---

### 「3. 地域の子どもたちとかかわる活動について」の総括

最近一年間に参加したことがある活動を最初に聞いているわけであるが、「参加していない」という回答者が67.6%と3分の2を占めた。子どものいる人は49.3%が参加しているが、子どものいない人は21.1%しか参加していないためである。

子どものいる人でさえ半分しか参加していない、と悲観的にみるか、子どものいない人でも5人に1人も参加している、と楽観的にみるか、その出発点の違いは政策の大きな違いに結び付くが、これらの評価検討は今後行っていくものとして、以下、全体結果の要約からもうすこし踏み込んだまとめを行う。

「(1) 最近一年間に参加したことがある活動」の内容は、「子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動」(8.5%)、「子どもたちにスポーツを教える活動」(3.9%)などの旧来からある活動形態と、「地域の人や親子がふれあい交流する活動」(8.5%)、「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」(8.0%)、「学校支援ボランティアとしての活動」(4.6%)、「一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い」(4.4%)といった、近年の社会情勢や学校教育の状況から新たに求められるようになった活動が多く、後者が一層増えていくのではないかと予想される。市周辺部で(祭りや伝統行事が保たれていて)、3世代世帯で10年程度居住する、小学生から中学生くらいの子を持つ人がもともと参加する、という平均像をさらに拡大するには、これらの活動自体を増やしていくことが必要であろう。

「(2) 活動に参加したきっかけ」では、「頼まれた」と答えた人(28.1%)が最も多く、「身近に一緒に参加する仲間やグループがあった」(15.5%)、という回答も併せて考えると、やはり人のつながりが大切ということがいえるだろう。

「(3) 今後の活動参加意向」においては、「今後も参加したいと思う」と回答した人(55.2%)が最も多く半数以上を占め、「今後は参加したいと思わない」と答えた人は4.1%に留まっている。「わからない」(22.2%)、「不明・無回答」(18.5%)の人がかなり多いのであるから、この層に対してどのように働きかけるのかを考えていかなければならない。

そのことの手助けとなるのが、「(4) 活動に参加したいと思う理由」であるが、「参加した大人どうしで人間関係が広がった」と答えた人(52.7%)が最も多く半数を超し、次に「子どもたちとの活動が楽しかった」(39.1%)となっている。(2)に引き続き、人のつながりが求められていると言えるだろう。

逆に「(5) 活動に参加したいと思わない理由」では、そもそも回答者・回答率が21名・4.1%と少ないので、「家庭における時間的なゆとりがない」と答えた人(47.6%)が最も多いことについて、どの程度の対策をとるべきか考えどころである。

むしろ(6) 活動に参加していない理由を考えることが有用であり、「身近に活動に関する情報がない」(32.0%)ということへの対応が求められる。

また「(7) 今後、参加してみたい活動」で、様々なものが選ばれていることも考慮すべきことである。最も多い「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」でも21.6%しかないが、最も少ない「子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動」でも7.4%の人が選んでいることから、アンケート項目に例示したものは何かしら、誰かしら、やってみたい活動と考えられる。

---



---

「(8)地域全体での子育てのために、力を入れたらよいと思うこと」でも、「子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」(31.8%)、「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」(30.1%)、「仕事と家庭の両立ができるように支援する」(29.9%)から、最も少ない「地域の課題に応じた情報収集をおこない、その情報を提供する」でも7.4%の人が選んでいる。

地域の子どもたちとかかわる活動については、内容的により一層多様に取り組むことが求められているし、また、それらの活動への参加意欲も広く存在している。活動の幅を広げたり種類を増やしたり量を拡大したりしても、広報活動の充実や人と人とのつながりを大切にすることがうまくいけばより多くの人々が参加して、それらの活動を支えていくことが期待される。

---

## 4. 自由記述（概略）

本調査における自由記述には、313人から意見があった。これは回答者全体1,571人に対し約2割である。

内容で分けると最も多く寄せられたのは、『親（大人）の教育力』『大人のマナー』に関する意見であった。（計60件）。以下、『子どもの遊び場・子どもの様子』（43件）、『親の時間・ゆとり』（35件）、『核家族化・近所・親同士のつきあい』（32件）の順であった。（件数は一部重複させている。）

『親（大人）の教育力』については、「学校や他人任せにしている」「注意しない大人が多い」、『大人のマナー』については、「親を含めた大人が子どもの手本になっていない」などの意見があげられている。

『子どもの遊び場・子どもの様子』については、「子どもの姿を見ない」「もっと外で遊ぶようになることを望む」意見と「遊び場が少ない」「サッカーなどができる遊び場、公園の整備や充実」などがあげられている。

『親の時間・ゆとり』については、「共働き家庭、ひとり親家庭の増加、労働時間が長いことなど仕事との両立の大変さ」「大人社会全体の精神的、経済的なゆとりのなさ」などの意見があげられている。

『核家族化・近所・親同士のつきあい』については、「子どもが少なく大人同士の交流も不足している」「地域への関心が低く希薄である」などの意見があげられている。

内容については、以下の15項目に分類して一部抜粋し記載する。

1. 親（大人）の教育力に関すること
  2. 大人のマナーに関すること
  3. 親の時間・ゆとりに関すること
  4. 親子の関係・コミュニケーションに関すること
  5. 地域全体で子どもを育てることに関すること
  6. 核家族化・近所・親同士のつきあいに関すること
  7. 安心・安全に関すること
  8. 住民どうしのつながりに関すること
  9. 子どもの遊び場・様子に関すること
  10. 地域の子どものと接する機会に関すること
  11. 体験に関すること
  12. 地域の文化・歴史に関すること
  13. 地域活動への参加に関すること
  14. 自治会・子ども会活動などに関すること
  15. 行政や企業、学校、地域の団体への要望など
-

### Ⅲ. 自由記述

---

## 1. 親（大人）の教育力に関すること

- ・義務を果たしていない大人が多い。他人任せにしている親が多い。
- ・子どものことより、自分のことを優先する親が増えている。
- ・親は過保護にならず、社会生活に必要なルール、マナーを家庭内で指導する必要がある。
- ・親が自覚を持ってしっかりと家庭教育をすべきである。
- ・親が子育てについてきちんと学ぶ機会が必要。
- ・保護者の意識・認識が同じ事が望ましい。地域性もあるので学習会などに積極的に参加すると良い。
- ・親も子もコミュニケーション能力の低下が心配。関わる大切さ、育児は親だけではできない。
- ・親がしっかりしていれば子どもは自然に良くなる。
- ・悪い事は悪い、良い事は良いとはっきりとした判断を大人が見せる。
- ・マナー、ルールを守っていない子どもを注意しない大人が多い。
- ・子どもは、親、大人の真似で日々成長する。よい手本になるように、2度ない人生「楽しみながら」子育てをしてほしい。

## 2. 大人のマナーに関すること

- ・子どもの教育以前に大人のマナーの悪さを見直さなくてはいけない。
- ・大人自体が幼稚化し子どもの手本になっていない。
- ・東京から来たが、新潟は社会生活のルールやマナーが悪いと思う。
- ・犬の散歩をしていると、ときには道路に大きな糞が捨てたままになっている。
- ・ルールを守らない親も多い。子どもは親の背中を見て育つ。
- ・新潟市は環境的にのどかで子育てには良いが、親のマナーが悪い。交流も限定的で閉鎖的。

## 3. 親の時間・ゆとりに関すること

- ・経済的に働かなくてはならず、仕事と家庭の両立が難しい。
- ・核家族化、景気低迷による賃金の減少や労働時間の長さなど、親に余裕がなくなっている。
- ・親を含む大人の社会全体が精神的、経済的にゆとりがなく子どもを育む環境が劣化してきている。社会全体の底上げがないと子どもを育む良い環境づくりは難しいと思う。
- ・仕事を持つ母として子育てを優先したいが難しい環境であると感じている。
- ・親、PTAの役割、地域が親に期待する事が多過ぎる。
- ・望む生活水準が高く、そのための労働で忙しく、ゆとりある生活ができていない。

## 4. 親子の関係・コミュニケーションに関すること

- ・親が過保護すぎる。
  - ・自分の子どもに無関心の親が多い。
  - ・子どもには個室があり家族で過ごす時間が少なく、コミュニケーション不足だと思う。
  - ・親と子の関係が濃過ぎる。自分の子ども以外にも関心を持てる機会があると良い。
  - ・大人の好みの子どもにしてはいけない。
  - ・親はもっと子どもを信用する。出来ることを出来ない子に育てているのは親自身。
  - ・テレビを見ないで今日一日の話をして夕食を取ることは必要だと思う。
  - ・子どもたちも塾、部活などで忙しく家族で過ごす時間が少ない。
-

---

## 5. 地域全体で子どもを育てることにすること

- ・子どもは、親、地域で協力して育てていくもの。子どもも地域と触れ合ってたくさん経験してより人間として成長できる。
- ・子どもがよい事をすれば誉め、悪いことをすれば叱る。普通のことを大人がすればいい環境が出来る。
- ・地域全体で子どもの成長を見守って声を掛けてあげられたらいい。
- ・家族同士が互いに子どもを預かってもらえる関係が地域にあるといい。
- ・部活動を支援していると、チーム全体の子どもの世話をしたり成長を見守ったりしている。
- ・親の目から見る子どもも大事だが、周囲の意見を聞き入れ、受け止めることも必要。
- ・子育てを終え、気持ちにゆとりが出来た年齢だからこそ提案できることもある。
- ・学校・家庭・地域において、子どもは人として平等であり人権を尊重しなければならない。
- ・世の中全体で考え方を直さなければいけない。家庭、地域ももっとしっかりするべき。
- ・大人たちが子どもをしっかりと見守らなければと改めて思った。
- ・集団活動を通して地域社会のためになる人間に育てることが、地域社会に住んでいる大人の義務。

## 6. 核家族化・近所・親同士のつきあいに関すること

- ・家庭の中で子どもをより良く育てるためには、親が地域の中で孤立しないことが大切。
  - ・核家族化、都市化による人との交流不足で地域で育みづらい環境になっている。
  - ・地域で子育てすることは大切だが、アパート、マンションが多く新たなネットワークは難しい。
  - ・子どもが少なく、親が働いている家がほとんどで大人同士の交流がない。休日は家族で外出することが多く地域の方と顔を合わせる事がない。
  - ・町内での交流があれば良いと思うが、自分から言い出すのも気が引ける。
  - ・大家族時代にあった良い面（祖父母が持っていた子育ての知恵、高齢者への思いやりなど）が子どもの周りから消えてしまった。
  - ・昔ながらの地域環境、役割を求める事は難しい。
  - ・昔の良さ、今の良さを踏まえて時代に沿った、過ごしやすい地域を期待する。
  - ・自分自身が地域の問題などに関心が低い事に気付いた。今後は少しでも地域との関わりを持つ努力をしたい。
  - ・1、2時間でも赤ちゃんと離れるだけでお母さんたちは楽になれる。
  - ・核家族が多く、親も子どもも集団で育つことが大事だと分からない。
  - ・高齢者との関わりで子どもが身に付けることもある。
  - ・近所が心配し合い年齢を超えた付き合いが出来るといい。
  - ・世代を問わず集える場、誰でも気軽に寄れる憩いの場所、施設が近くにあるといい。
  - ・地域の子どもの出来ることがあればと、若い人と交流を持つよう努力している。
-

---

## 7. 安心・安全に関すること

- ・ 安心、安全な地域社会を住民自身が築く気持ちが大切。そこから輪が広がり助け合う。
- ・ 治安が悪いと親も他人も強く警戒する。治安の改善が当面の課題。
- ・ 知らない人＝不審者という意識が子どもにあるのは仕方ない。まずは大人から挨拶をし、顔を覚えてもらうよう歩み寄って行くことは大切。
- ・ 通学の際、安全を見守るボランティアが少ない。
- ・ 幼い子どもだけで公園に行ったらしゃいと言えなくなってきた。
- ・ 子どもが安全で住みよい環境の中で健やかに生活できるようにするのは大人の責任である。

## 8. 住民どうしのつながりに関すること

- ・ 横のつながりはとても大切に思うので、時には何か一つになれるものがあるといい。
- ・ 周りの人たちを気遣ったり気軽に声を掛け合ったりできる環境づくりが重要。
- ・ 学校のグラウンドで誰でも参加出来る恒例イベントがあれば、親同士も顔見知りになれ楽しめる。
- ・ 子どものつながり→親のつながり→地域のつながりへと発展する。
- ・ 人とかかわる事が楽しいと思える場がたくさんあると良い。
- ・ みんなが集まる、遊ぶ場所があれば自然とつながりが出来てくる。
- ・ かしこまった交流の場より遊びを通して交流が進むような環境をつくる。
- ・ 地域と関わっていくにはまず挨拶が出来ることだと思う。
- ・ 近所の年上の人から教えられたことの大事さを感じる。地域の中で交流出来る場は必要。
- ・ 親同士、地域の人たちどうしのコミュニケーションがないと子どもにも目が行き届かない。
- ・ 地域の自治会で結成されたよさこいチームで、地域の子ども、大人の人達と関わり楽しく活動している。顔の分かる人が地域に増えると明るく楽しくなってくる。

## 9. 子どもの遊び場・様子に関すること

- ・ 子どもが遊ぶ場が少ない。
  - ・ のびのびと遊べる場所をつくってやりたい。
  - ・ 子どもが集まる場所をつくり大人が余り手を出さない。子どもだけの組織の中で人間関係は育まれる。
  - ・ 学校の校庭などで自由に遊べる雰囲気がない。
  - ・ 中学生が体を使って遊ぶ場所がない。ボールを投げたり蹴ったりする場所が少ない。
  - ・ 子どもたちは塾や習い事に忙し過ぎて遊ぶ暇がない。
  - ・ 学校から帰って来た子どもの遊ぶ姿が全く見えない。公園で遊ぶ児童をほとんど見かけない。
  - ・ 家の前の道路で同じ友達とだけ遊ぶ姿が気になる。車の通りが激しく、事故に合わないか心配。
  - ・ ゲームやネットなどに依存せず、外に出て遊ぶようになればと思う。
  - ・ 今も昔も子どもは外で遊ぶことが好きだし、子ども同士で遊ぶのも好き。もっと外遊びをさせてあげてを親自身が自覚を持たなければと思う。
  - ・ 公園や空き地で子どもたちだけでコミュニケーションが取れる地域社会であればいい。
  - ・ 安心、安全な公園が少ない。あったとしても車でわざわざ行かなくてはならない。
  - ・ 一人一人が個性ある人間になってほしい。
  - ・ 子どもがいじめや悩みで一人苦しむことがないよう、心も体も健康でいてほしい。
-

---

## 10. 地域の子どもと接する機会に関すること

- ・ 地区全体が子育て期を終えると近所から一斉に子どもがいなくなり、どのように関わればいいのか分からない。
- ・ 子どもがいなくて働いていると学校行事も分からず興味がないわけではないが関わるのが全くない。
- ・ 毎月1～2回、学校便りやPTA便りが届き、良い事と思っている。
- ・ 通学時に戸外で会って挨拶をする子を見ると、とてもうれしい。
- ・ 子どもには「照れ」がある。親ではない分、子どもの立場にも立てるので「挨拶しない子」と誤解しないように見ることができる。
- ・ 「子どもを注意すると親に恨まれる」「子どもは知らない人に声を掛けられたら無視する、逃げる」という時世。注意できないのも現状。
- ・ 大人が子どもに気を使い過ぎている。親でなくても大人として言わなければならないことは言おうと思う。
- ・ 自分の子どもが他人から注意や指導を受けたら親として感謝し、恨んだり拒否したりするべきではないと思う。
- ・ 子ども心に届くような愛情を掛けることが大切だと思う。
- ・ その子のためを思って接することが大事なことだと思う。
- ・ 子どもが、家族や先生、地域の人達にいつも自分は見守られていると感じることができるといい。

## 11. 体験に関すること

- ・ 小学生から大学生まで、小さい子どもに触れるなどの実体験が乏しい。
- ・ 今の子どもは生活体験がなさすぎる。面倒でも年齢に応じた手伝いをきちんとさせる。
- ・ 小さい頃から、いろいろな人と触れ合い（人種、ハンディキャップ）感情を豊かにする。
- ・ キャンプなどの自然に親しむ機会を積極的につくる。
- ・ 子どもを守るばかりでなく、子ども自身が普段の生活を通して「五感」を鍛える事が出来ればと思う。
- ・ 自然の中で体を使って自分で工夫して色々な体験をしてほしい。
- ・ 人との接し方、食べ物に対する事など料理教室では体験を通じて人々が交流することができる。

## 12. 地域の文化・歴史に関すること

- ・ 自分の生まれ育った土地を誇りに思えるような活動があるといい。
  - ・ 住んでいる地域の個性を理解し、誇りと愛着を持つことで将来、自発的に地域の為に貢献しようという気持ちを育むことが出来ると思う。
-

---

### 13. 地域活動への参加に関すること

- ・ 日頃の生活にゆとりがないと実行は難しい。
- ・ 学校の役員や地域の役員に選ばれると、仕事をしながら、家庭との両立で荷が重い。
- ・ 子どもがいないため積極的に考えていないが、ボランティア団体としてスポーツ支援などで活動している。地域の方々とも協力しながら今後も活動していきたい。
- ・ 子どもも塾や部活などで忙しく、家族で過ごす時間も少ないのに、地域への参加は難しい。
- ・ 親と一緒に地域活動に参加していけば子どもは安心して社会に出ていける。
- ・ P T Aの役員になり、役員が面倒などの理由で参加しない人の多さに気付いた。参加して地域の人とのつながりや色々な体験が出来てよかった。
- ・ 地域全体での大人同士の人間関係が必要。そのためにも地域の活動にはこれからも参加していきたい。
- ・ 今回のアンケートをきっかけに何か手伝う事があったら参加していきたい。
- ・ 童謡、叙情歌を歌うサークルを作っている。子どもと、楽しく歌い、心に残る歌を伝えられたらいい。
- ・ 保育園や小学校などの行事に親や地域の人に参加出来る機会を増やす。
- ・ どのように参加したらよいか分からない人も多いと思う。子どもと触れ合うようなグループや、行事、機会を作って大人を引っ張り出す。

### 14. 自治会・子ども会活動などに関すること

- ・ 地域の自治会などで行っている通学時の支援活動は働いていると負担。
  - ・ 自治会の行事なども親子で参加という行事が多くなった。休日が合わなく参加しづらい人もいる。
  - ・ 子ども会などで高学年の子どもが主体となり行事を企画運営するような場面が減ったと思う。
  - ・ 子ども会のような地域の活動が少ない。地域の大人はもっと子どもと関わっていかなければと思う。
  - ・ 子ども会活動は、親も休みを返上して活動するのは大変だが、子どもには良い思い出になる。
  - ・ リーダーシップを持ってやる方がいない。
  - ・ 子どもが少なく何を行うにしても盛り上がらない。
  - ・ 地域でキャンプなどに行くことで、近所と顔なじみになり安心した地域づくりが出来ていくと思う。
-



---

## 15. 行政や企業、学校、地域の団体への要望など

### 行政に関すること

- ・新潟市はもっと子ども、育児をする親、教育の場にお金をかける。国が駄目なら新潟市から発信する。
- ・若い世代や子どもが少なく、地域に活気がなくなっている。子どもを増やす支援が必要だと思う。
- ・思うように保育園に子どもを入れられない。働く母親が安心して預けられる環境づくりをしてもらいたい。
- ・保育園には日曜保育があるが小学校になく日曜・祝日に子どもを見る人がおらず、働く事ができない。
- ・子ども医療費助成の所得制限を撤廃する。予防接種の自己負担額を軽減して健康な子どもや病気予防意識の高い親が増えてほしい。
- ・家庭における教育について学習の場・機会をもっと設けてほしい。
- ・思いっきり遊べる場所をたくさんつくってほしい。
- ・大きい子と小さい子が危険のない様にそれぞれ遊べる施設を望む。
- ・自然の中で季節を感じながら体を動かし楽しめる公園づくりをしてほしい。
- ・公園を管理運営するサークルなどを各地域でつくり管理運営を委託するなど、安心して遊べる環境づくりに目を向ける。
- ・行政は地域の実情に合わせた支援を。形ばかりやりましたというものが目立つ。
- ・個々の家庭に深入りはできないが、自治会には、ある程度の情報提供をして子育て世帯を地域で支えるとよい。
- ・行政が親子の交流の場を積極的に提供することは必要。
- ・社会は多様な価値観を持った人々が生きていることを子どもが学ぶためにも、地域の人々と子どもを結び付ける施策が必要。
- ・合併で行政区域が大きくなり、地域そのものを知らない子どもが多い。区単位で地域を知る親子の会などを年2～3回開催し、地域の歴史や産物など勉強しあうことも必要。
- ・公民館は地域の活動に積極的に手を貸して子どもとの関わりを増やすようにする。
- ・公民館や公共施設でのサークル活動や悩み相談などの情報が送られてくると気軽に申し込める。
- ・経済的事情で習い事や塾に通えない子どももいる。学習を見るボランティアや、体操、水泳、絵画、料理、ピアノ、英語などを学べるための援助があるといい。
- ・反抗期、思春期など具体的な悩みについて専門知識のある方に相談できる所があるといい。

### 企業に関すること

- ・仕事を持っていると地域行事には参加しづらい。企業などの理解が必要だと思う。
  - ・会社の地域ごとに保育施設があるなど、共働きしやすい環境づくりをするといい。
  - ・有給休暇を子育てで優先的に取れるような社会づくりも必要。
  - ・親が働く姿を子どもが見学する事も考えてみてはどうか。
-

---

## 学校に関すること

- ・ 今一度、学校単位での活動を見直してみてもいい。家庭と学校の小さな所から地域を変えていく。
- ・ マンモス校では、子どもの顔や名前を覚えることが出来ない。スリム化すると地域で何かを起こすことが出来るのでは。
- ・ 先生たちが、放課後のスポーツ活動などの指導に参加しないと、子どもの心に入り込めない。
- ・ 親はもっと学校や教師を信頼し、学校は親に自信や責任、勇気を与える。
- ・ 学校はマスコミやモンスターペアレントに過敏にならず本来の教育現場としての使命感、愛情を持って厳しく導いていくべき。
- ・ 学校教育の場で本腰を入れて心の教育を進めてほしい。

## 地域の団体に関すること

- ・ 子ども会がうまく活動できるように考えてもらいたい。
- ・ 自治会などで子どもと大人が交流出来る機会を多くつくる。
- ・ 元気な高齢者に通学時の見守りをしてもらえると、子どもにも思いやりの心が生まれると思う。
- ・ 自治会館などを利用して親子で参加出来る映写会を開く。

## 連携に関すること

- ・ 地域ごとに統一したグループなどの組織をつくり連携して育成に努める。
- ・ 学校や地域が抱える問題を共有して、共に解決していける方法を考える情報が欲しい。
- ・ 学校での課外授業、部活などは教育の一環として学校側でやり、地域で支援したら良い。
- ・ 学校と市が連携して不審者情報やインフルエンザなどによる情報をメール配信してほしい。
- ・ 家庭や地域は学校の教育現場にもっと関心を持ち、参加しサポートしていく姿勢が必要。
- ・ 子どもだけでも通える範囲で無料の室内施設があれば、休日には親もついていく。体験教室なども定期的に行い、市と民間で共同運営出来たら活気ある町になる。
- ・ 少子化と地域のつながりが薄くなっていることを解決していくには、行政、地域、その他の協力、連携が不可欠だと思う。

## その他、全般に関すること

- ・ 行政・企業が残業を廃止させ、親子がコミュニケーションを取れるようにしてほしい。
- ・ 地域の子どもの地域の高齢者などに面倒を見てもらうような施設や制度があればと思う。
- ・ 地域で活躍するトップマンを招き、感動と高い目標を実感してもらえれば知育は広がる。
- ・ 見識者と当事者（問題をかかえた家族など）を含め、幅広く議論する場を設定する。
- ・ 地域のサポーターとして団塊の世代層の活用は新たな力になる。
- ・ 子どもへの虐待も、周囲の大人、市、県で防止に努めるべき。

※以上、一部抜粋

---

## IV. 全体結果数表

問1.あなたは、子どもたちが家庭において身につける力として特に大切なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	基本的な生活習慣を身につける	自分にできることは自分でする力を身につける	我慢する力を身につける	命やもの、自然環境を大切にすることを育む	他人に対する思いやりの心を育む	自分を大切にすることを育む	好き嫌いのない食事をし健康な体づくりをおこなう	正しい言葉づかいを身につける
全体	1,571 100.0	862 54.9	306 19.5	335 21.3	353 22.5	614 39.1	106 6.7	236 15.0	123 7.8

	良いことと悪いことを判断する力を身につける	社会生活に必要なルールやマナーを身につける	家族を大切にし家族の一員としての役割を果たす	いろいろな立場の人を受け入れる心を育む	地域の文化・歴史等を大切にすることを育む	知識・理解を深める学習への関心を高める	その他	無回答
	756 48.1	527 33.5	276 17.6	77 4.9	17 1.1	52 3.3	8 0.5	15 1.0

問2.今の家庭の教育力は、ご自身の子どもの時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	合計	低下したと思う	ある程度低下したと思う	どちらともいえない	あまり低下したと思わない	低下したと思わない	わからない	無回答
全体	1,571 100.0	483 30.7	453 28.8	296 18.8	132 8.4	109 6.9	74 4.7	24 1.5

問3.問2で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にうかがいます。「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている	過保護、過干渉な親が増えている	しつけや教育の仕方がわからない親が増えている	しつけや教育への親の関心が低くなっている	教育方針を持たない親が増えている	しつけや教育を学校などの教育機関に依存している	親子でともに過ごす時間が減少している	子どもたちが親以外の大人と交流する機会が減少している
全体	936 100.0	382 40.8	497 53.1	438 46.8	133 14.2	46 4.9	418 44.7	187 20.0	197 21.0

	生活様式が変化し、子どもたちが家の手伝いをする機会が減少している	テレビや雑誌などが子どもたちに悪く影響している	その他	無回答
	208 22.2	179 19.1	22 2.4	7 0.7

問4.ご自身の子ども時代と比べて、今の子育ての状況はどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	合計	困難になっていると思う	ある程度困難になっていると思う	どちらともいえない	あまり困難になっていないと思わない	困難になっていないと思わない	わからない	無回答
全体	1,571 100.0	365 23.2	658 41.9	223 14.2	142 9.0	98 6.2	45 2.9	40 2.6

問5.問4で、「1 困難になっていると思う」「2 ある程度困難になっていると思う」とお答えの方にうかがいます。「困難になっていると思う」「ある程度困難になっていると思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	子育てについて身近な相談相手がいない	子育てについて学習する機会や情報が不足している	自分の子どもが生まれる以前に、子どもの面倒を見る経験が不足している	子育てにかかる費用が増加している	子育てについて親戚や近所の人などの協力を得にくくなっている	親が人とかわるこゝろがうまくできず子育てに関する支援が届きにくい	仕事と家庭の両立が難しくなっている	親が就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている
全体	1,023 100.0	278 27.2	71 6.9	205 20.0	465 45.5	321 31.4	216 21.1	325 31.8	448 43.8

	安全に対する不安が増大している	親子で生活様式や考え方に違いがある	子育てについての情報が多過ぎる	その他	無回答
	267 26.1	83 8.1	71 6.9	37 3.6	35 3.4

問6.あなたは、家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について、どのようなものをご存知ですか。知っているものの番号に、いくつでも○をつけてください。

	合計	地域保健福祉センターでおこなう子育てに関する情報提供や相談サービス	地域子育て支援センターでおこなう育児相談や育児講座	区役所でおこなうひとり親・家庭児童相談サービス	教育相談センターや青少年育成センターによる相談サービス	公民館でおこなう乳児期から思春期までの家庭教育学級	公民館でおこなう親子の交流の場(子育てサロンなど)	出産前の親を対象とした子育てに関する学習会	父親の子育て支援に関する学習会や交流会
全体	1,571 100.0	494 31.4	633 40.3	302 19.2	336 21.4	242 15.4	535 34.1	519 33.0	195 12.4

	就学時健診等を活用した子育て学習の出前講座	学校や地域で開催する朝ごはん料理講習会	体育施設などでの親子教室	図書館での読み聞かせ、おはなし会	児童館、児童センターや保育園の園庭開放	子育て応援パンフレット「スキップ」	その他	無回答
	134 8.5	71 4.5	432 27.5	742 47.2	379 24.1	302 19.2	78 5.0	252 16.0

問7.あなたは、普段、生活をしている地域社会において子どもたちが身につける力として特に大切なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	基本的な生活習慣を身につける	自分にできることは自分でする力を身につける	我慢する力を身につける	命やもの、自然環境を大切にすることを育む	他人に対する思いやりの心を育む	自分を大切にする心を育む	好き嫌いのない食事をし健康な体づくりをおこなう	正しい言葉づかいを身につける
全体	1,571 100.0	359 22.9	187 11.9	285 18.1	512 32.6	792 50.4	50 3.2	52 3.3	207 13.2

良いことと悪いことを判断する力を身につける	社会生活に必要なルールやマナーを身につける	家族を大切にし家族の一員としての役割を果たす	いろいろな立場の人を受け入れる心を育む	地域の文化・歴史等を大切にすることを育む	知識・理解を深める学習への関心を高める	その他	無回答
552 35.1	955 60.8	74 4.7	325 20.7	180 11.5	61 3.9	8 0.5	17 1.1

問8.地域全体で子どもたちを育て守る雰囲気やしくみは、現在、ご自身の子ども時代と比べてどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	合計	低下したと思う	ある程度低下したと思う	どちらともいえない	あまり低下したと思わない	低下したと思わない	わからない	無回答
全体	1,571 100.0	407 25.9	475 30.2	332 21.1	152 9.7	100 6.4	82 5.2	23 1.5

問9.問8で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にうかがいます。「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	マンションやアパートなどが増え、居住形態が都市化している	人間関係が限定的になっている	地域行事が減るなど、近所の人々の親交を深める機会が不足している	転勤・転入世帯の増加により、居住地に対する親近感が希薄化している	個人主義が浸透してきている	地域が安全でなくなり、他人との交流に対する抵抗が増している	近所の人たちの連帯感を培うリーダーが不足している	人々の行動範囲が広域化している
全体	882 100.0	231 26.2	399 45.2	285 32.3	80 9.1	411 46.6	141 16.0	127 14.4	43 4.9

親や大人の労働時間が長くなってきている	近所に子どもたちが少なくなっている	携帯電話やパソコンの普及で近所の人との繋がりが弱くなっている	その他	無回答
138 15.6	341 38.7	302 34.2	19 2.2	11 1.2

問 10.あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。もっともあてはまるものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	合計	となり近所の人たち	親戚の人たち	昔からの友人やその家族	地域コミュニティ協議会などの活動で知り合った人たち	自分の習い事や趣味のサークル・学習活動で知り合った人たち	スポーツ活動で知り合った人たち	子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち	子ども会、青少年団体などの活動を通じて知り合った人たち
全体	1,571 100.0	456 29.0	147 9.4	264 16.8	26 1.7	111 7.1	59 3.8	187 11.9	11 0.7

ボランティア活動などで知り合った人たち	近所での買い物や通院、ペットの散歩などで知り合った人たち	交流していない	その他	無回答
18 1.1	26 1.7	146 9.3	26 1.7	94 6.0

問 11.あなたは、あなたが住んでいる地域で、住民どうしのつながりが深まるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	あいさつがよくおこなわれること	地域のなかで、行事がたくさんあること	日常的に集まることのできる集会施設があること	自治会、子ども会やPTAなど、地域で活動する団体が多いこと	地域の中で気軽に相談できる人がいること	子どもたちが遊べる場所が多いこと	地域の人々の要求に応じた学習機会があること	学校の活動に、地域の人々が参加していること
全体	1,571 100.0	1,213 77.2	302 19.2	281 17.9	240 15.3	451 28.7	556 35.4	116 7.4	244 15.5

子どもたちと地域の大人が一緒に活動する機会があること	その他	無回答
678 43.2	36 2.3	35 2.2

問12.あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもの様子について、どのようだと感じていますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	子どもどうして仲良く遊んでいる	家の手伝いをよくしている	高齢者や年少の子どもたち、困っている人に優しく接している	礼儀正しく社会のルールを守っている	スポーツ活動などでよく身体を動かしている	地域の活動に積極的に参加している	マナーが良くない	大人の注意を聞き入れない
全体	1,571 100.0	659 41.9	61 3.9	53 3.4	181 11.5	375 23.9	178 11.3	293 18.7	122 7.8

言葉づかいが荒れている	服装がみだれている	まわりに合わせて同じような行動をとりたがる	子どもの姿をみかけない	地域の子どものたちに関心がないのでわからない	その他	無回答
182 11.6	72 4.6	269 17.1	615 39.1	150 9.5	124 7.9	39 2.5

問13.あなたが住んでいる地域で、子どもたちはおもにどこで遊んでいますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	空き地や原っぱ	公園や整備された広場	地域の中の自然のあるところ(田んぼや畑、海、山、川など)	放課後や週末の学校	塾やその周辺	家の前の道路	家の中	駄菓子屋
全体	1,571 100.0	158 10.1	744 47.4	65 4.1	248 15.8	108 6.9	666 42.4	845 53.8	22 1.4

コンビニエンスストアやその周辺	ゲームセンター	ショッピングモールやショッピングセンター、スーパーマーケット	カラオケ店やマンガ喫茶	公民館や児童館など公共の施設	その他	無回答
84 5.3	74 4.7	158 10.1	16 1.0	134 8.5	127 8.1	58 3.7



問 14.あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちと、普段どのように接していますか。①～⑥のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

① 悪いことをしたとき、しかったり注意したりする

	合計	積極的にしている	ときどきしている	あまりして いない	まったく していない	無回答
全体	1,571 100.0	146 9.3	403 25.7	383 24.4	417 26.5	222 14.1

② 良いことをしたとき、ほめる

	合計	積極的にしている	ときどきしている	あまりして いない	まったく していない	無回答
全体	1,571 100.0	274 17.4	391 24.9	307 19.5	356 22.7	243 15.5

③ 危険な行動をみたとき、注意する

	合計	積極的にしている	ときどきしている	あまりして いない	まったく していない	無回答
全体	1,571 100.0	385 24.5	454 28.9	246 15.7	265 16.9	221 14.1

④ 道であったとき、あいさつする

	合計	積極的にしている	ときどきしている	あまりして いない	まったく していない	無回答
全体	1,571 100.0	481 30.6	549 34.9	196 12.5	202 12.9	143 9.1

⑤ 様子が気になったとき、声をかける

	合計	積極的にしている	ときどきしている	あまりして いない	まったく していない	無回答
全体	1,571 100.0	203 12.9	346 22.0	387 24.6	394 25.1	241 15.3

⑥ 困っているとき、相談にのる

	合計	積極的にしている	ときどきしている	あまりして いない	まったく していない	無回答
全体	1,571 100.0	100 6.4	180 11.5	388 24.7	644 41.0	259 16.5

問 15.あなたは、次のような地域の子どもたちとかかわる活動に参加したことがありますか。最近一年間に参加したことがある活動がありましたら、あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

	合計	子どもたちにスポーツを教える活動	子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動	一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い	読書や読み聞かせなどの活動	子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動	子どもたちが職業体験をすることを手伝う活動	子どもたちが年少者や高齢者とふれあう体験をする活動	学校支援ボランティアとしての活動
全体	1,571 100.0	61 3.9	134 8.5	69 4.4	30 1.9	20 1.3	29 1.8	30 1.9	73 4.6

子どもたちの学習を支援する活動	地域の人や親子がふれあい交流する活動	子どもたちが自然体験をすることを手伝う活動	子どもたちの通学時の見守りなどの活動	子どもたちのための遊び場づくり	その他	参加していない	無回答
18 1.1	133 8.5	38 2.4	126 8.0	17 1.1	23 1.5	1,062 67.6	70 4.5

問 16-1.問 15で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方うかがいます。(1)「最近一年間に参加したことがある」活動に参加したきっかけは何ですか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	地域で活動することに関心があった	子どもたちとかかわりたかった	子どもたちの教育や家庭教育に関心があった	子どもたちの安全を守る活動に関心があった	子どもたちの文化やスポーツに関する活動に関心があった	自分の力が活かせる活動があった	身近に一緒に参加する仲間やグループがあった	家族の理解があった
全体	509 100.0	108 21.2	67 13.2	38 7.5	51 10.0	50 9.8	38 7.5	79 15.5	37 7.3

職場の理解があった	家庭において活動に参加できる時間のゆとりがあった	職場において活動に参加できる時間のゆとりがあった	広報紙やホームページなどを見た	頼まれた	誘われた	その他	無回答
7 1.4	80 15.7	17 3.3	17 3.3	143 28.1	44 8.6	43 8.4	95 18.7

問 16-2.問 15で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方うかがいます。(2)今後も地域の子どもたちとかかわる活動に参加したいと思いますか。あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

	合計	今後も参加したいと思う	今後は参加したいと思わない	わからない	無回答
全体	509 100.0	281 55.2	21 4.1	113 22.2	94 18.5

問 17.問 16(2)で、「1 今後も参加したいと思う」と答えた方にうかがいます。「今後も参加したい」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	参加した大人どうして人間関係が広がった	参加した大人どうして人間関係が深まった	地域の子どもたちと仲良くなった	子どもたちとの活動が楽しかった	自分の成長につながった	地域の様子がよくわかるようになった	地域住民としての自覚ができた	自分の力が活かされた
全体	281 100.0	148 52.7	55 19.6	65 23.1	110 39.1	42 14.9	90 32.0	43 15.3	35 12.5

よるこばれて生きがいが増えた	新しい知識や技術などを得ることができた	健康の増進に役立った	地域の自然や歴史などを知ることができた	その他	無回答
35 12.5	14 5.0	21 7.5	9 3.2	12 4.3	1 0.4

問 18.問 16(2)で、「2 今後は参加したいと思わない」と答えた方にうかがいます。「今後は参加したいと思わない」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	子どもたちの教育に関わる必要がないと思うようになった	家庭教育は基本的に親がするべきだと思うようになった	自分の力が活かせる活動がない	身近に活動に関する情報がない	身近に一緒に参加してくれる仲間やグループがない	一人で参加する自信がない	家族の理解が得られない	職場の理解が得られない
全体	21 100.0	3 14.3	5 23.8	2 9.5	2 9.5	2 9.5	5 23.8	0 0.0	0 0.0

経済的にゆとりがない	体力的に自信がない	家庭における時間的なゆとりがない	職場における時間的なゆとりがない	やりがいや思うような成果が得られなかった	人間関係がうまくいかなかった	その他	無回答
2 9.5	5 23.8	10 47.6	2 9.5	0 0.0	1 4.8	5 23.8	0 0.0

問 19. 問 15 で、子どもたちとかかわる活動に最近一年間「15 参加していない」と答えた方にうかがいます。「参加していない」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	子どもたちの教育に関わる必要がない	家庭教育は基本的に親がするべきだと思う	自分の力が活かせる活動がない	身近に活動に関する情報がない	身近に一緒に参加してくれる仲間やグループがない	一人で参加する自信がない	家族の理解が得られない	職場の理解が得られない
全体	1,062 100.0	91 8.6	143 13.5	131 12.3	340 32.0	131 12.3	196 18.5	8 0.7	25 2.4

経済的にゆとりがない	体力的に自信がない	家庭における時間的なゆとりがない	職場における時間的なゆとりがない	関心がない	人間関係が面倒そうだと思う	その他	無回答
75 7.1	228 21.4	221 20.9	234 22.0	139 13.0	107 10.1	165 15.5	24 2.2

問20.あなたが今後、参加してみたい地域の子どもたちとかかわる活動はありますか。あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

	合計	子どもたちにスポーツを教える活動	子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動	一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い	読書や読み聞かせなどの活動	子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動	子どもたちが職業体験をすることを手伝う活動	子どもたちが年少者や高齢者とふれあう体験をする活動	学校支援ボランティアとしての活動
全体	1,571 100.0	204 13.0	229 14.6	192 12.2	185 11.8	117 7.4	221 14.1	268 17.1	213 13.6

子どもたちの学習を支援する活動	地域の人や親子がふれあい交流する活動	子どもたちが自然体験をすることを手伝う活動	子どもたちの通学時の見守りなどの活動	子どもたちのための遊び場づくり	その他	無回答
133 8.5	296 18.8	312 19.9	339 21.6	175 11.1	154 9.8	232 14.8

問21.地域全体で子どもたちを育てていくためには、行政や企業、学校、地域の団体(地域コミュニティ協議会、子ども会、PTAや青少年団体、子どもにかかわる活動をおこなうNPOなど)はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

	合計	親子で参加できる活動や体験の場を充実する	体験活動やスポーツ活動などのリーダーやボランティアを養成する	親や大人どうしが気軽に相談したり、交流できる場をつくる	地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる	仕事と家庭の両立ができるように支援する	学校支援ボランティアのように、学校の活動に地域の人に参加しやすくする	学校施設や企業所有の体育施設などを地域の人や子どもたちが利用しやすくする	「ノーテレビ・ノーゲームの日」運動など、親子がともに過ごす時間の啓発活動をおこなう
全体	1,571 100.0	473 30.1	168 10.7	392 25.0	397 25.3	470 29.9	230 14.6	260 16.5	159 10.1

子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる	乳幼児期から親子で本に親しむ環境を整える	行政、企業、学校や地域の団体と、地域の住民とのネットワークをつくる	地域の課題に応じた情報収集をおこない、その情報を提供する	地域の伝統や文化を伝える機会を提供する	地域の自然環境について学び親しむ機会を提供する	その他	無回答
499 31.8	123 7.8	168 10.7	116 7.4	151 9.6	139 8.8	28 1.8	147 9.4

問 23.性別をおこたえください

	合計	男	女	無回答
全体	1,571 100.0	631 40.2	882 56.1	58 3.7

問 24.平成22年4月1日現在の満年齢をご記入ください

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
全体	1,571 100.0	134 8.5	265 16.9	224 14.3	284 18.1	316 20.1	284 18.0	64 4.1

問 25.お住まいは何区ですか

	合計	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区
全体	1,571 100.0	139 8.8	244 15.5	330 21.0	135 8.6	133 8.5	93 5.9	310 19.7

西蒲区	無回答
130 8.3	57 3.6

問 26.あなたは、現在お住まいの地域に何年間お住まいですか。

	合計	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上 ～15年未 満	15年以上 ～20年未 満	20年以上	無回答
全体	1,571 100.0	40 2.5	107 6.8	84 5.3	147 9.4	136 8.7	133 8.5	865 55.1	59 3.8

問 27.あなたのご職業は何ですか。主なお仕事を1つだけお答えください。

	合計	(自営業) 農・林・漁 業	(自営業) 商・工・サ ービス業	(自営業) 自由業	(家族従業 者)農・林・ 漁業	(家族従業 者)商・工・ サービス業	(家族従業 者)自由業	(勤め人) 管理職	(勤め人) 事務職・専 門技術職
全体	1,571 100.0	36 2.3	100 6.4	27 1.7	7 0.4	12 0.8	6 0.4	92 5.9	324 20.6

(勤め人) 技能・労務 職	(無職)主 婦・主夫	(無職)学 生	(無職)そ の他	無回答
235 15.0	448 28.5	23 1.5	197 12.5	64 4.1

問 28.あなたの世帯の家族構成は、次のうちどれですか。

	合計	ひとり暮ら し	夫婦のみ	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と 孫)	その他	無回答
全体	1,571 100.0	124 7.9	337 21.5	718 45.7	285 18.1	52 3.3	55 3.5

問 29.あなたは、現在、0歳～中学生までのお子さんをお持ちですか。

	合計	いる	いない	無回答
全体	1,571 100.0	394 25.1	1,120 71.3	57 3.6

## V. 調查票





問3 **問2で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にはうかがいます。**「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を**3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 核家族化や少子化により家族間の関わりが少なくなっている
- 2 過保護、過干渉な親が増えている
- 3 しつけや教育の仕方がわからない親が増えている
- 4 しつけや教育への親の関心が低くなっている
- 5 教育方針を持たない親が増えている
- 6 しつけや教育を学校などの教育機関に依存している
- 7 親子でともに過ごす時間が減少している
- 8 子どもたちが親以外の大人と交流する機会が減少している
- 9 生活様式が変化し、子どもたちが家の手伝いをする機会が減少している
- 10 テレビや雑誌などが子どもたちに悪く影響している
- 11 その他 ( )

問4 ご自身の子ども時代と比べて、今の子育ての状況はどのようだと思いますか。あなたのお考えにちかいものを**1つだけ選び**、その番号に○をつけてください。

- |  |     |                            |
|--|-----|----------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 困難になっていると思う</li><li>2 ある程度困難になっていると思う</li><li>3 どちらともいえない</li><li>4 あまり困難になっていると思わない</li><li>5 困難になっていると思わない</li><li>6 わからない</li></ol> | } → | 1~2 を選択された方は問5、問6へお進みください。 |
| <ol style="list-style-type: none"><li>4 あまり困難になっていると思わない</li><li>5 困難になっていると思わない</li><li>6 わからない</li></ol>   | } → | 3~6 を選択された方は問6へお進みください。    |

問5 **問4で、「1 困難になっていると思う」「2 ある程度困難になっていると思う」とお答えの方にうかがいます。「困難になっていると思う」「ある程度困難になっていると思う」理由を3つまで選び、その番号に○をつけてください。**

- 1 子育てについて身近な相談相手がいない
- 2 子育てについて学習する機会や情報が不足している
- 3 自分の子どもが生まれる以前に、子どもの面倒を見る経験が不足している
- 4 子育てにかかる費用が増加している
- 5 子育てについて親戚や近所の人などの協力を得にくくなっている
- 6 親が人とかかわることがうまくできず子育てに関する支援が届きにくい
- 7 仕事と家庭の両立が難しくなっている
- 8 親が就労などで子どもと過ごす時間が少なくなっている
- 9 安全に対する不安が増大している
- 10 親子で生活様式や考え方に違いがある
- 11 子育てについての情報が多過ぎる
- 12 その他 ( )

問6 あなたは、家庭教育を支援するために新潟市がおこなっている施策について、どのようなものをご存知ですか。知っているものの番号に、**いくつでも**○をつけてください。

- 1 地域保健福祉センターでおこなう子育てに関する情報提供や相談サービス
- 2 地域子育て支援センターでおこなう育児相談や育児講座
- 3 区役所でおこなうひとり親・家庭児童相談サービス
- 4 教育相談センターや青少年育成センターによる相談サービス
- 5 公民館でおこなう乳児期から思春期までの家庭教育学級
- 6 公民館でおこなう親子の交流の場（子育てサロンなど）
- 7 出産前の親を対象とした子育てに関する学習会
- 8 父親の子育て支援に関する学習会や交流会
- 9 就学時健診等を活用した子育て学習の出前講座
- 10 学校や地域で開催する朝ごはん料理講習会
- 11 体育施設などでの親子教室
- 12 図書館での読み聞かせ、おはなし会
- 13 児童館、児童センターや保育園の園庭開放
- 14 子育て応援パンフレット「スキップ」
- 15 その他 ( )



問9 **問8で、「1 低下したと思う」「2 ある程度低下したと思う」とお答えの方にかがいます。**「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」理由を**3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 マンションやアパートなどが増え、居住形態が都市化している
- 2 人間関係が限定的になっている
- 3 地域行事が減るなど、近所の人々の親交を深める機会が不足している
- 4 転勤・転入世帯の増加により、居住地に対する親近感が希薄化している
- 5 個人主義が浸透してきている
- 6 地域が安全でなくなり、他人との交流に対する抵抗が増している
- 7 近所の人たちの連帯感を培うリーダーが不足している
- 8 人々の行動範囲が広域化している
- 9 親や大人の労働時間が長くなってきている
- 10 近所に子どもたちが少なくなっている
- 11 携帯電話やパソコンの普及で近所の人との繋がりが弱くなっている
- 12 その他 ( )

問10 あなたは、あなたが住んでいる地域で、普段どのような人と交流することが多いですか。もっともあてはまるものを**1つだけ選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 となり近所の人たち
- 2 親戚の人たち
- 3 昔からの友人やその家族
- 4 地域コミュニティ協議会などの活動で知り合った人たち
- 5 自分の習い事や趣味のサークル・学習活動で知り合った人たち
- 6 スポーツ活動で知り合った人たち
- 7 子どもが通う保育園や幼稚園、学校を通じて知り合った人たち
- 8 子ども会、青少年団体などの活動を通じて知り合った人たち
- 9 ボランティア活動などで知り合った人たち
- 10 近所での買い物や通院、ペットの散歩などで知り合った人たち
- 11 交流していない
- 12 その他 ( )

問11 あなたは、あなたが住んでいる地域で、住民どうしのつながりが深まるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。あてはまるものを**3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 あいさつがよくおこなわれること
- 2 地域のなかで、行事がたくさんあること
- 3 日常的に集まることができる集会施設があること
- 4 自治会、子ども会やPTAなど、地域で活動する団体が多いこと
- 5 地域の中で気軽に相談できる人がいること
- 6 子どもたちが遊べる場所が多いこと
- 7 地域の人々の要求に応じた学習機会があること
- 8 学校の活動に、地域の人々が参加していること
- 9 子どもたちと地域の大人と一緒に活動する機会があること
- 10 その他 ( )

問12 あなたは、あなたが住んでいる地域の子どもたちの様子について、どのようだと感じていますか。あてはまるものを**3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 子どもどうしで仲良く遊んでいる
- 2 家の手伝いをよくしている
- 3 高齢者や年少の子どもたち、困っている人に優しく接している
- 4 礼儀正しく社会のルールを守っている
- 5 スポーツ活動などでよく身体を動かしている
- 6 地域の活動に積極的に参加している
- 7 マナーが良くない
- 8 大人の注意を聞き入れない
- 9 言葉づかいが荒れている
- 10 服装がみだれている
- 11 まわりに合わせて同じような行動をとりたがる
- 12 子ども姿をみかけない
- 13 地域の子どもたちに関心がないのでわからない
- 14 その他 ( )





問16 問 15 で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方にうかがいます。

(1) 「最近一年間に参加したことがある」活動に参加したきっかけは何ですか。  
あてはまるものを **3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 地域で活動することに関心があった
- 2 子どもたちとかかわりたかった
- 3 子どもたちの教育や家庭教育に関心があった
- 4 子どもたちの安全を守る活動に関心があった
- 5 子どもたちの文化やスポーツに関する活動に関心があった
- 6 自分の力が活かせる活動があった
- 7 身近に一緒に参加する仲間やグループがあった
- 8 家族の理解があった
- 9 職場の理解があった
- 10 家庭において活動に参加できる時間のゆとりがあった
- 11 職場において活動に参加できる時間のゆとりがあった
- 12 広報紙やホームページなどを見た
- 13 頼まれた
- 14 誘われた
- 15 その他 ( )

(2) 今後も地域の子どもたちとかかわる活動に参加したいと思いますか。  
あなたのお考えにちかいものを **1つだけ選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 今後も参加したいと思う → **問 17 へお進みください。**
- 2 今後は参加したいと思わない → **問 18 へお進みください。**
- 3 わからない → **問 20 へお進みください。**



問17 **問 16 (2) で、「1 今後も参加したいと思う」と答えた方にうかがいます。**

「今後も参加したい」理由として、あてはまるものを **3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 参加した大人どうしで人間関係が広がった
- 2 参加した大人どうしで人間関係が深まった
- 3 地域の子どもたちと仲良くなった
- 4 子どもたちとの活動が楽しかった
- 5 自分の成長につながった
- 6 地域の様子がよくわかるようになった
- 7 地域住民としての自覚ができた
- 8 自分の力が活かされた
- 9 よろこばれて生きがいが増えた
- 10 新しい知識や技術などを得ることができた
- 11 健康の増進に役立った
- 12 地域の自然や歴史などを知ることができた
- 13 その他 ( )

**問 20 へお進みください。**

問18 **問 16 (2) で、「2 今後は参加したいと思わない」と答えた方にうかがいます。**

「今後は参加したいと思わない」理由として、あてはまるものを **3つまで選び**、その番号に○をつけてください。

- 1 子どもたちの教育に関わる必要がないと思うようになった
- 2 家庭教育は基本的に親がすべきだと思うようになった
- 3 自分の力が活かせる活動がない
- 4 身近に活動に関する情報がない
- 5 身近に一緒に参加してくれる仲間やグループがない
- 6 一人で参加する自信がない
- 7 家族の理解が得られない
- 8 職場の理解が得られない
- 9 経済的にゆとりがない
- 10 体力的に自信がない
- 11 家庭における時間的なゆとりがない
- 12 職場における時間的なゆとりがない
- 13 やりがいや思うような成果が得られなかった
- 14 人間関係がうまくいかなかった
- 15 その他 ( )

**問 20 へお進みください。**

問19 **問 15 で、子どもたちとかかわる活動に最近一年間「15 参加していない」と答えた方  
にうかがいます。**「参加していない」理由として、あてはまるものを**3つまで選び**、その  
番号に○をつけてください。

- 1 子どもたちの教育に関わる必要がない
- 2 家庭教育は基本的に親がすべきだと思う
- 3 自分の力が活かせる活動がない
- 4 身近に活動に関する情報がない
- 5 身近に一緒に参加してくれる仲間やグループがない
- 6 一人で参加する自信がない
- 7 家族の理解が得られない
- 8 職場の理解が得られない
- 9 経済的にゆとりがない
- 10 体力的に自信がない
- 11 家庭における時間的なゆとりがない
- 12 職場における時間的なゆとりがない
- 13 関心がない
- 14 人間関係が面倒そうだと思う
- 15 その他 ( )

**問 20 へお進みください。**

**ここからは、ふたたび全員にお聞きします。**

問20 あなたが今後、参加してみたい地域の子どもたちとかかわる活動はありますか。あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

- 1 子どもたちにスポーツを教える活動
- 2 子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動
- 3 一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い
- 4 読書や読み聞かせなどの活動
- 5 子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動
- 6 子どもたちが職業体験をすることを手伝う活動
- 7 子どもたちが年少者や高齢者とふれあう体験をする活動
- 8 学校支援ボランティアとしての活動
- 9 子どもたちの学習を支援する活動
- 10 地域の人や親子がふれあい交流する活動
- 11 子どもたちが自然体験をすることを手伝う活動
- 12 子どもたちの通学時の見守りなどの活動
- 13 子どもたちのための遊び場づくり
- 14 その他 ( )



#### 4 あなた自身のことについてお聞きします。

問23 性別をおこたえください

- 1 男
- 2 女

問24 平成22年4月1日現在の満年齢をご記入ください

年齢（                    ）歳

問25 お住まいは何区ですか

- 1 北区
- 2 東区
- 3 中央区
- 4 江南区
- 5 秋葉区
- 6 南区
- 7 西区
- 8 西蒲区

問26 あなたは、現在お住まいの地域に何年間お住まいですか。

- 1 1年未満
- 2 1年以上～3年未満
- 3 3年以上～5年未満
- 4 5年以上～10年未満
- 5 10年以上～15年未満
- 6 15年以上～20年未満
- 7 20年以上

問27 あなたのご職業は何ですか。主なお仕事を1つだけお答えください。

- 1 (自営業) 農・林・漁業 (農業・林業・漁業の自営者)
- 2 (自営業) 商・工・サービス業 (小売店・飲食店・理髪店・修理店など)
- 3 (自営業) 自由業 (開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など)
- 4 (家族従業者) 農・林・漁業 (農業・林業・漁業の家業を継続的に手伝っている人)
- 5 (家族従業者) 商・工・サービス業 (商・工・サービス業の家業を継続的に手伝っている人)
- 6 (家族従業者) 自由業 (自由業の家業を継続的に手伝っている人)
- 7 (勤め人) 管理職 (民間会社・官公庁の課長職以上)
- 8 (勤め人) 事務職・専門技術職 (事務職員・教員・技術者など)
- 9 (勤め人) 技能・労務職 (技能工・販売店員・外交員など)
- 10 (無職) 主婦・主夫
- 11 (無職) 学生
- 12 (無職) その他

問28 あなたの世帯の家族構成は、次のうちのどれですか。

- 1 ひとり暮らし
- 2 夫婦のみ
- 3 2世代世帯 (親と子)
- 4 3世代世帯 (親と子と孫)
- 5 その他 (具体的に： )

問29 あなたは、現在、0歳～中学生までのお子さんをお持ちですか。

- 1 いる
- 2 いない

ご協力いただきありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて11月8日(月)までに、ご投かんくださいますようお願いいたします。

家庭と地域の教育力に関する市民意識調査結果報告書

平成 23 年 3 月発行

新潟市教育委員会 生涯学習課

新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1

〒951-8550 TEL 025-226-3221